

平成 23 年度

家庭教育実態調査

結果報告書

平成 23 年 11 月

静岡県教育委員会
社会教育課

目次

I 調査の概要	- 1 -
① 調査の目的	- 1 -
② 調査方法	- 1 -
③ 回収率	- 1 -
II 調査結果	- 3 -
問1 お子様との続柄	- 3 -
問2 回答者の現在の年齢	- 3 -
問3 家族（同居）の構成員	- 4 -
問4 通園状況	- 4 -
問5 住んでいる地域	- 5 -
問6 回答者の就業状態	- 6 -
問7 家庭教育（しつけ等）の中で、特に力を入れていること	- 7 -
問8 家庭教育（しつけ等）の状況について、思うこと	- 9 -
問9 子どもをほめること	- 13 -
問10 子どもをしかること	- 16 -
問11 子どもとのかかわり全体について、感じること	- 19 -
問12 子育てについての悩みや不安	- 30 -
問13 子育ての中で、あなたを手助けしてくれる人	- 38 -
問14 子育てについて、家族以外で話を聞いてもらえる人	- 39 -
問15 子育てについて、家族以外に相談できる人	- 49 -
問16 これから、子育てについて話を聞いてもらいたい人	- 59 -
問17 これから、子育てについて相談をしたい人	- 63 -
問18 話を聞いてもらうことや相談すること以外の、家庭教育や子育てに関する知識等を得る手段	- 67 -
問19 今後、参加したり、行ったりしたいと思うこと	- 70 -
問20 アドバイスを受けたり、学習することができる場合に希望する内容	- 75 -
III 調査票	- 77 -

I 調査の概要

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、家庭教育支援の効果的な方策について検討を進める上での参考とするため、現在小学校3年生の子どもを持つ親を対象に、家庭における教育の実態、親の意識やニーズ等を調査したものである。

2 調査方法

- (1) 調査地域 静岡県全域（全 35 市町から 24 市町を抽出）
- (2) 調査対象 小学校3年生の保護者（日ごろ家庭教育を行うことが多い保護者）
- (3) 標本数 2,380 人（35 人（1 クラス）×68 学級）
- (4) 抽出方法
 - ア 回収数を 1,900 人前後と設定し、1 学級 28 人（35 人の 80%）回収として必要な学級数（68 学級）を算出
 - イ 県全体を 7 地区に分け、地区内の市町の位置、各市町の小学生の人数分布等を考慮して、市町に割振
 - ウ 調査は 1 学校 1 学級とし、バランスを考えて学校を決定
- (5) 調査方法 選択肢方式、全 20 問
- (6) 調査期間 平成 23 年 7 月 1 日～平成 23 年 7 月 11 日

3 回収率

配布数	有効回収数	有効回収率
2,380	2,230	93.7%

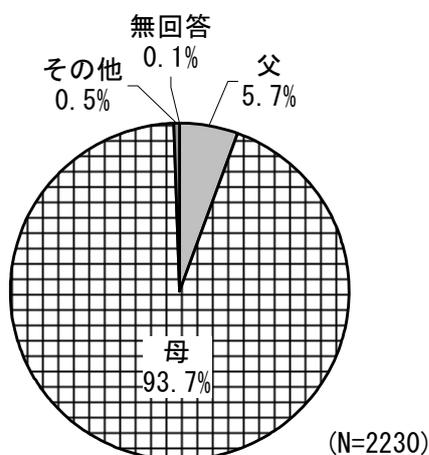
この冊子のよみかた

- 1 結果は百分率で表示し、数表・グラフの百分率は小数第 2 位を四捨五入し算出しています。そのため、個々の比率の合計と全体を示す数値とが一致しないことがあります。
- 2 数値やグラフの中の「N」は回答者総数を示し、回答比率はこれを 100%であらわしています。

II 調查結果

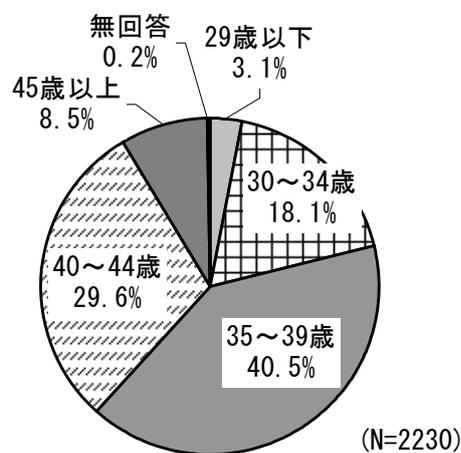
II 調査結果

問1 お子様との続柄をお答えください。(○は1つ)



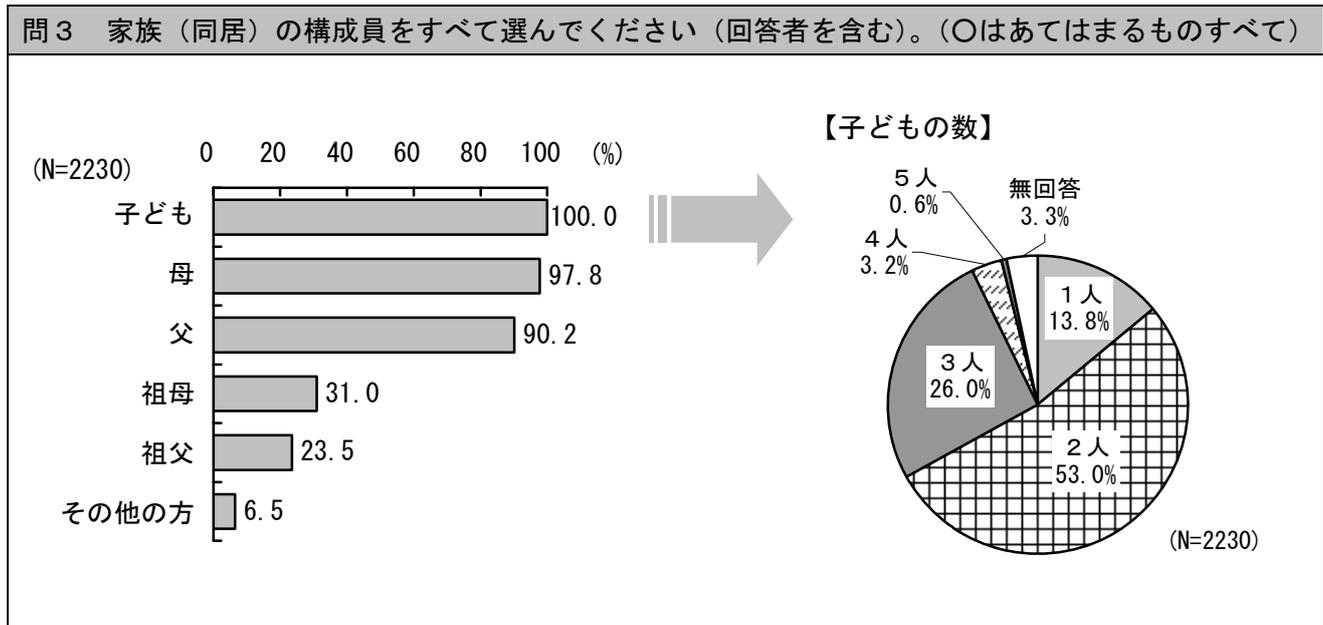
回答者の『お子様との続柄』については、「母」が93.7%で大半を占めており、「父」が5.7%となっている。

問2 回答者の現在の年齢についてお答えください。(○は1つ)

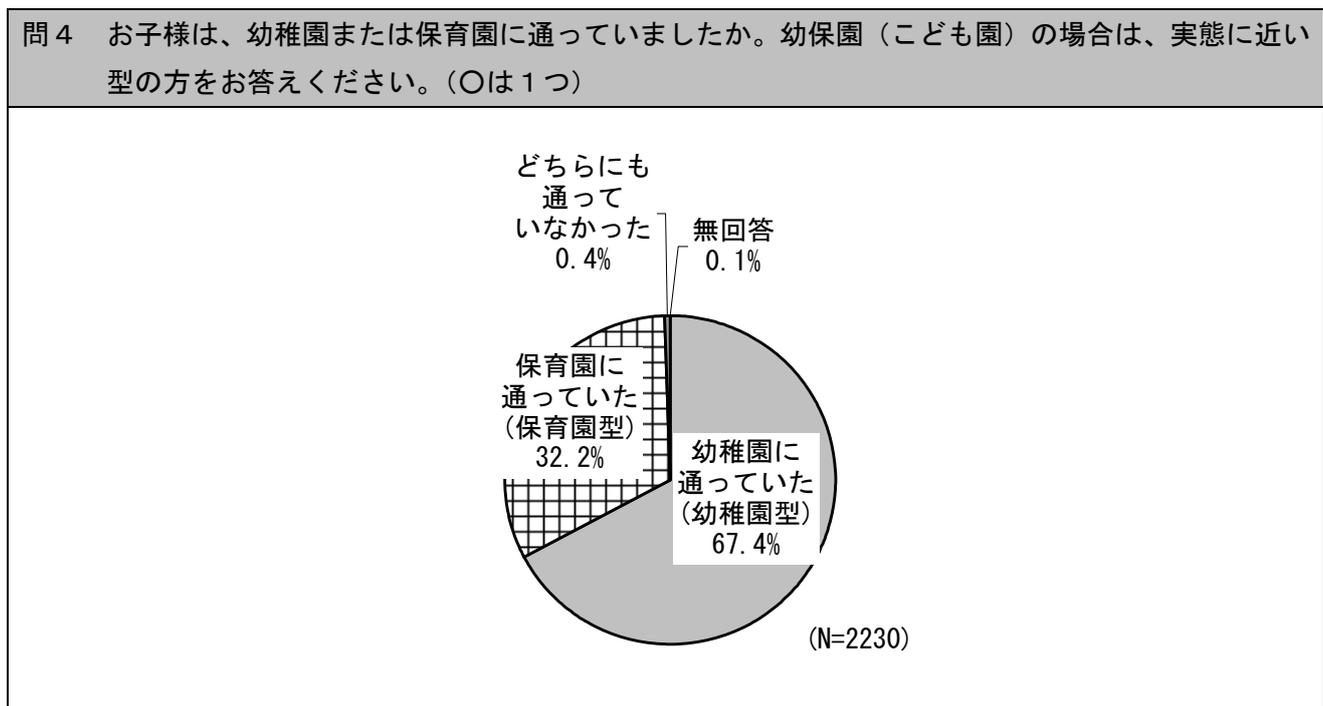


『回答者の現在の年齢』については、「35~39歳」が40.5%、「40~44歳」が29.6%で、「35~44歳」で7割を占めている。以下「30~34歳」が18.1%、「45歳以上」が8.5%、「29歳以下」が3.1%となっている。

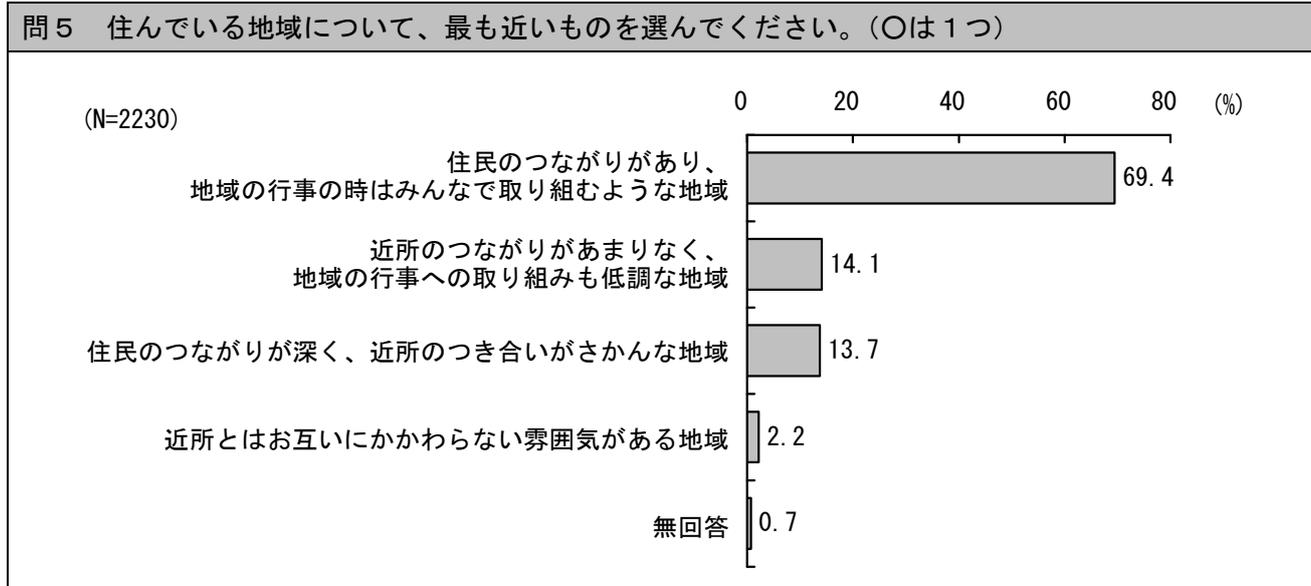
II 調査結果



『家族（同居）の構成員』については、「母」が97.8%、「父」が90.2%となっている。子どもの人数は「2人」が最も多く53.0%と過半数、次いで「3人」が26.0%、「1人」が13.8%などとなり、“1人～3人”で9割以上を占めている。「5人」は0.6%とごく僅かとなっている。



『通園状況』については、「幼稚園に通っていた（幼稚園型）」が67.4%と最も多く、「保育園に通っていた（保育園型）」は32.2%となっている。「どちらにも通ってなかった」は0.4%となっている。



『住んでいる地域』については、「住民のつながりがあり、地域の行事の時はみんなで取り組むような地域」が69.4%で約7割を占めている。「近所のつながりがあまりなく、地域の行事への取り組みも低調な地域」と「住民のつながりが深く、近所のつき合いがさかんな地域」は各々14.1%、13.7%と同程度で、「近所とはお互いにかかわらない雰囲気がある地域」は2.2%となっている。

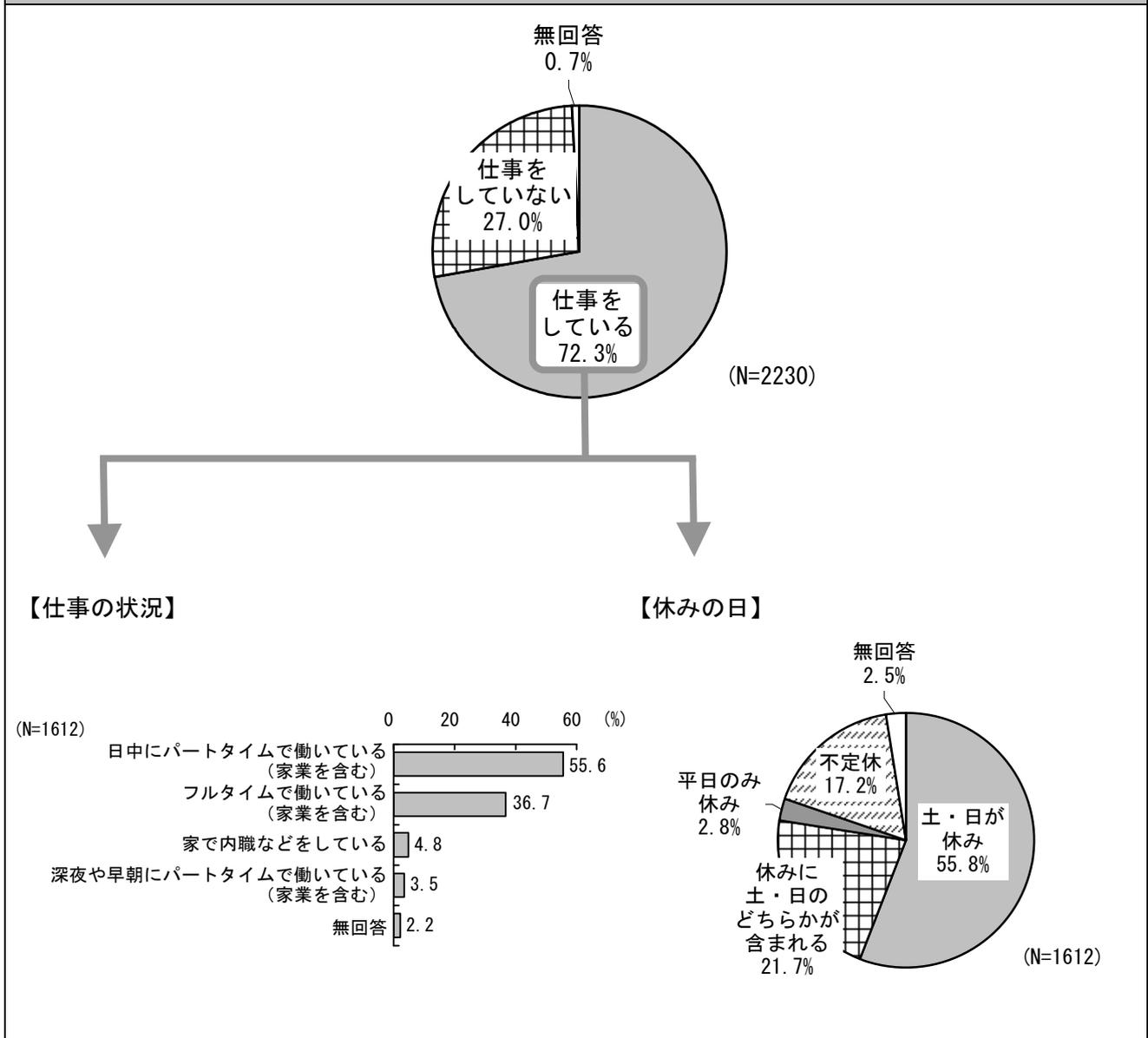
II 調査結果

問6 あなたの就業状態はどのようなですか。(○は1つ)

問6-1 「1 仕事をしている」と回答、仕事の状況はどのようなですか。(○はあてはまるものすべて)

問6-2 「1 仕事をしている」と回答、仕事の休みはいつですか。最も近いものを選んでください。

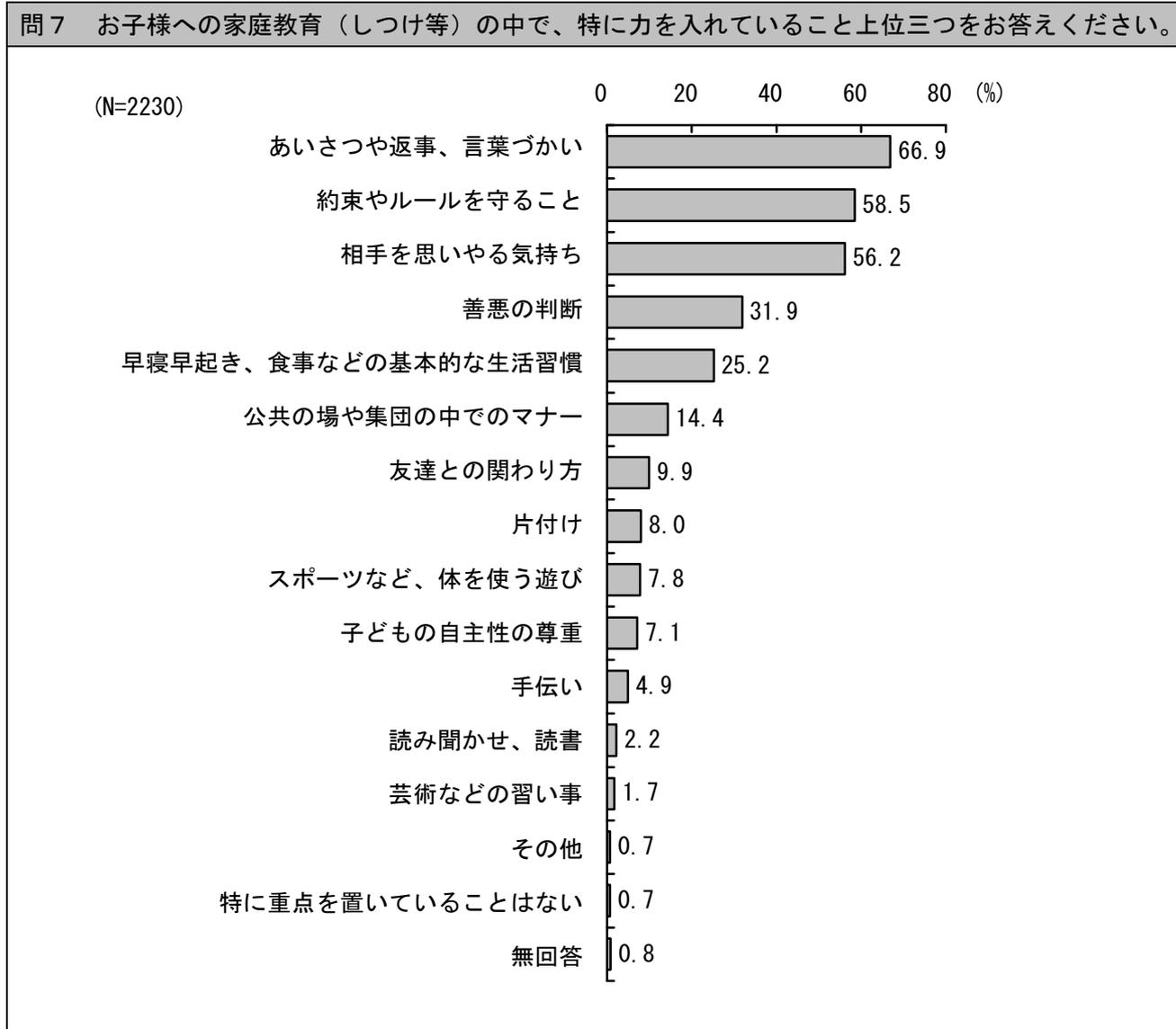
(○は1つ)



『就業状態』については、「仕事をしている」が72.3%で約4人に3人、「仕事をしていない」は27.0%となっている。

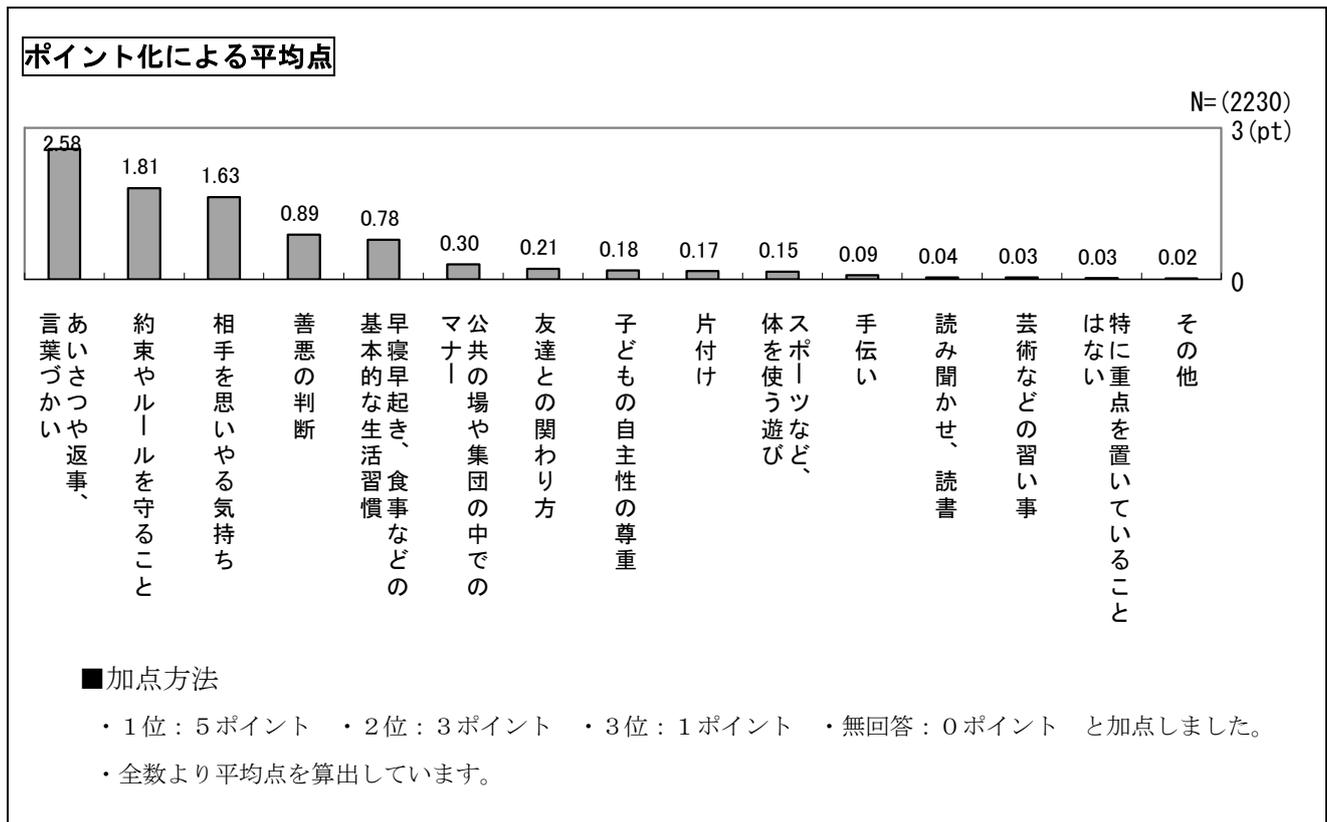
仕事の状況については、「日中にパートタイムで働いている」が55.6%と最も多く、次いで「フルタイムで働いている」が36.7%となっている。

休みの日については、「土・日が休み」が55.8%と最も多く、次いで「休みに土・日のどちらかが含まれる」が21.7%となっている。



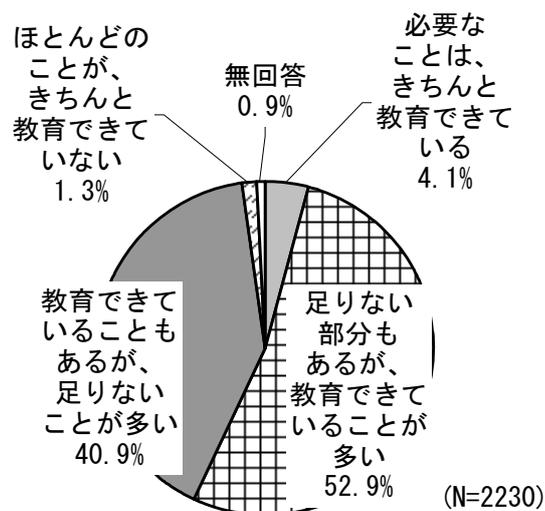
『お子様への家庭教育（しつけ等）の中で、特に力を入れていること』については、「あいさつや返事、言葉づかい」が66.9%と最も多く、次いで「約束やルールを守ること」が58.5%、「相手を思いやる気持ち」が56.2%となっている。一方「読み聞かせ、読書」や「芸術などの習い事」は各々2.2%、1.7%と低くなっている。

II 調査結果



『お子様への家庭教育(しつけ等)の中で、特に力を入れていること』については、「あいさつや返事、言葉づかい」が2.58ポイントと最も高く、次いで「約束やルールを守ること」が1.81ポイント、「相手を思いやる気持ち」が1.63ポイントとなっている。一方「読み聞かせ、読書」は0.04ポイント、「芸術などの習い事」は0.03ポイントと低くなっている。

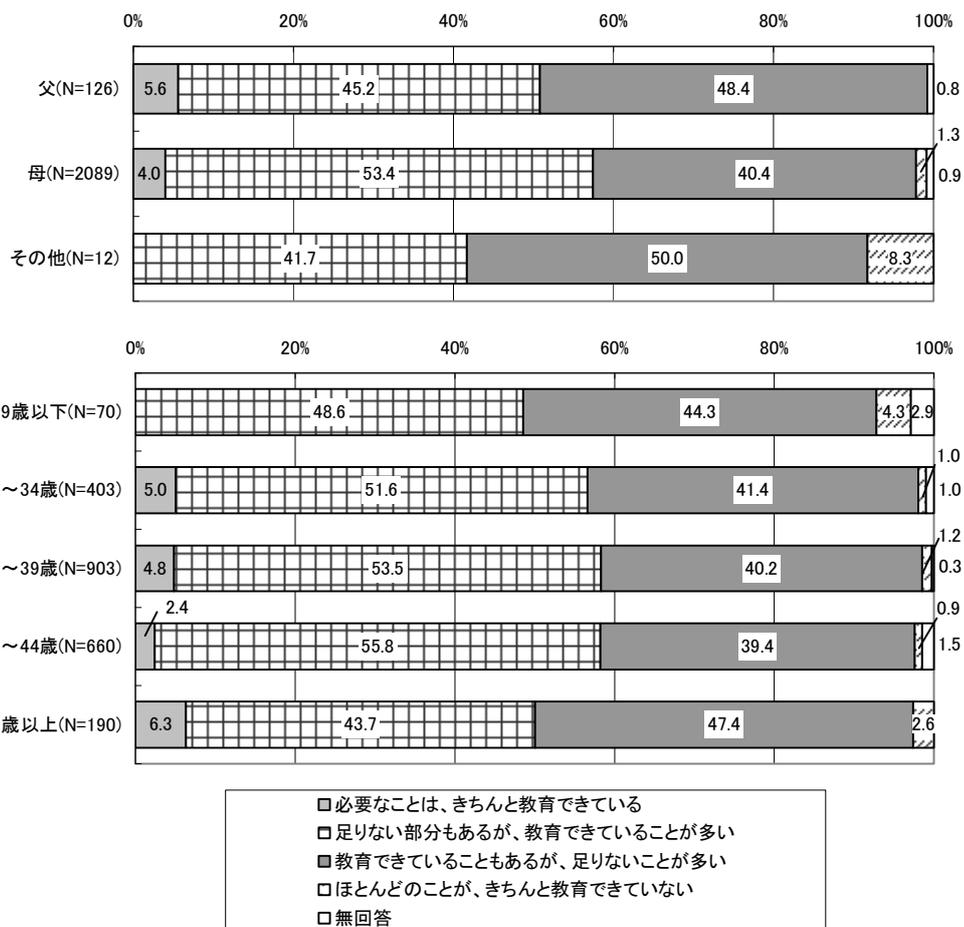
問8 お子様への家庭教育（しつけ等）の状況について、ご自分ではどのように思っていますか。最も近いものを選んでください。（○は1つ）



『お子様への家庭教育（しつけ等）の状況』については、「足りない部分もあるが、教育できていることが多い」が52.9%で半数を超え最も多く、「必要なことはきちんと教育できている」の4.1%と合わせると、「教育できている」と感じている層が6割近くとなっている。「教育できていることもあるが、足りないことが多い」は40.9%、「ほとんどのことが、きちんと教育できていない」は1.3%となっている。

II 調査結果

問8 × 回答者の続柄・年齢

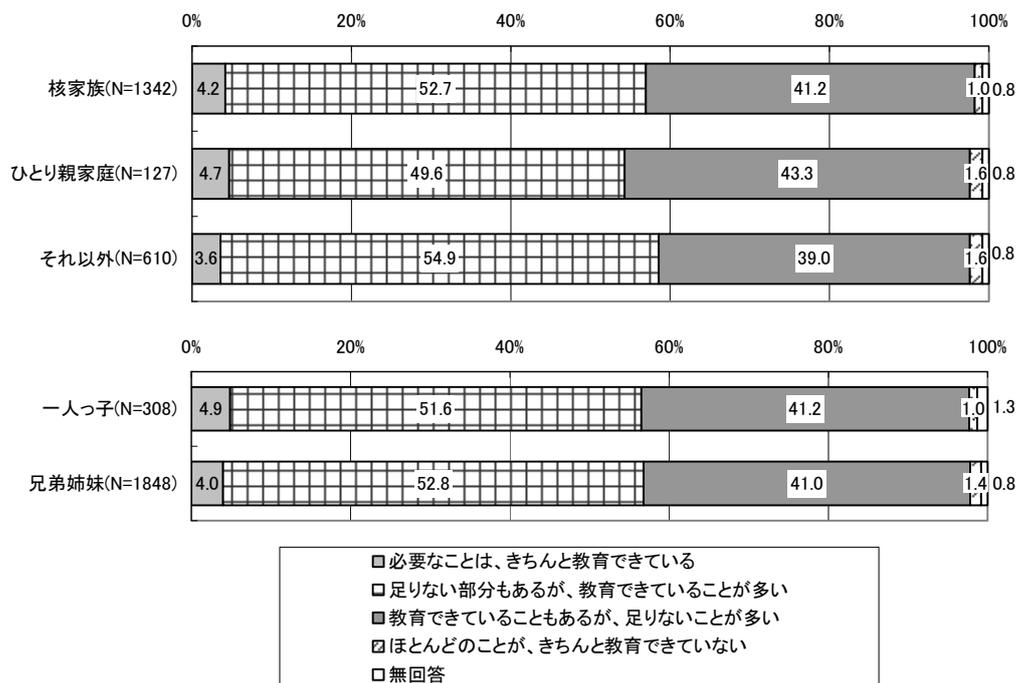


続柄別に『お子様への家庭教育の状況』について調べたところ、「母」は「足りない部分もあるが、教育できていることが多い」（53.4%）と回答した割合が他よりも高くなっている。

年齢別に『お子様への家庭教育の状況』について調べたところ、“44歳以下”では「足りない部分もあるが、教育できていることが多い」と回答した割合が最も高くなっている。また、「45歳以上」では「教育できていることもあるが、足りないことが多い」（47.4%）と回答した割合が最も高くなっている。

“30～44歳”の層では、「必要なことは、きちんと教育できている」という回答と合わせると、6割近くの親が「教育できている」と感じていることになる。

問8 × 家族構成・子どもの人数

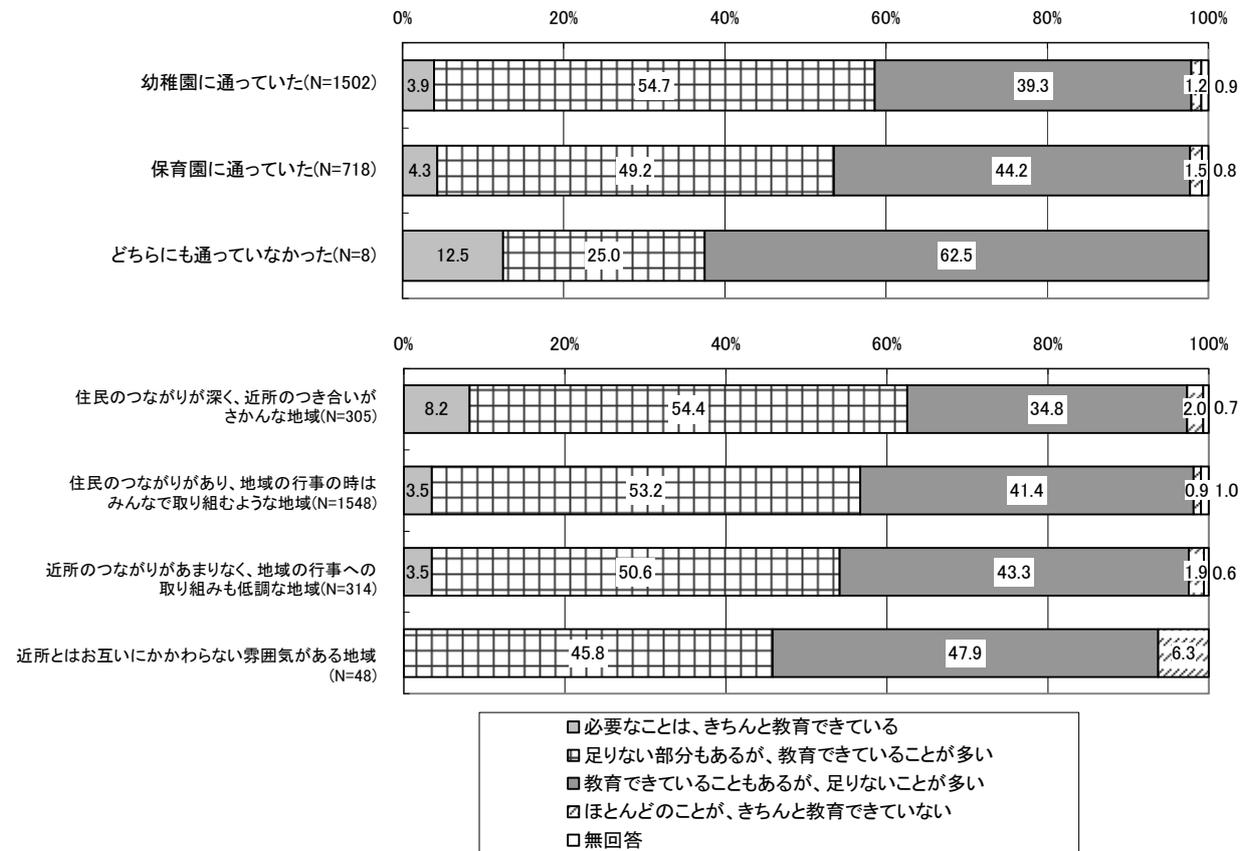


家族構成別に『お子様への家庭教育の状況』について調べたところ、「ひとり親家庭」は「足りない部分もあるが、教育できていることが多い」（49.6%）が若干他の家族構成よりも低く、関連して「教育できていることもあるが、足りないことが多い」（43.3%）と回答した割合が若干他の家族構成よりも高くなっている。

子どもの人数別に『お子様への家庭教育の状況』について調べたところ、大きな差異は見られなかった。

II 調査結果

問8 × 通園状況・地域のつながり



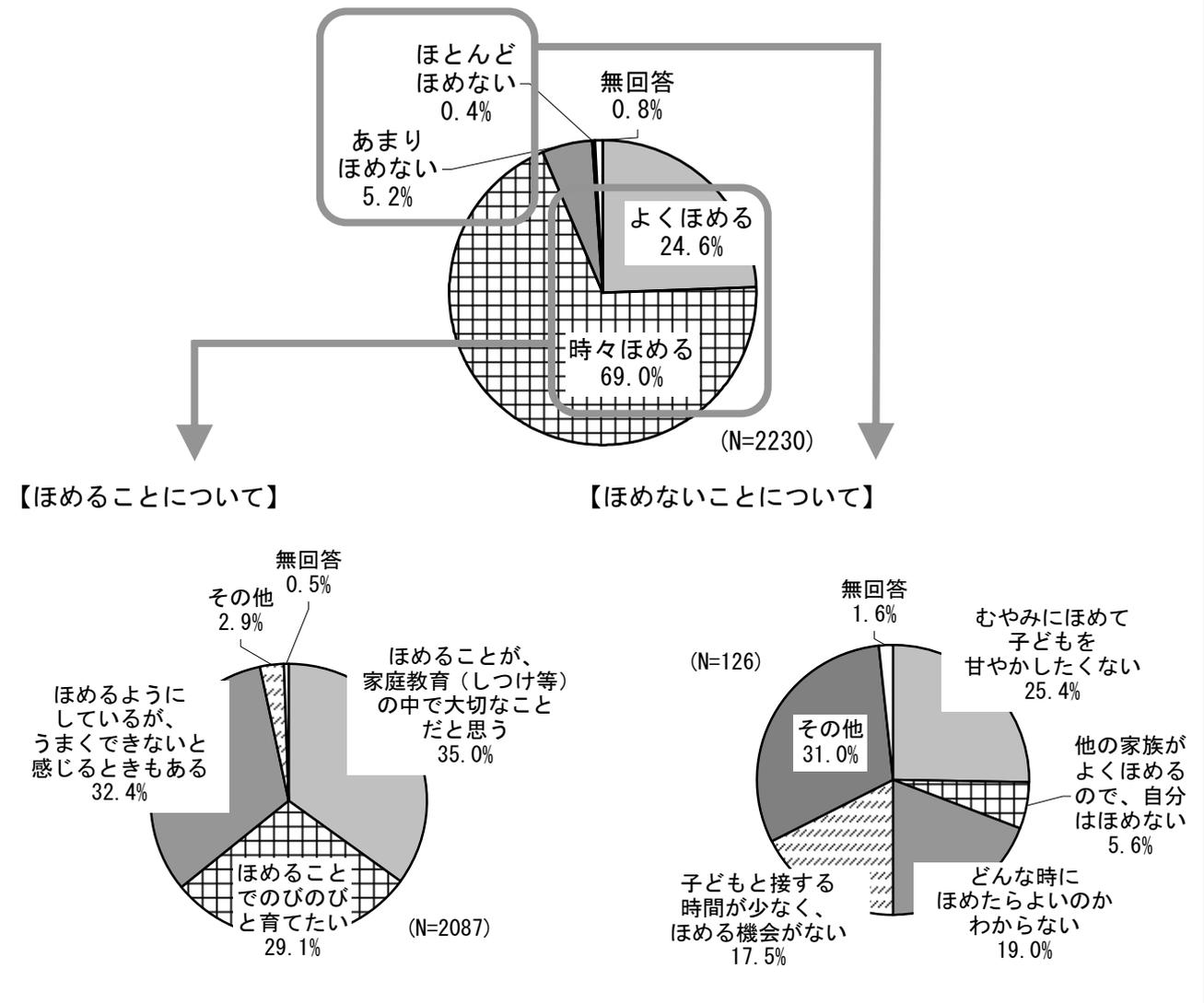
通園状況別に『お子様への家庭教育の状況』について調べたところ、「幼稚園に通っていた」と回答した親では、「保育園に通っていた」と回答した親より「足りない部分もあるが、教育できていることが多い」(54.7%)と回答した割合が高く、「教育できていることもあるが、足りないことが多い」(39.3%)と回答した割合が低くなっている。

地域とのつながり別に『お子様への家庭教育の状況』について調べたところ、「住民のつながりが深く、近所のつき合いがさかんな地域」は「必要なことは、きちんと教育できている」(8.2%)、「足りない部分もあるが、教育できていることが多い」(54.4%)と回答した割合が他の地域よりも高くなっている。「近所とはお互いにかかわらない雰囲気がある地域」は「教育できていることもあるが、足りないことが多い」(47.9%)、「ほとんどのことが、きちんと教育できていない」(6.3%)と回答した割合が他の地域よりも高くなっている。

問9 お子様とのかかわりの中で、お子様をほめることはありますか。(〇は1つ)

問9-1 「1 よくほめる」「2 時々ほめる」と回答、ほめることについてどのような思いを持っていますか。最も近いものを選んでください。(〇は1つ)

問9-2 「3 あまりほめない」「4 ほとんどほめない」と回答、ほめないことについてどのような思いを持っていますか。最も近いものを選んでください。(〇は1つ)



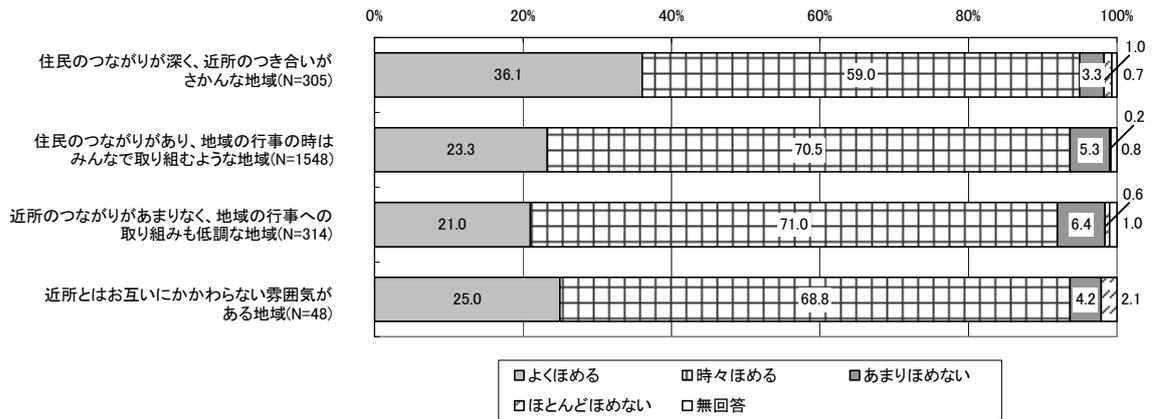
『お子様をほめることがあるか』については、「時々ほめる」が69.0%で約7割を占めている。次いで「よくほめる」が24.6%で、これら2項目で9割を超えている。「あまりほめない」は5.2%、「ほとんどほめない」は0.4%となっている。

『ほめることへの思い』については、「ほめることが、家庭教育(しつけ等)の中で大切なことだと思う」が35.0%、次いで「ほめるようにしているが、うまくできないと感じるときもある」が32.4%、「ほめることでのびのびと育てたい」が29.1%となっている。

『ほめないことへの思い』については、「むやみにほめて子どもを甘やかしたくない」が25.4%と最も多く、次いで「どんな時にほめたらよいのかわからない」が19.0%、「子どもと接する時間が少なく、ほめる機会がない」が17.5%となっている。

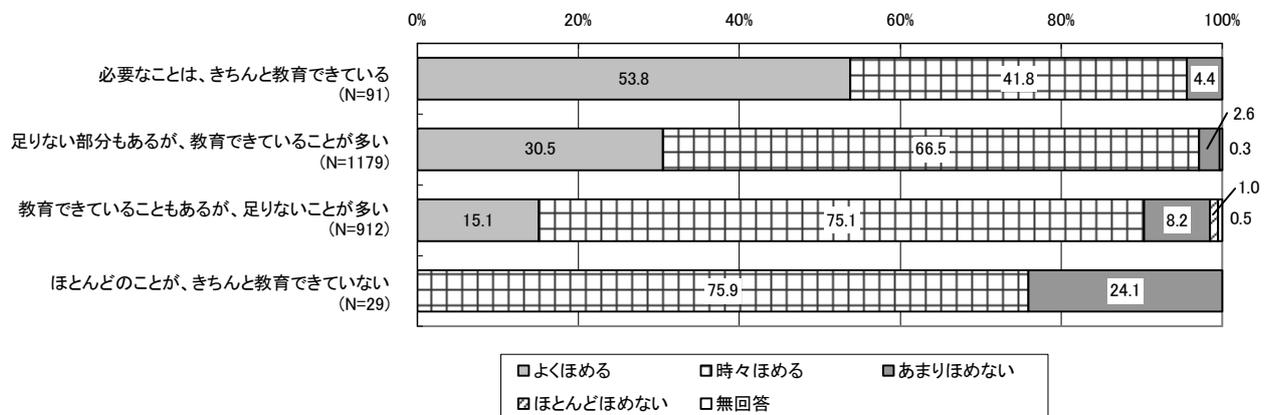
II 調査結果

問9 × 地域のつながり



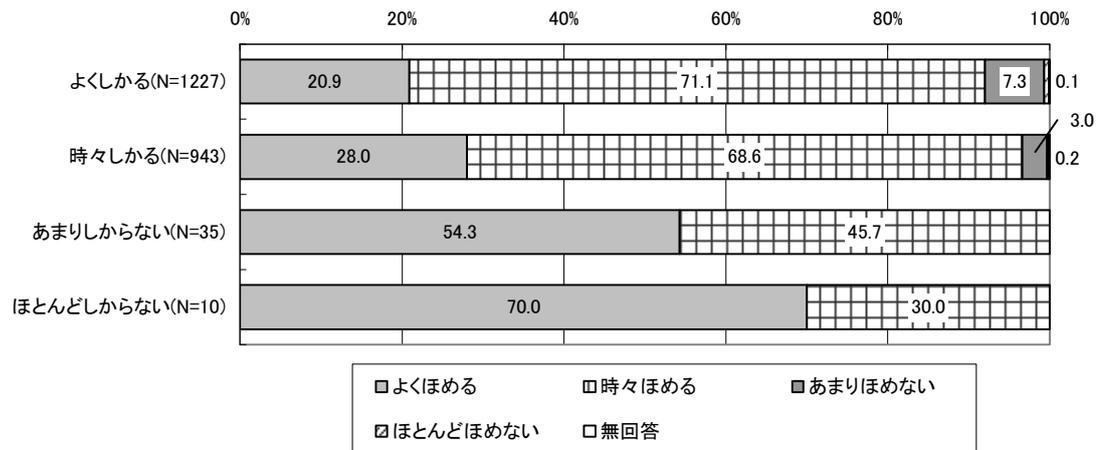
地域のつながり別に『お子様をほめることはあるか』について調べたところ、「住民のつながりが深く、近所のつき合いがさかんな地域」は「よくほめる」(36.1%)と回答した割合が他の地域よりも高くなっている。

問9 × お子様への家庭教育の状況



家庭教育の状況別に『お子様をほめることはあるか』について調べたところ、「必要なことは、きちんと教育できている」家庭は「よくほめる」(53.8%)と回答した割合が唯一5割を超えており、「教育できている」という気持ちが強くあるほど「よくほめる」割合が高くなっている。

問9 × お子様をしかることはあるか



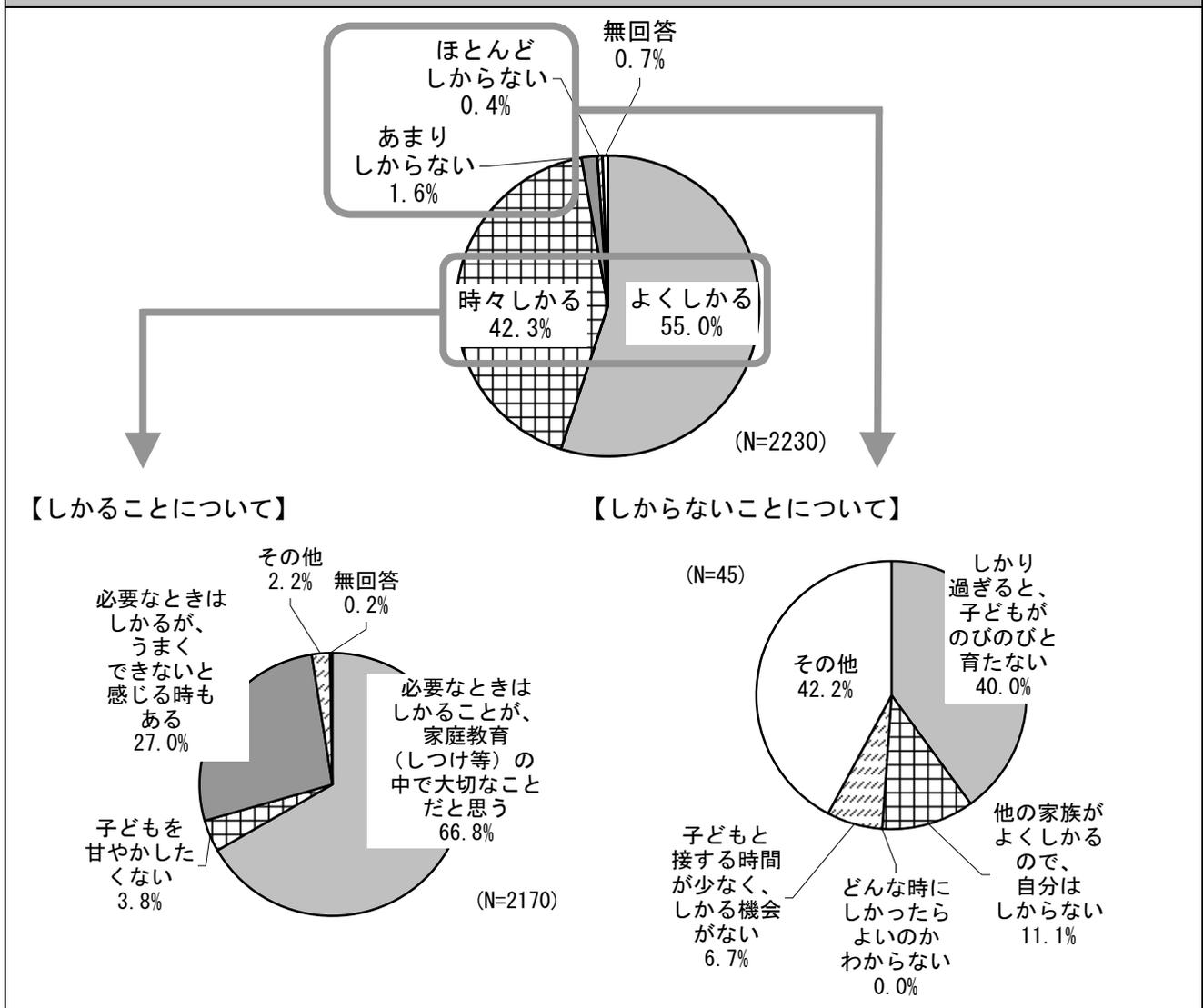
しかり方別に『お子様をほめることはあるか』について調べたところ、しかる度合いが少なくなるほど「よくほめる」割合が高くなっている。

II 調査結果

問10 お子様とのかかわりの中で、お子様をしかることはありますか。(〇は1つ)

問10-1 「1 よくしかる」「2 時々しかる」と回答、しかることにしてどのような思いを持っていますか。最も近いものを選んでください。(〇は1つ)

問10-2 「3 あまりしからない」「4 ほとんどしからない」と回答、しからないことについてどのような思いを持っていますか。最も近いものを選んでください。(〇は1つ)

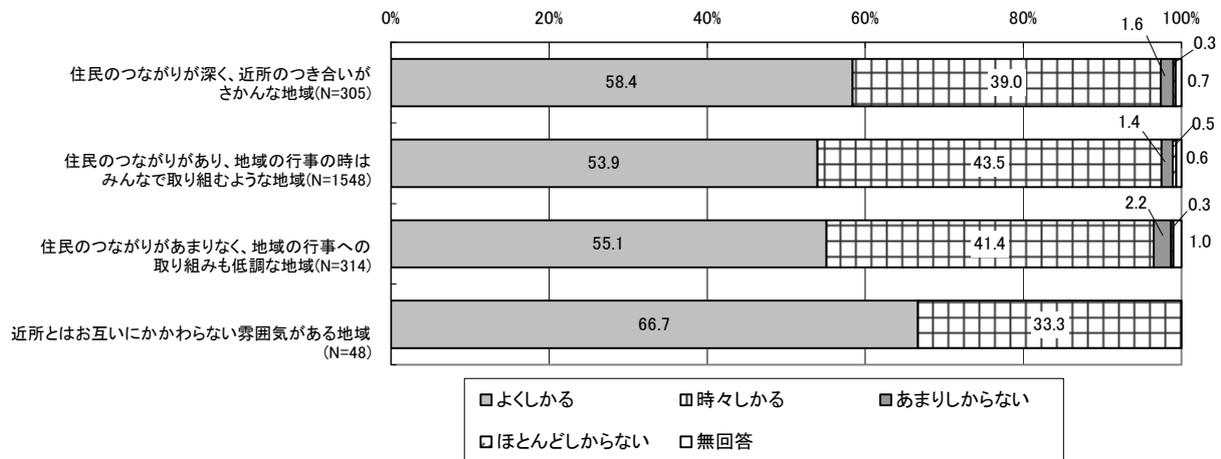


『お子様をしかることがあるか』については、「よくしかる」が55.0%と半数を超え最も多く、「時々しかる」の42.3%と合わせて97.3%と、ほぼ100%に近い数字となっている。「あまりしからない」は1.6%、「ほとんどしからない」は0.4%となっている。

『しかることへの思い』については、「必要なときはしかることが、家庭教育(しつけ等)の中で大切なことだと思う」が66.8%と最も多く、6割を超えている。次いで「必要なときはしかるが、うまくできないと感じる時もある」が27.0%、「子どもを甘やかしたくない」が3.8%となっている。

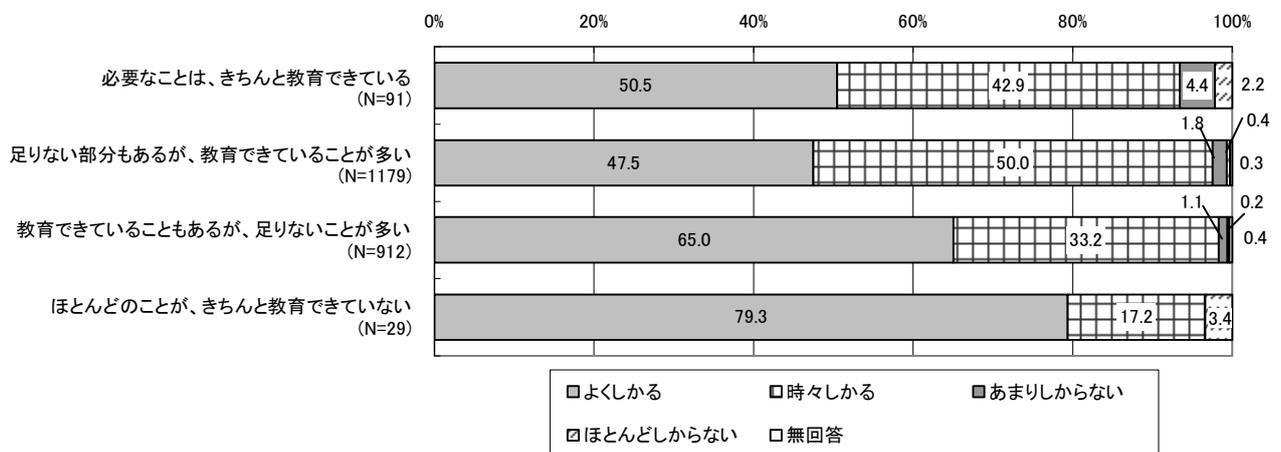
『しからないことへの思い』については、「しかり過ぎると、子どもがのびのびと育たない」が4割と最も多くなっており、次いで「他の家族がよくしかるので、自分はしからない」が11.1%、「子どもと接する時間が少なく、しかる機会がない」が6.7%となっている。

問10×地域のつながり



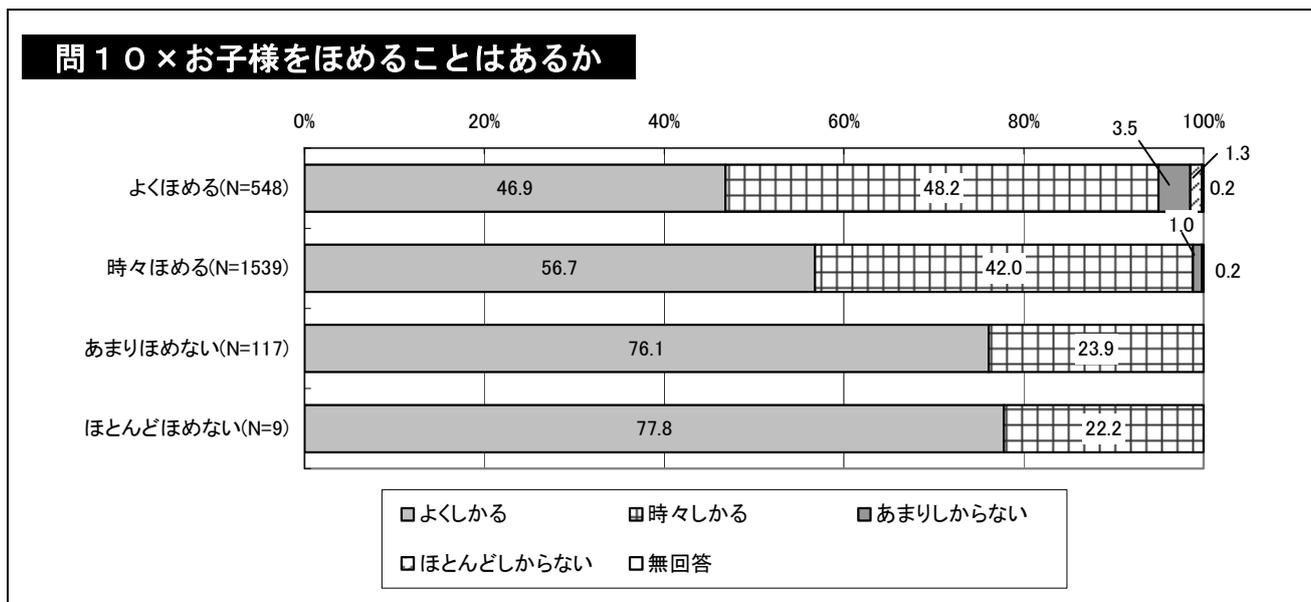
地域のつながり別に『お子様をしかることはあるか』について調べたところ、「住民のつながりが深く、近所のつき合いがさかんな地域」は「よくしかる」(58.4%)が最も多くなっている。「近所とはお互いにかかわらない雰囲気がある地域」は“しかる”(「よくしかる」と「時々しかる」)で100.0%となった。

問10×お子様への家庭教育の状況



家庭教育の状況別に『お子様をしかることはあるか』について調べたところ、「足りない部分もあるが、教育できていることが多い」と回答した家庭では「よくしかる」割合が他の家庭より低くなっている。

II 調査結果



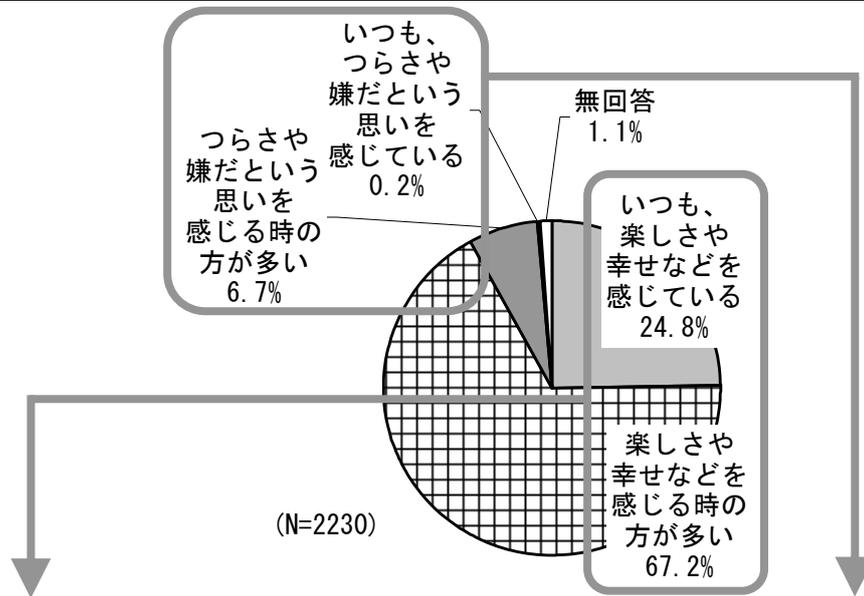
ほめ方別に『お子様をしかることはあるか』について調べたところ、ほめる度合いが少なくなるほど「よくしかる」割合が高くなり、「時々しかる」割合が低くなっている。また、「あまりほめない」「ほとんどほめない」家庭では、「よくしかる」が共に7割以上となっている。

問11 お子様とのかかわり全体について、どのように感じていますか。(〇は1つ)

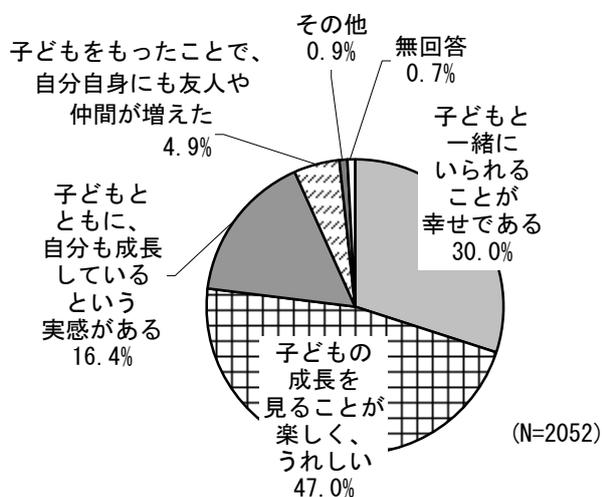
問11-1 「1 いつも、楽しさや幸せなどを感じている」「2 楽しさや幸せなどを感じる時の方が多い」と答えた方、その理由として最も近いものを選んでください。(〇は1つ)

問11-2 「3 つらさや嫌だという思いを感じる時の方が多い」「4 いつも、つらさや嫌だという思いを感じている」と答えた方、その理由として最も近いものを選んでください。(〇は1つ)

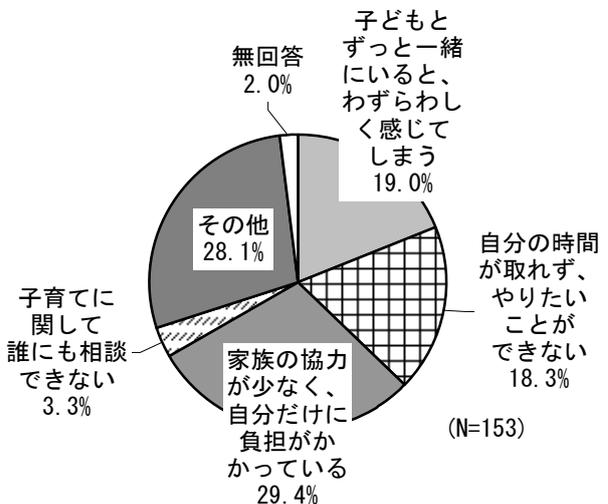
(〇は1つ)



【楽しさや幸せなどを感じる理由】



【つらさや嫌だという思いを感じる理由】



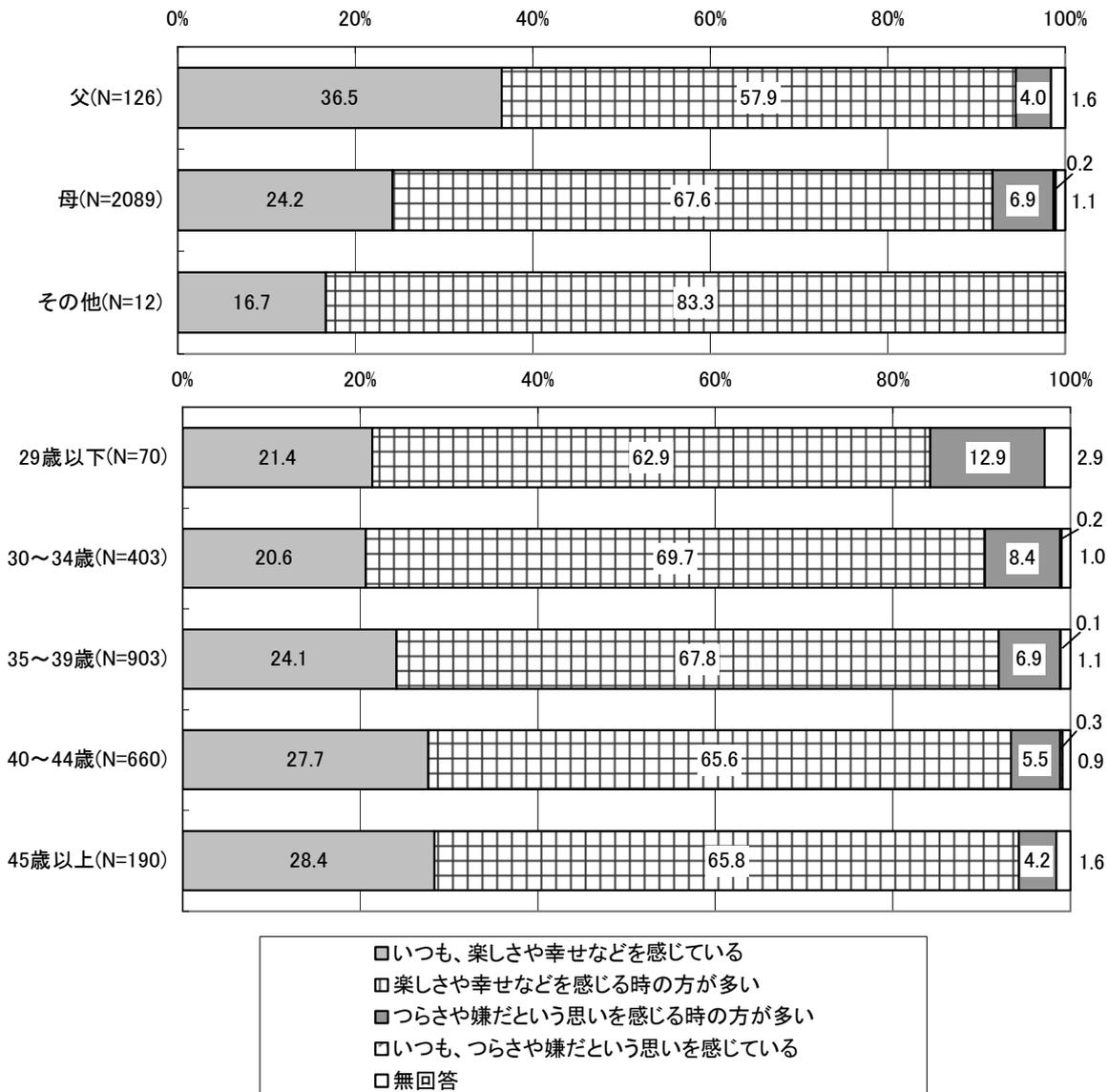
『お子様とのかかわりをどのように感じているか』については、「楽しさや幸せなどを感じる時の方が多い」が67.2%で7割近くと最も多く、次いで「いつも、楽しさや幸せなどを感じている」が24.8%で、これら2項目で9割を超えている。「つらさや嫌だという思いを感じる時の方が多い」は6.7%、「いつも、つらさや嫌だという思いを感じている」は0.2%となっている。

『楽しさや幸せなどを感じる理由』については、「子どもの成長を見ることが楽しく、うれしい」が47.0%と最も多く、次いで「子どもと一緒にいられることが幸せである」が30.0%となっている。

『つらさや嫌だという思いを感じる理由』については、「家族の協力が少なく、自分だけに負担がかかっている」が最も多く、約3割となっている。次いで「子どもとずっと一緒にいると、わずらわしく感じてしまう」が19.0%、「自分の時間を取れず、やりたいことができない」が18.3%となっている。

II 調査結果

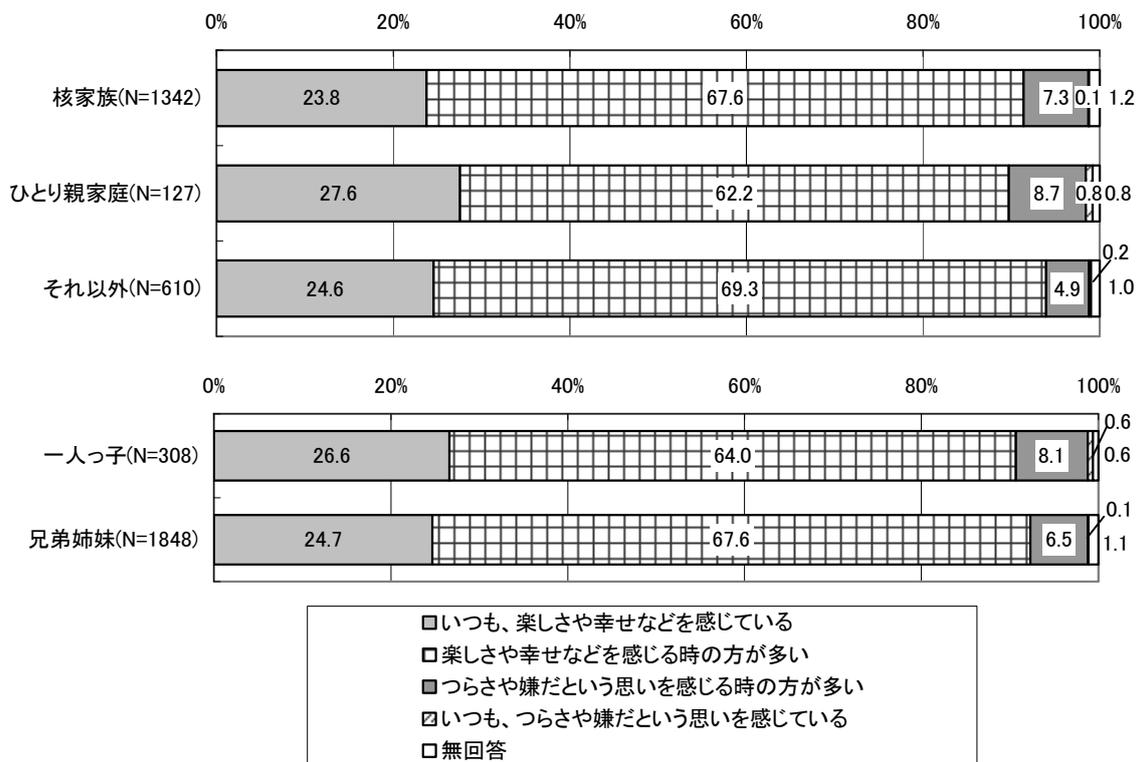
問 1 1 × 回答者の続柄・年齢



続柄別に『お子様とのかかわりについてどのように感じているか』について調べたところ、「父」は「いつも、楽しさや幸せなどを感じている」(36.5%)と回答した割合が他よりも高くなっている。「母」は「つらさや嫌だという思いを感じる時の方が多い」(6.9%)と回答した割合が他よりも高くなっている。

年齢別に『お子様とのかかわりについてどのように感じているか』について調べたところ、どの年齢層でも「楽しさや幸せなどを感じる時の方が多い」が6割を超えている。「29歳以下」の親は「つらさや嫌だという思いを感じる時の方が多い」(12.9%)と回答した割合が他の年齢の親よりも高くなっている。年齢が上がるにつれて「つらさや嫌だという思いを感じる時の方が多い」という回答の割合は減少している。

問 1 1 × 家族構成・子どもの人数

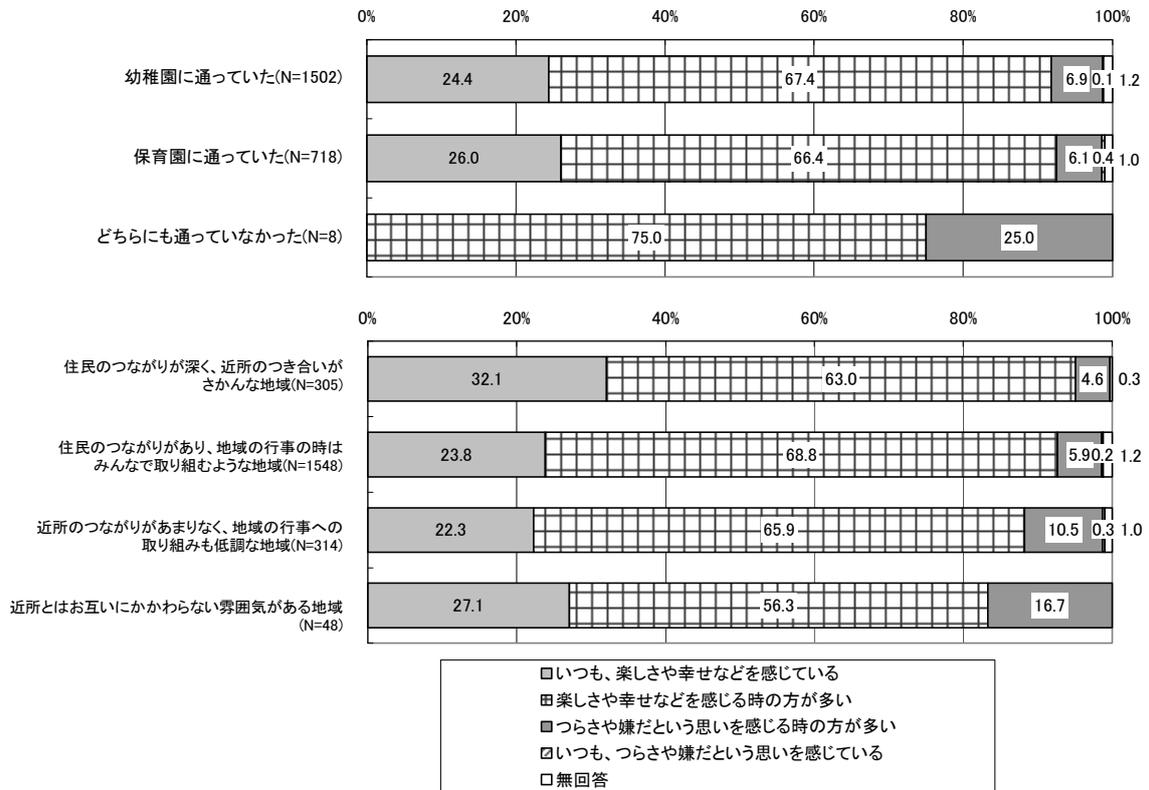


家族構成別に『お子様とのかかわりについてどのように感じているか』について調べたところ、「ひとり親家庭」は「いつも、楽しさや幸せなどを感じている」(27.6%)と回答した割合が他の家族構成よりも若干高くなっている。また、「つらさや嫌だという思いを感じる時の方が多い」(8.7%)と回答した割合も他の家族構成より若干高くなっている。

子どもの人数別に『お子様とのかかわりについてどのように感じているか』について調べたところ、「一人っ子」の親は「いつも、楽しさや幸せなどを感じている」(26.6%)と回答した割合が「兄弟姉妹がいる」と回答した親よりも若干高くなっている。また、「つらさや嫌だという思いを感じる時の方が多い」(8.1%)と回答した割合も「兄弟姉妹がいる」と回答した親よりも若干高くなっている。

II 調査結果

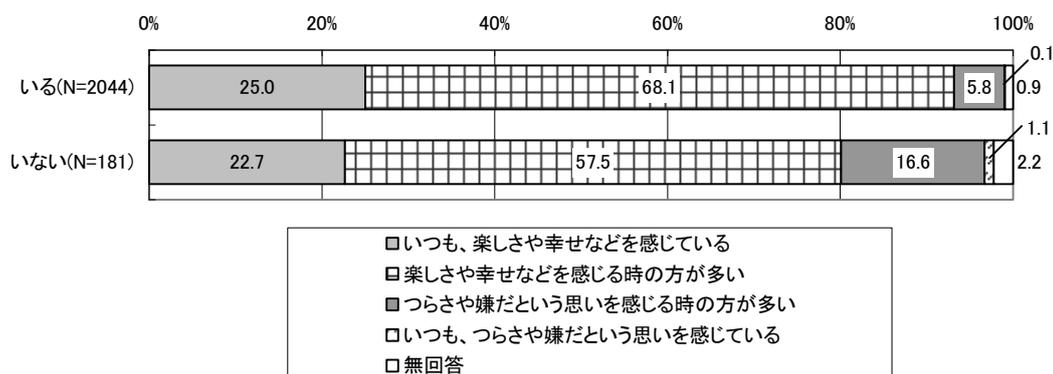
問 1 1 × 通園状況・地域のつながり



通園状況別に『お子様とのかかわりについてどのように感じているか』について調べたところ、「保育園に通っていた」と回答した親で、「いつも、楽しさや幸せなどを感じている」(26.0%)という回答の割合が、他の通園状況よりも若干高くなっている。

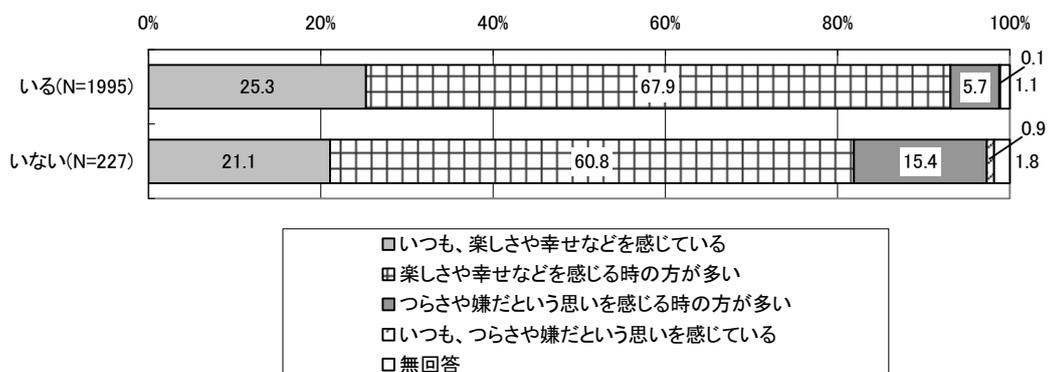
地域のつながり別に『お子様とのかかわりについてどのように感じているか』について調べたところ、「住民のつながりが深く、近所のつき合いがさかんな地域」は「いつも、楽しさや幸せなどを感じている」(32.1%)と回答した割合が他の地域よりも高くなっている。また、地域のつながりが希薄になるほど「つらさや嫌だという思いを感じる時の方が多い」と回答した割合が高くなっている。

問 1 1 × 子育てについて話を聞いてもらえる人はいるか



家族以外で話を聞いてもらえる人の有無別に『お子様とのかかわりについてどのように感じているか』について調べたところ、「いる」親は「いつも、楽しさや幸せを感じている」(25.0%)、「楽しさや幸せなどを感じる時の方が多い」(68.1%)と回答した割合が、合わせると9割以上となっている。「いない」親は「つらさや嫌だという思いを感じる時の方が多い」(16.6%)、「いつも、つらさや嫌だという思いを感じている」(1.1%)と回答した割合が、合わせると2割近くとなっている。

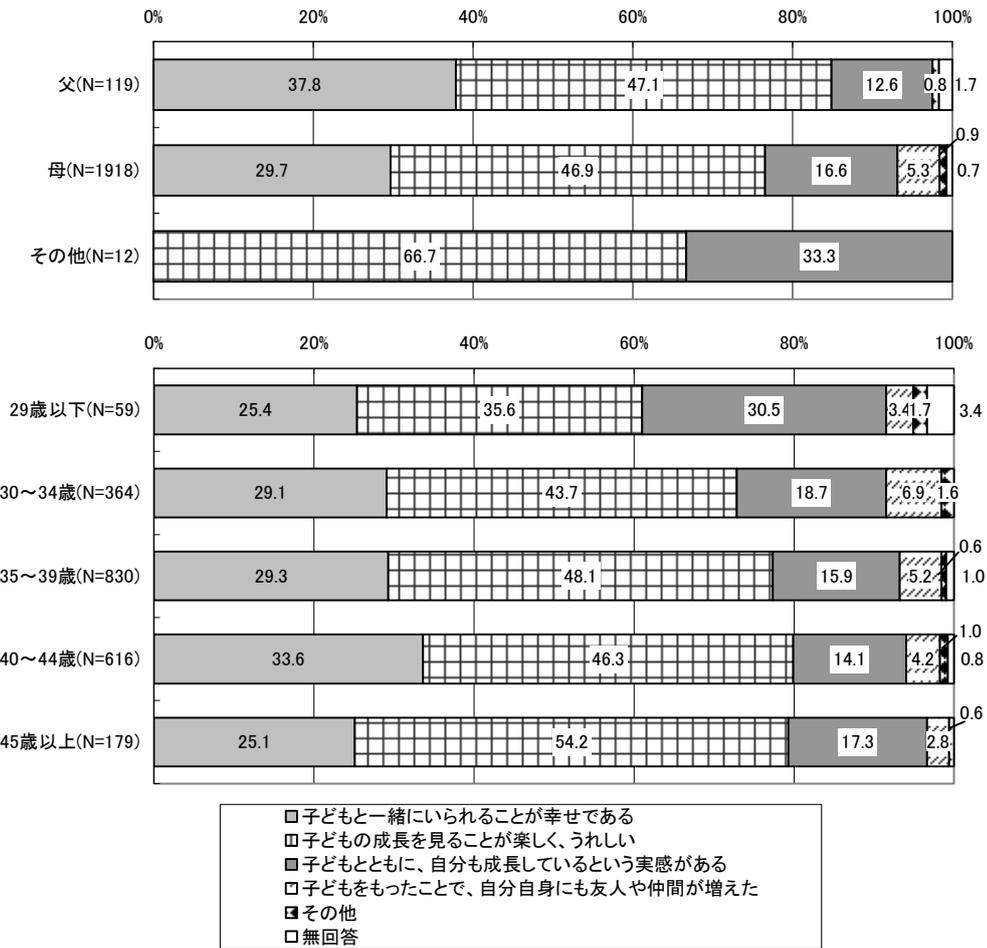
問 1 1 × 子育てについて相談できる人はいるか



家族以外に相談できる人の有無別に『お子様とのかかわりについてどのように感じているか』について調べたところ、「いる」親は「いつも、楽しさや幸せを感じている」(25.3%)、「楽しさや幸せなどを感じる時の方が多い」(67.9%)と回答した割合が、合わせると9割以上となっている。「いない」親ではその2項目を合わせた割合が約8割であり、「つらさや嫌だという思いを感じる時の方が多い」(15.4%)、「いつも、つらさや嫌だという思いを感じている」(0.9%)と回答した割合が、「いる」親よりも高くなっている。

II 調査結果

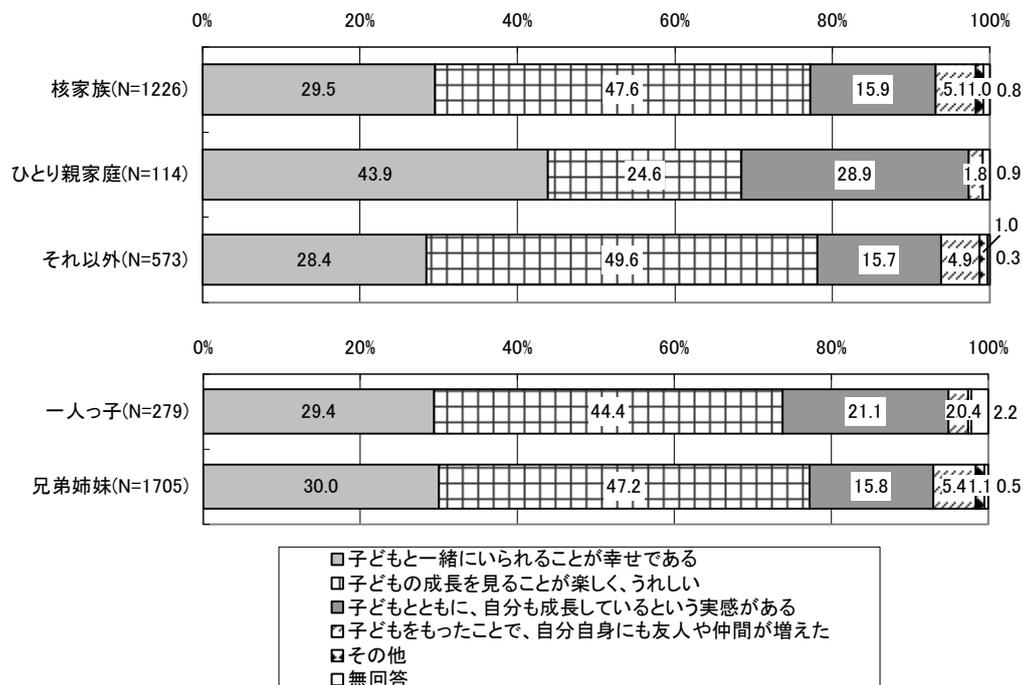
問 1 1-1 × 回答者の続柄・年齢



続柄別に『お子様とのかかわりについて楽しさや幸せを感じる理由』について調べたところ、「父」は「子どもと一緒にいられることが幸せである」（37.8%）と回答した割合が他よりも高くなっている。「母」には「子どもをもったことで、自分自身にも友人や仲間が増えた」（5.3%）という回答があったが、他では見られなかった。

年齢別に『お子様とのかかわりについて楽しさや幸せを感じる理由』について調べたところ、「29歳以下」の親は「子どもとともに、自分も成長しているという実感がある」（30.5%）と回答した割合が唯一3割を超え他の年齢の親よりも高くなっている。また、「40~44歳」の親では「子どもと一緒にいられることが幸せである」（33.6%）という回答が、「45歳以上」の親では「子どもの成長を見ることが楽しく、うれしい」（54.2%）という回答が他の年齢層よりも高くなっている。

問 1 1-1 × 家族構成・子どもの人数

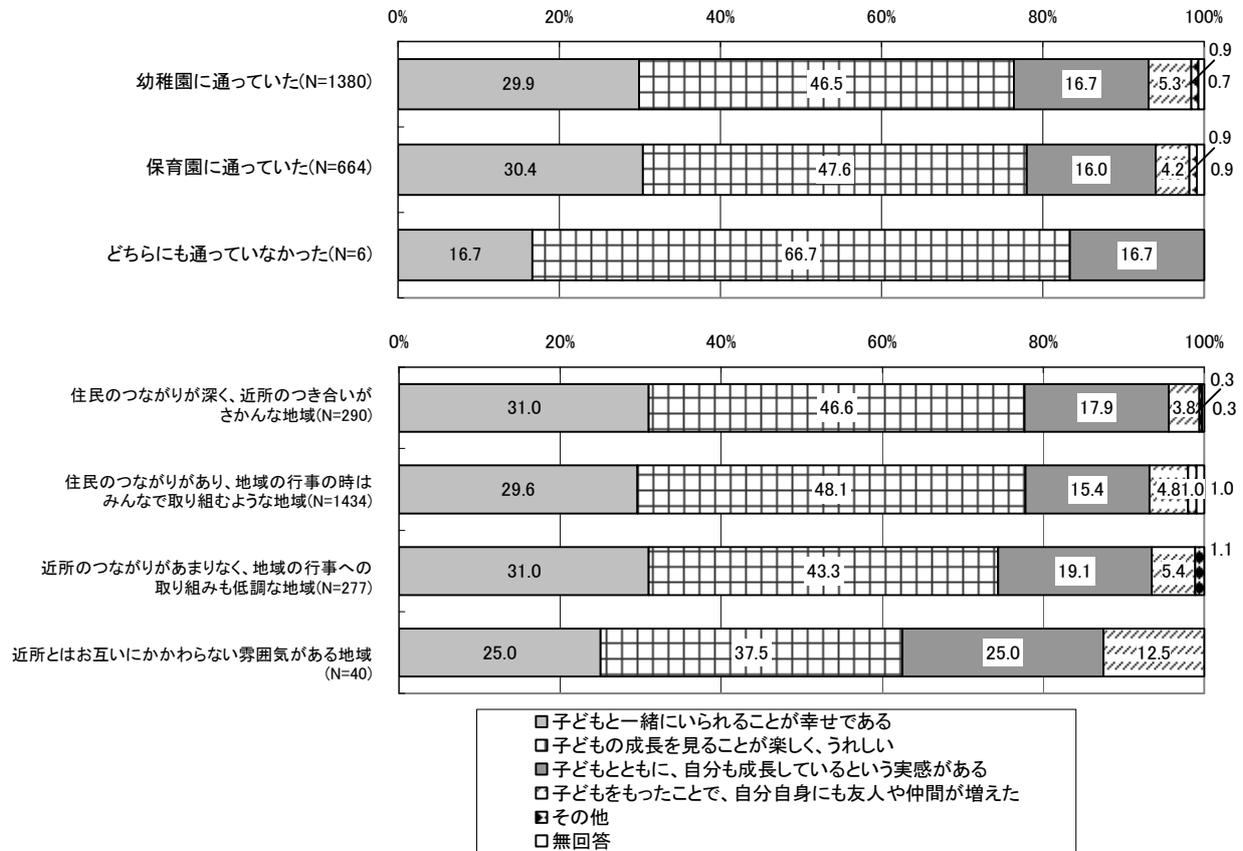


家族構成別に『お子様とのかかわりについて楽しさや幸せを感じる理由』について調べたところ、「ひとり親家庭」は「子どもと一緒にいられることが幸せである」(43.9%)、「子どもとともに、自分も成長しているという実感がある」(28.9%)と回答した割合が他の家族構成よりも高くなっている。

子どもの人数別に『お子様とのかかわりについて楽しさや幸せを感じる理由』について調べたところ、「一人っ子」の親は「子どもとともに、自分も成長しているという実感がある」(21.1%)と回答した割合が「兄弟姉妹がいる」と回答した親よりも高くなっている。

II 調査結果

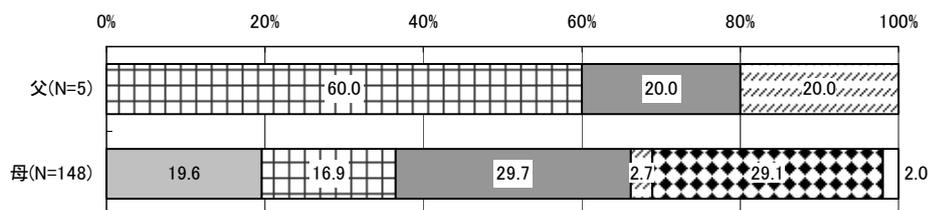
問 1 1-1 × 通園状況・地域のつながり



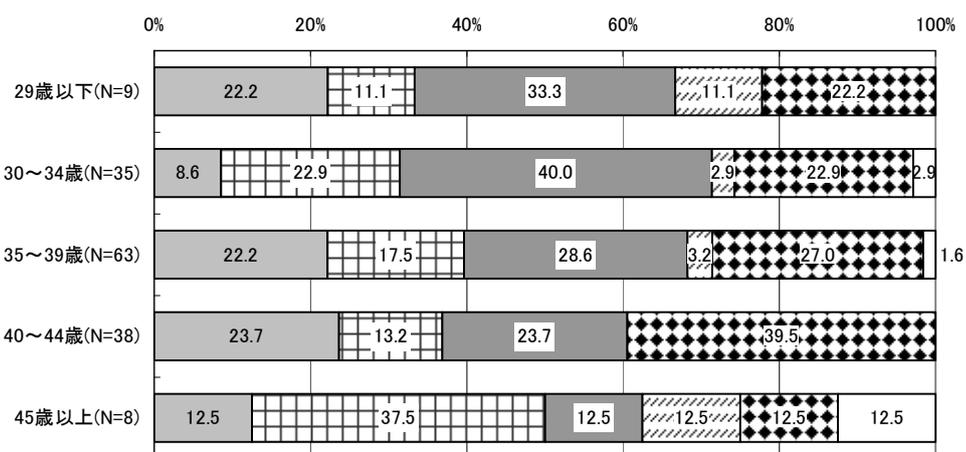
通園状況別に『お子様とのかかわりについて楽しさや幸せを感じる理由』について調べたところ、「幼稚園に通っていた」と回答した親、「保育園に通っていた」と回答した親では大きな差異は見られなかった。

地域のつながり別に『お子様とのかかわりについて楽しさや幸せを感じる理由』について調べたところ、地域とのつながりが希薄になるほど、「子どもをもったことで、自分自身にも友人や仲間が増えた」と回答した割合が高くなっている。

問 1 1-2 × 回答者の続柄・年齢



※その他は母数が0のため、割愛しました。



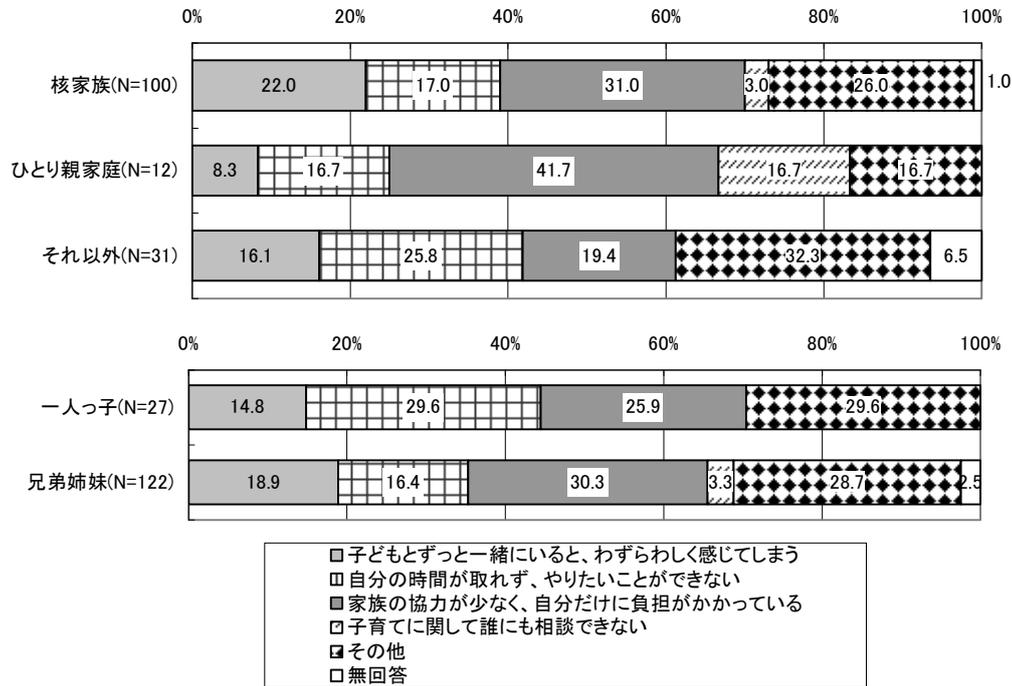
- 子どもとずっと一緒にいると、わずらわしく感じてしまう
- ▨ 自分の時間が取れず、やりたいことができない
- 家族の協力が少なく、自分だけに負担がかかっている
- 子育てに関して誰にも相談できない
- その他
- 無回答

続柄別に『お子様とのかかわりについてつらさや嫌だという思いを感じる理由』について調べたところ、「母」では「家族の協力が少なく、自分だけに負担がかかっている」(29.7%) という回答が最も多くなっている。「母」の「その他」(29.1%) の回答としては、『いくら叱っても成長が見られない』、『子育て全般的に上手くできているのか分からず不安』などがあつた。

年齢別に『お子様とのかかわりについてつらさや嫌だという思いを感じる理由』について調べたところ、“39歳以下”では「家族の協力が少なく、自分だけに負担がかかっている」と回答した割合が最も高くなっている。「その他」の回答としては、“35～44歳”は『いくら叱っても成長が見られない』という回答が他の年齢よりも多くなっている。また、“34歳以下”では『他の兄弟も含め子育てに時間がかかり心身ともに余裕を持ってない』、『夫婦間、子ども間において気持ちのすれ違いが多い』などがあつた。

II 調査結果

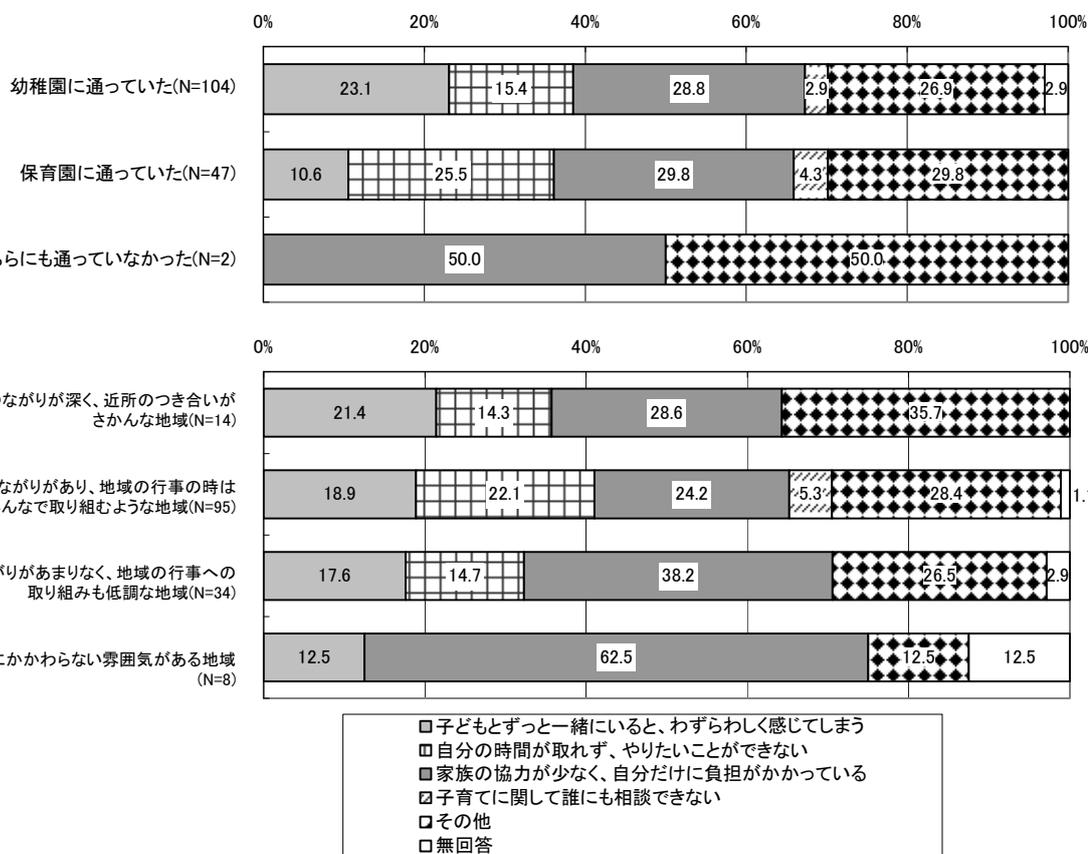
問 1 1-2 × 家族構成・子どもの人数



家族構成別に『お子様とのかかわりについてつらさや嫌だという思いを感じる理由』について調べたところ、「核家族」は「子どもとずっと一緒にいると、わずらわしく感じてしまう」(22.0%)と回答した割合が他の家族構成よりも高くなっている。「その他」の回答としては、どの家族構成においても『いくら叱っても成長が見られない』が多かった。

子どもの人数別に『お子様とのかかわりについてつらさや嫌だという思いを感じる理由』について調べたところ、「兄弟姉妹がいる」と回答した親では「家族の協力が少なく、自分だけに負担がかかっている」(30.3%)、「子どもとずっと一緒にいると、わずらわしく感じてしまう」(18.9%)という回答が多くなっている。「その他」の回答としては、「一人っ子」と回答した親では『子育て全般的に上手くできているのか分からず不安』が多く、「兄弟姉妹がいる」と回答した親では『いくら叱っても成長が見られない』、『他の兄弟も含め子育てに時間がかかり心身ともに余裕を持ってない』などが多かった。

問 1 1-2 × 通園状況・地域のつながり



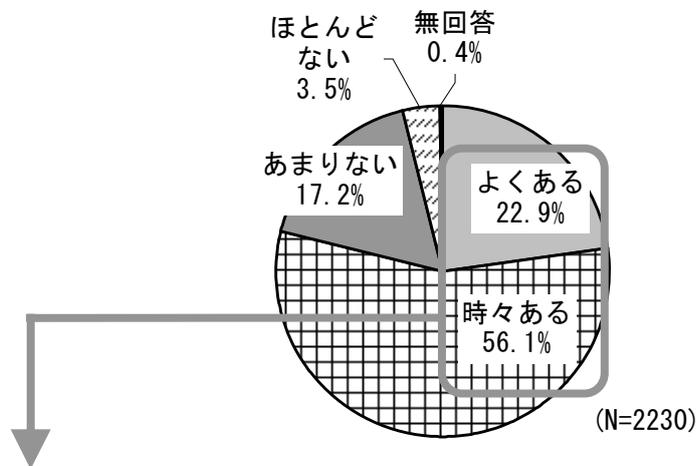
通園状況別に『お子様とのかかわりについてつらさや嫌だという思いを感じる理由』について調べたところ、「幼稚園に通っていた」と回答した親は「子どもとずっと一緒にいるとわずらわしく感じてしまう」(23.1%)と回答した割合が、「保育園に通っていた」と回答した親よりも2倍以上高くなっている。また、「保育園に通っていた」と回答した親は「自分の時間が取れず、やりたいことができない」(25.5%)と回答した割合が、「幼稚園に通っていた」と回答した親よりも高くなっている。「その他」の回答としては、「幼稚園に通っていた」と回答した親は『いくら叱っても成長が見られない』が「保育園に通っていた」と回答した親よりも多かった。

地域のつながり別に『お子様とのかかわりについてつらさや嫌だという思いを感じる理由』について調べたところ、「近所のつながりがあり、地域の行事への取り組みも低調な地域」、「近所とはお互いにかかわらない雰囲気がある地域」では、「家族の協力が少なく、自分だけに負担がかかっている」の割合が高くなっている。「その他」の回答としては、どの地域においても『いくら叱っても成長が見られない』が多かった。また、「つながりがある地域」(「住民のつながりが深く、近所のつき合いがさかんな地域」と「住民のつながりがあり、地域の行事の時はみんなで取り組むような地域」)では『夫婦間、子ども間において気持ちのすれ違いが多い』という回答が見られた。

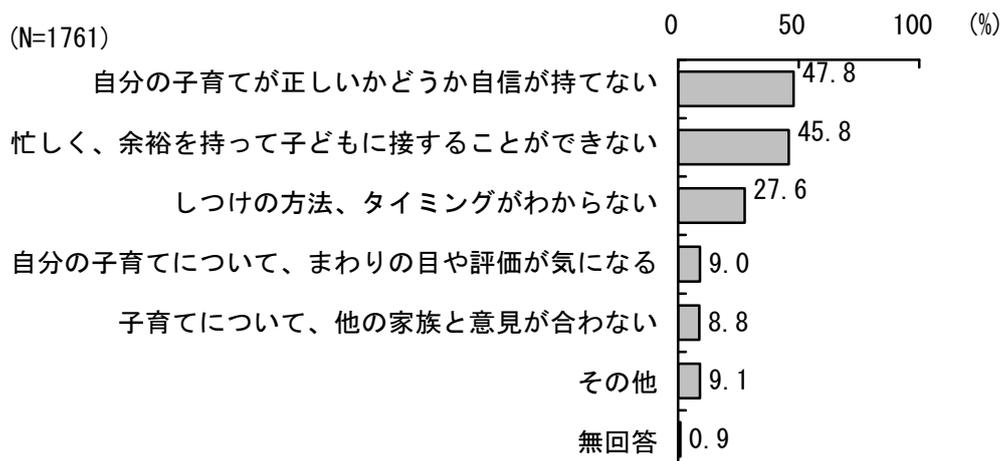
II 調査結果

問12 子育ての中で、悩んだり、不安になったりすることがありますか。(〇は1つ)

問12-1 「1 よくある」「2 時々ある」と回答、悩んだり、不安になったりすることは、どんなことですか。(〇はあてはまるものすべて)



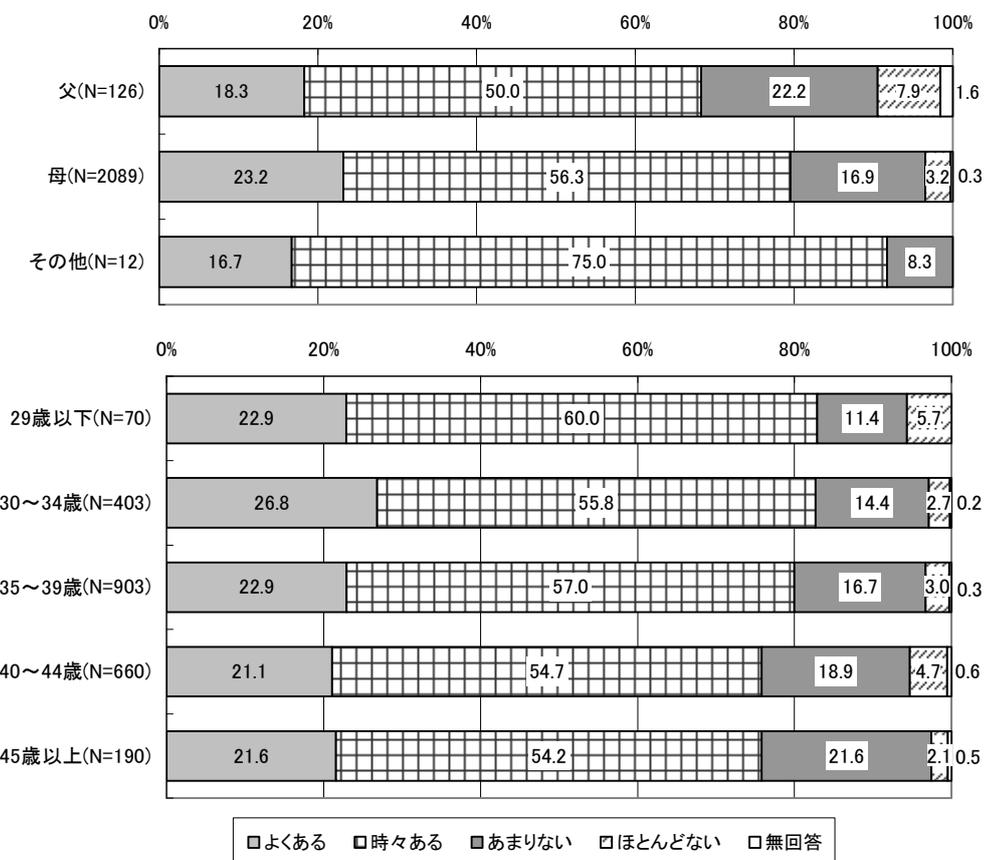
【悩んだり、不安になったりする理由】



『子育ての中で、悩んだり不安になったりすることがあるか』については、「時々ある」が 56.1%と過半数で最も多く、次いで「よくある」が 22.9%、「あまりない」が 17.2%、「ほとんどない」は 3.5%と少数派となっている。

『悩んだり、不安になったりする理由』については、「自分の子育てが正しいかどうか自信が持てない」が 47.8%、次いで「忙しく、余裕を持って子どもに接することができない」が 45.8%、「しつけの方法、タイミングがわからない」が 27.6%となっている。

問 1 2 × 回答者の続柄・年齢

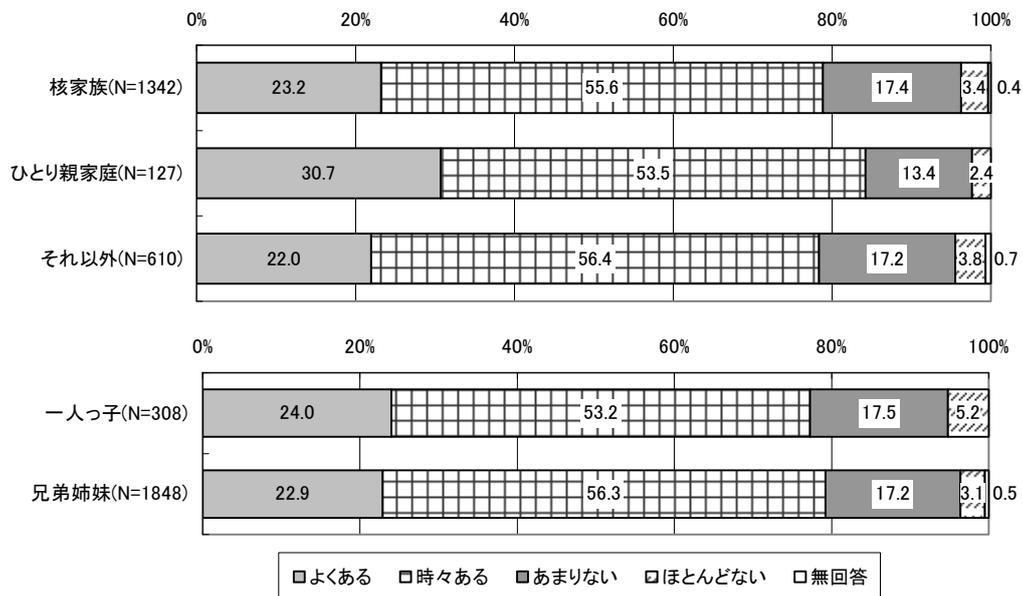


続柄別に『子育ての中で悩んだり不安になったりすることがあるか』について調べたところ、「父」は「あまりない」(22.2%)、「ほとんどない」(7.9%)と回答した割合が他よりも高くなっている。「母」は「よくある」(23.2%)と回答した割合が他よりも高くなっている。

年齢別に『子育ての中で悩んだり不安になったりすることがあるか』について調べたところ、「30～34歳」の親は「よくある」(26.8%)と回答した割合が他の年齢の親よりも高くなっている。また、年齢が上がるにつれて、「あまりない」と回答した割合が高くなっている。

II 調査結果

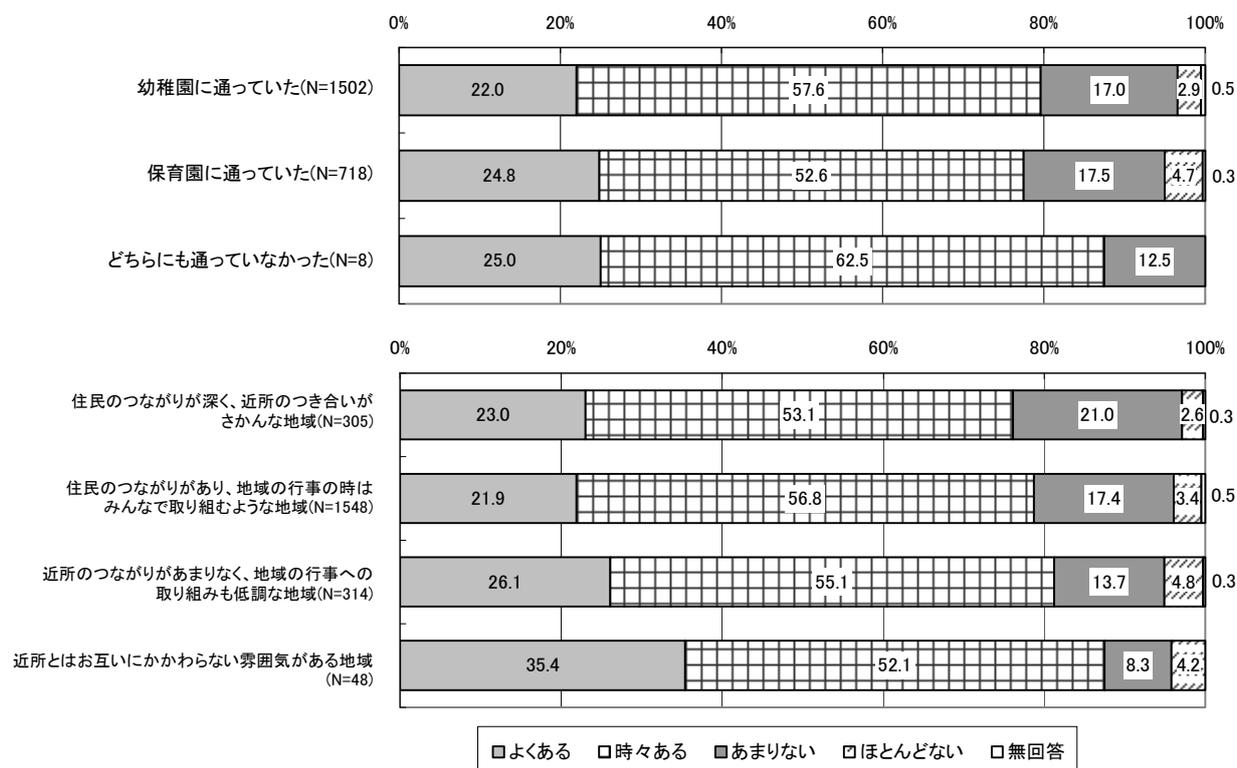
問1 2×家族構成・子どもの人数



家族構成別に『子育ての中で悩んだり不安になったりすることがあるか』について調べたところ、「ひとり親家庭」は「よくある」(30.7%)と回答した割合が他の家族構成よりも高くなっている。

子どもの人数別に『子育ての中で悩んだり不安になったりすることがあるか』について調べたところ、「一人っ子」の親では「時々ある」(53.2%)と回答した割合が「兄弟姉妹がいる」と回答した親よりも若干低く、「ほとんどない」(5.2%)と回答した割合は若干高くなっている。

問 1 2 × 通園状況・地域のつながり

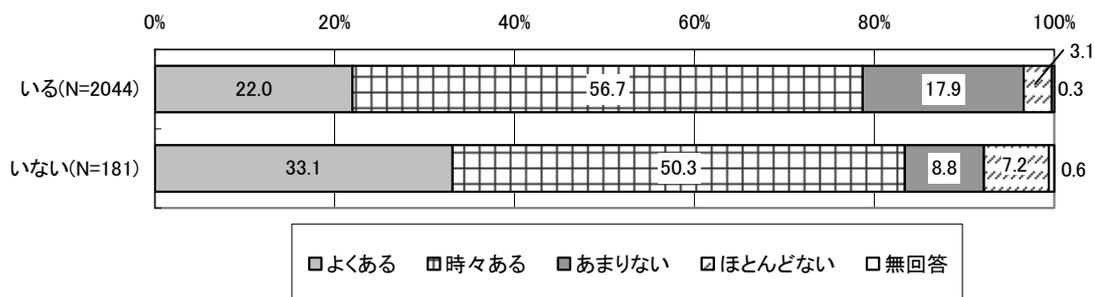


通園状況別に『子育ての中で悩んだり不安になったりすることがあるか』について調べたところ、「幼稚園に通っていた」と回答した親では「よくある」(22.0%)と回答した割合が他よりも低くなっている。また、「保育園に通っていた」と回答した親では「ほとんどない」(4.7%)と回答した割合が他よりも高くなっている。

地域のつながり別に『子育ての中で悩んだり不安になったりすることがあるか』について調べたところ、「住民のつながりが深く、近所のつき合いがさかんな地域」では「あまりない」(21.0%)と回答した割合が他地域よりも高くなっており、地域のつながりが希薄になるにつれてその割合は減る傾向にある。「近所とはお互いにかかわらない雰囲気がある地域」は「よくある」(35.4%)と回答した割合が他地域よりも高くなっている。

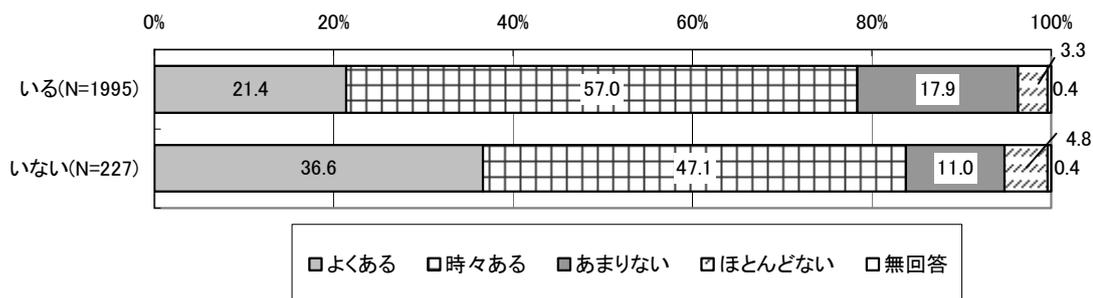
II 調査結果

問12×子育てについて話を聞いてもらえる人はいるか



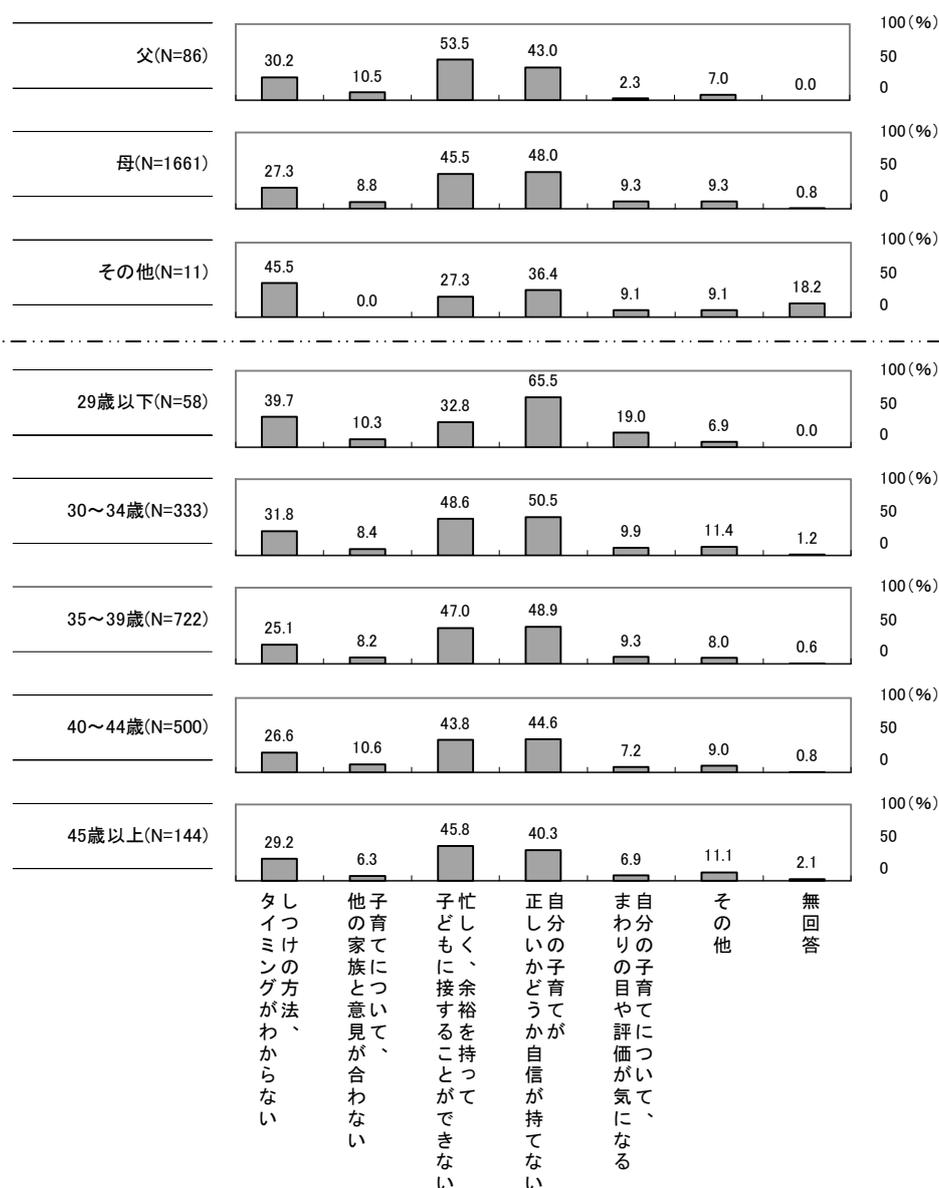
子育てについて家族以外で話を聞いてもらえる人の有無別に『子育ての中で悩んだり不安になったりすることがあるか』について調べたところ、「いる」親では「よくある」「時々ある」を合わせると78.7%、「いない」親では「よくある」「時々ある」を合わせると83.4%となっており、話を聞いてもらえる人がいる人ほど、不安に感じる数が少なくなっている。

問12×子育てについて相談できる人はいるか



子育てについて家族以外に相談できる人の有無別に『子育ての中で悩んだり不安になったりすることがあるか』について調べたところ、「いる」親では「よくある」「時々ある」を合わせると78.4%、「いない」親では「よくある」「時々ある」を合わせると83.7%となっており、相談できる人がいる人ほど、不安に感じる数が少なくなっている。

問 1 2. 1 × 回答者の続柄・年齢

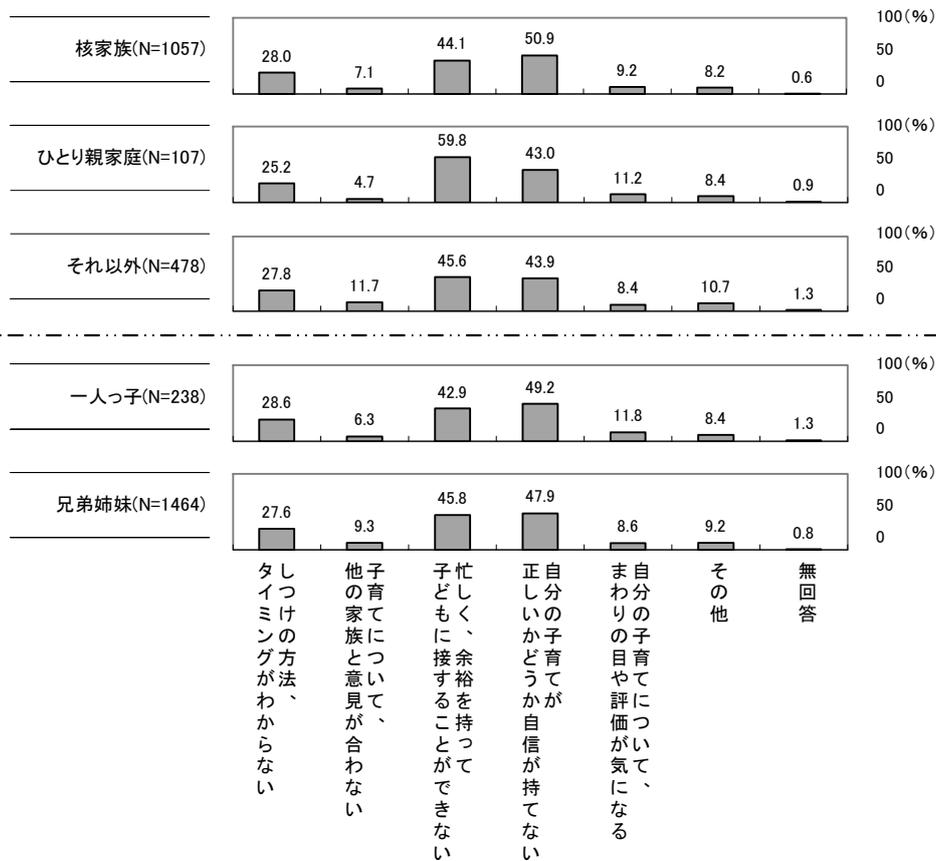


続柄別に『悩みや不安の内容』について調べたところ、「父」は「忙しく、余裕を持って子どもに接することができない」(53.5%)という回答が他よりも多くなっている。また、「自分の子育てについて、まわりの目や評価が気になる」(2.3%)という回答が他よりも少なくなっている。

年齢別に『悩みや不安の内容』について調べたところ、“44歳以下”の親では「自分の子育てが正しいかどうか自信が持てない」という回答が最も多くなっている。特に「29歳以下」の親ではその割合が高くなっている。「45歳以上」の親では「忙しく、余裕を持って子どもに接することができない」(45.8%)という回答が最も多くなっている。また、年齢が上がるにつれて、「自分の子育てについて、まわりの目や評価が気になる」という回答の割合が減っていく傾向にある。

II 調査結果

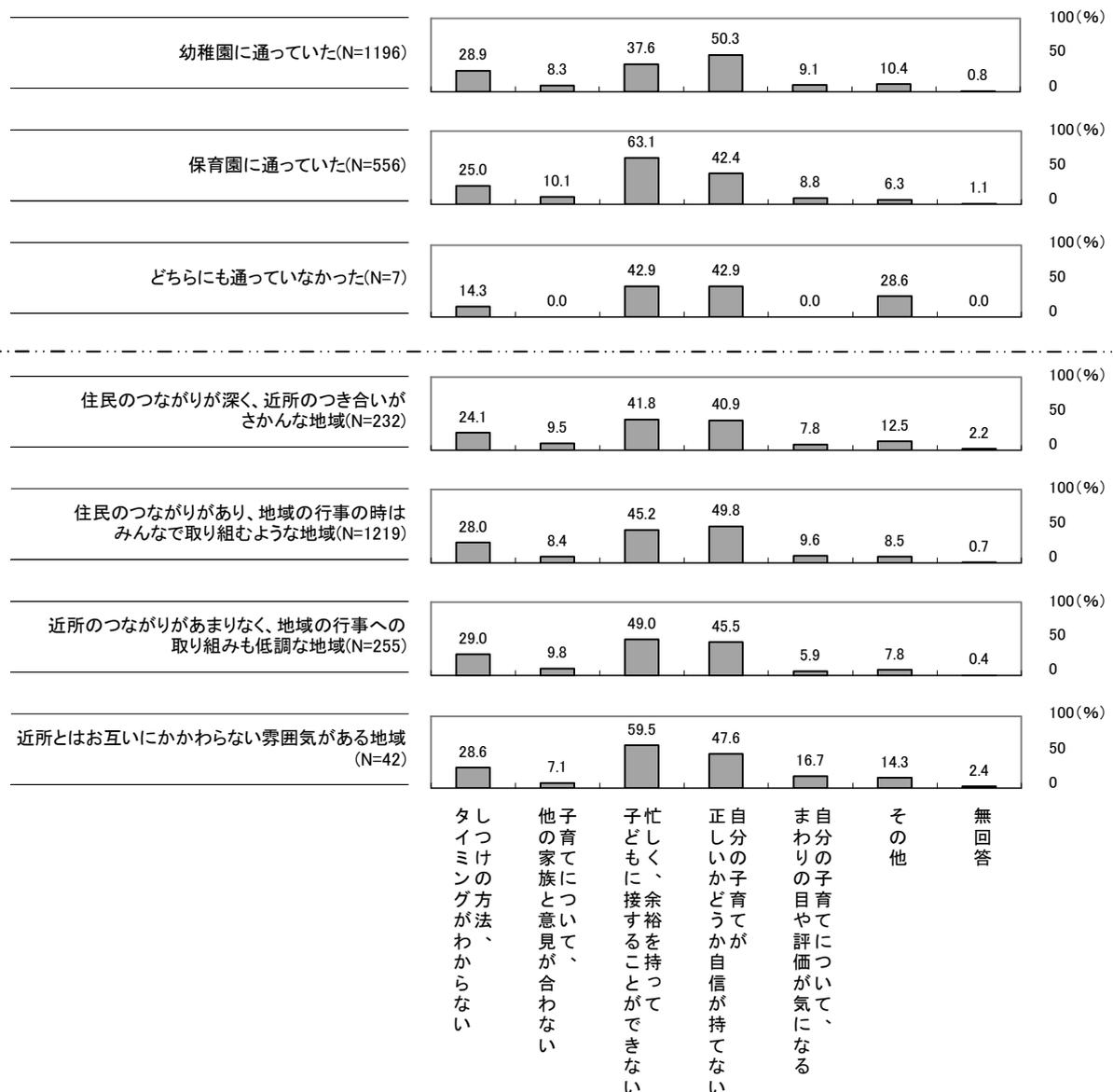
問 1 2. 1 × 家族構成・子どもの人数



家族構成別に『悩みや不安の内容』について調べたところ、「核家族」は「自分の子育てが正しいかどうか自信が持てない」(50.9%)という回答が他の家族構成よりも多くなっている。「ひとり親家庭」は「忙しく、余裕を持って子どもに接することができない」(59.8%)という回答が他の家族構成よりも多くなっている。

子どもの人数別に『悩みや不安の内容』について調べたところ、「一人っ子」の親では、「兄弟姉妹がいる」と回答した親より「自分の子育てが正しいかどうか自信が持てない」(49.2%)、「自分の子育てについて、まわりの目や評価が気になる」(11.8%)と回答した割合が若干高くなっている。「兄弟姉妹がいる」と回答した親では、「一人っ子」の親より「忙しく、余裕を持って子どもに接することができない」(45.8%)と回答した割合が若干高くなっている。また「兄弟姉妹がいる」と回答した親では、「自分の子育てについて、まわりの目や評価が気になる」(8.6%)と回答した割合が最も低くなっている。

問 1 2. 1 × 通園状況・地域のつながり



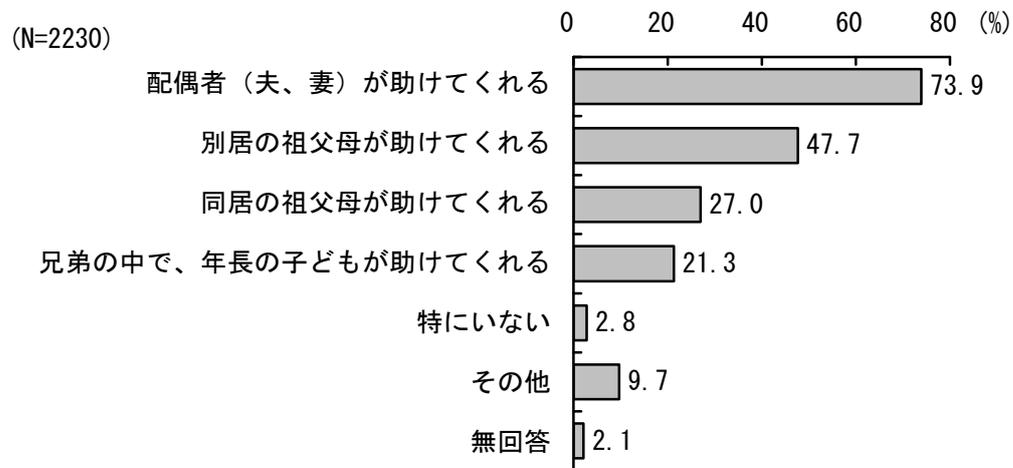
通園状況別に『悩みや不安の内容』について調べたところ、「幼稚園に通っていた」と回答した親では「自分の子育てが正しいかどうか自信が持てない」(50.3%)という回答が他の通園状況の家庭よりも多くなっている。「保育園に通っていた」と回答した親では「忙しく、余裕を持って子どもに接することができない」(63.1%)という回答が他の通園状況の家庭よりも多くなっている。

地域のつながり別に『悩みや不安の内容』について調べたところ、地域とのつながりが希薄になるほど「忙しく、余裕を持って子どもに接することができない」という回答の割合が増える傾向にある。

Ⅱ 調査結果

問13 子育てをしていくにあたり、あなたを手助けしてくれる人は誰ですか。

(○はあてはまるものすべて)

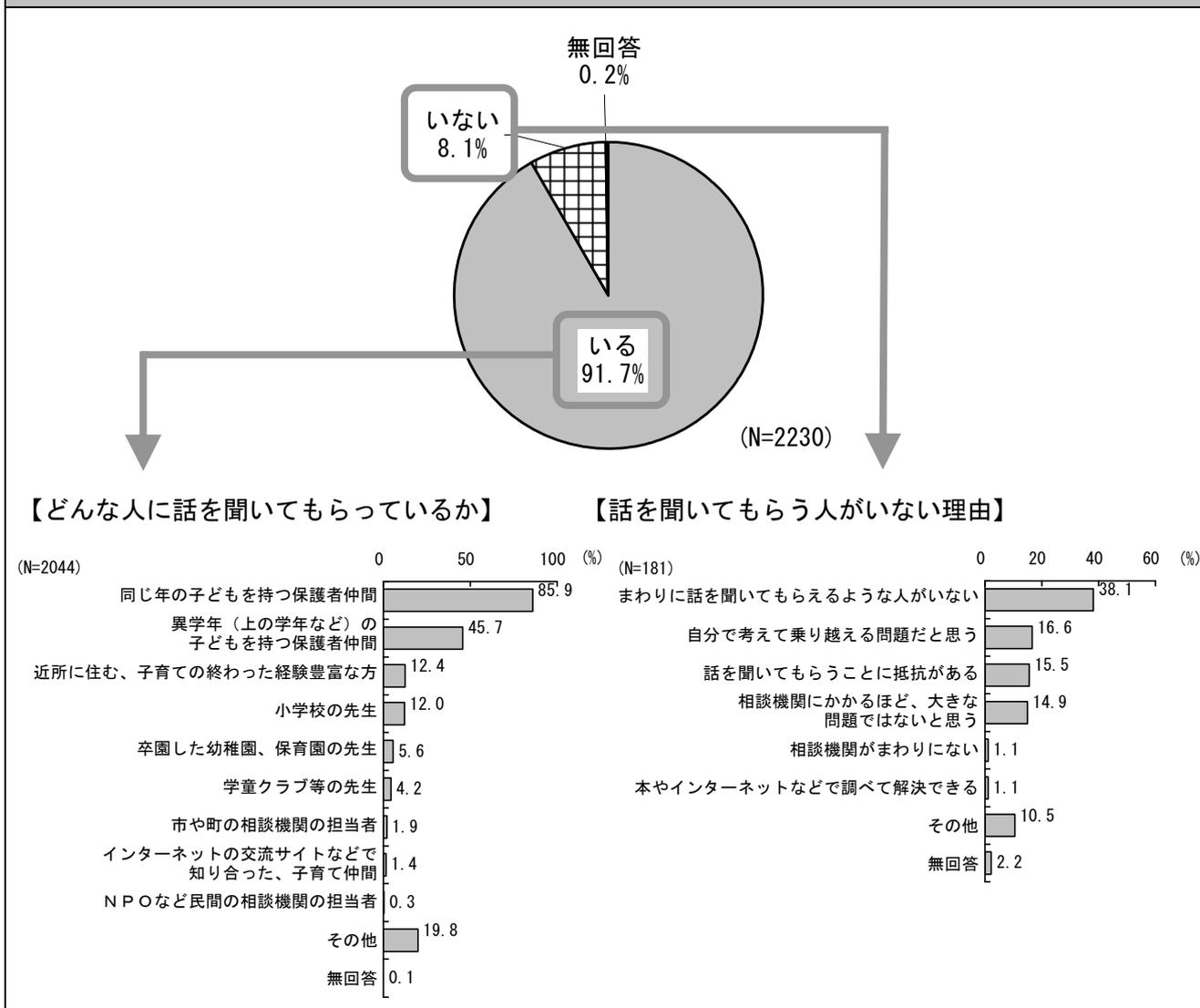


『子育てにあたり手助けしてくれる人』については、「配偶者（夫、妻）が助けてくれる」が 73.9%と最も多く、次いで「別居の祖父母が助けてくれる」が 47.7%、「同居の祖父母が助けてくれる」が 27.0%、「兄弟の中で、年長の子どもが助けてくれる」が 21.3%となっている。「特にいない」は 2.8%となっている。

問14 子育てについて、家族以外で話を聞いてもらえる（ぐちを聞いてもらえる、ちょっとしたアドバイスもらえるなど）人はいますか。（○は1つ）

問14-1 「1 いる」と答えた方、その人はどのような人ですか。（○はあてはまるものすべて）

問14-2 「2 いない」と答えた方、それぞれいない理由として最も近いものを選んでください。（○は1つ）



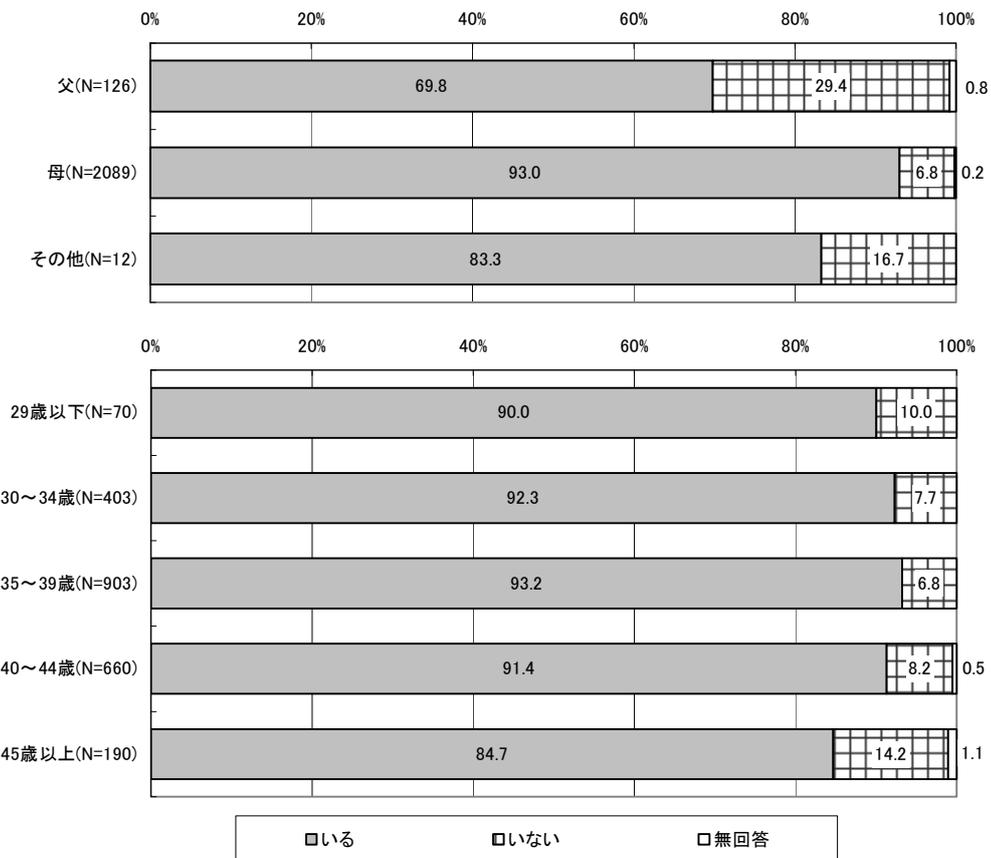
『子育てについて、家族以外で話を聞いてもらえる人がいるか』については、「いる」が 91.7%で約 9割を占め、「いない」が 8.1%となっている。

『どんな人に話を聞いてもらっているか』については、「同年の子どもを持つ保護者仲間」が 85.9%と最も多く、次いで「異学年（上の学年など）の子どもを持つ保護者仲間」が 45.7%、「近所に住む、子育ての終わった経験豊富な方」「小学校の先生」が共に約 1割となっている。

『話を聞いてもらう人がいない理由』については、「まわりに話を聞いてもらえるような人がいない」が最も多く 38.1%、「自分で考えて乗り越える問題だと思う」が 16.6%、「話を聞いてもらうことに抵抗がある」が 15.5%となっている。

II 調査結果

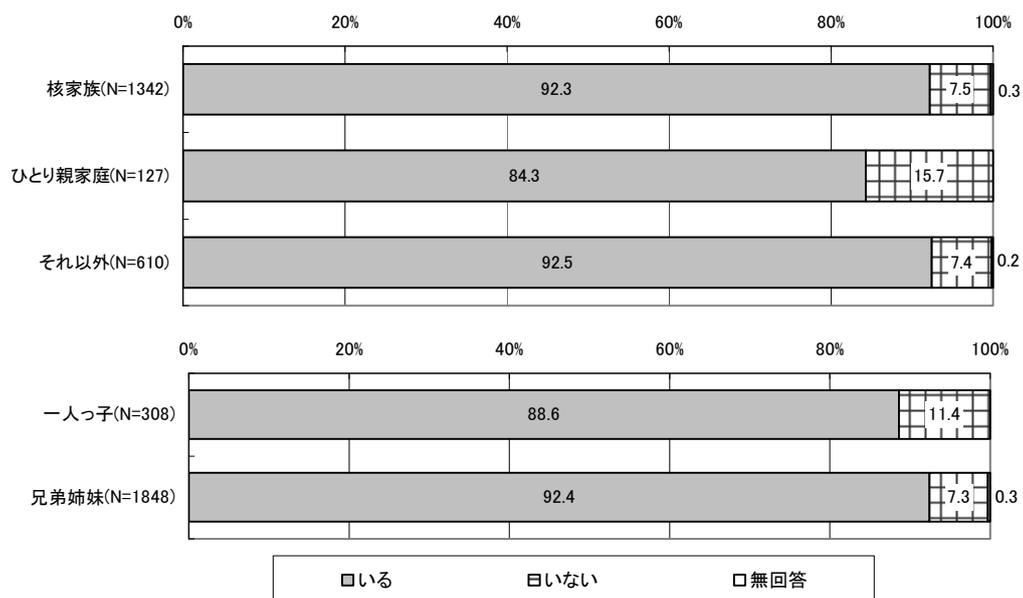
問 1 4 × 回答者の続柄・年齢



続柄別に『子育てについて家族以外で話を聞いてもらえる人がいるか』について調べたところ、「母」は9割以上が「いる」(93.0%)と回答している。「父」の「いる」(69.8%)と回答した割合は7割程度である。

年齢別に『子育てについて家族以外で話を聞いてもらえる人がいるか』について調べたところ、「45歳以上」の親は「いる」(84.7%)と回答した割合が他の年齢の親よりも低くなっている。

問 14 × 家族構成・子どもの人数

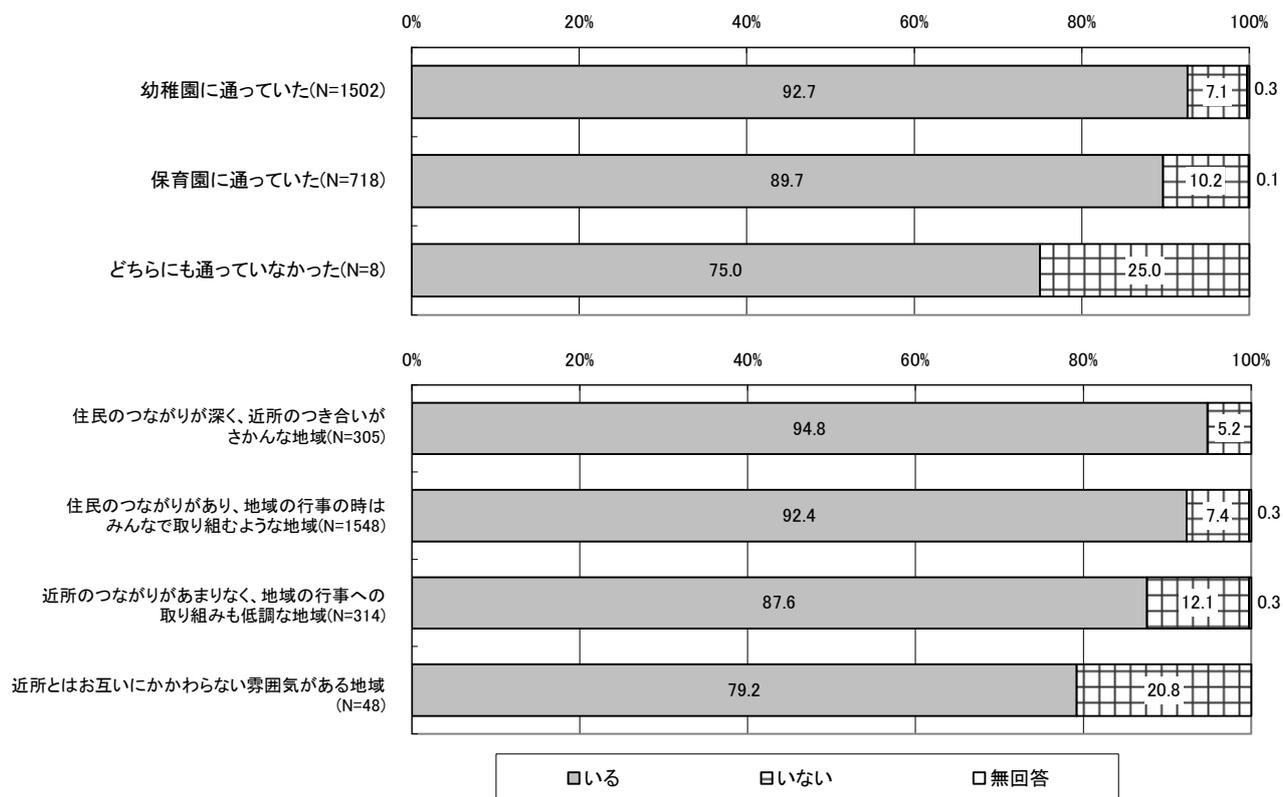


家族構成別に『子育てについて家族以外で話を聞いてもらえる人がいるか』について調べたところ、「ひとり親家庭」は「いる」(84.3%)と回答した割合が他の家族構成よりも低くなっている。

子どもの人数別に『子育てについて家族以外で話を聞いてもらえる人がいるか』について調べたところ、「一人っ子」の親は「いる」(88.6%)と回答した割合が「兄弟姉妹がいる」と回答した親よりも低くなっている。

II 調査結果

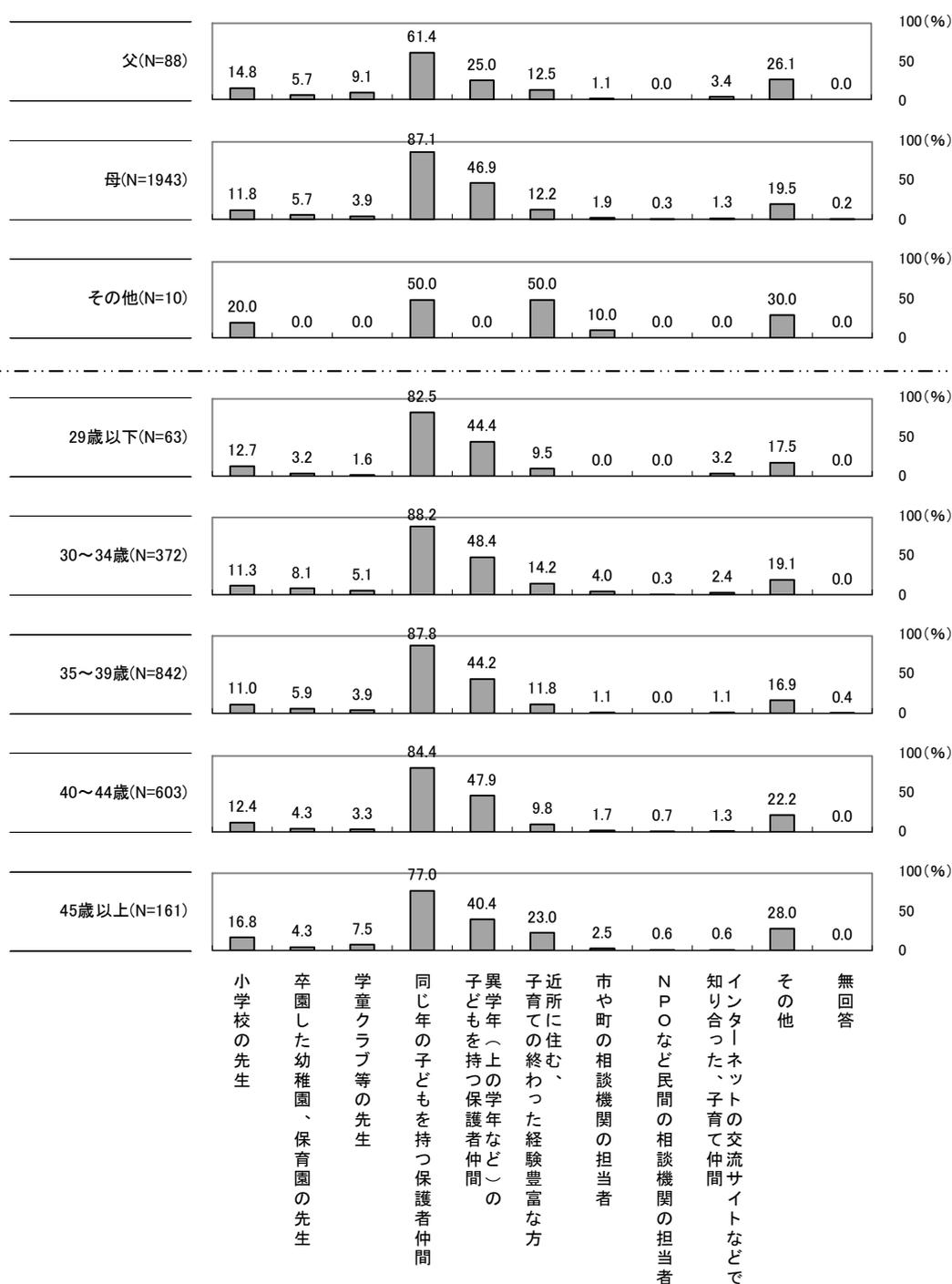
問 1 4 × 通園状況・地域のつながり



通園状況別に『子育てについて家族以外で話を聞いてもらえる人がいるか』について調べたところ、「幼稚園に通っていた」と回答した親は「いる」(92.7%)と回答した割合が他の通園状況の家庭よりも高くなっている。

地域のつながり別に『子育てについて家族以外で話を聞いてもらえる人がいるか』について調べたところ、地域のつながりが深くなるにつれて、「いる」という回答の割合が高くなっている。

問 1 4-1 × 回答者の続柄・年齢

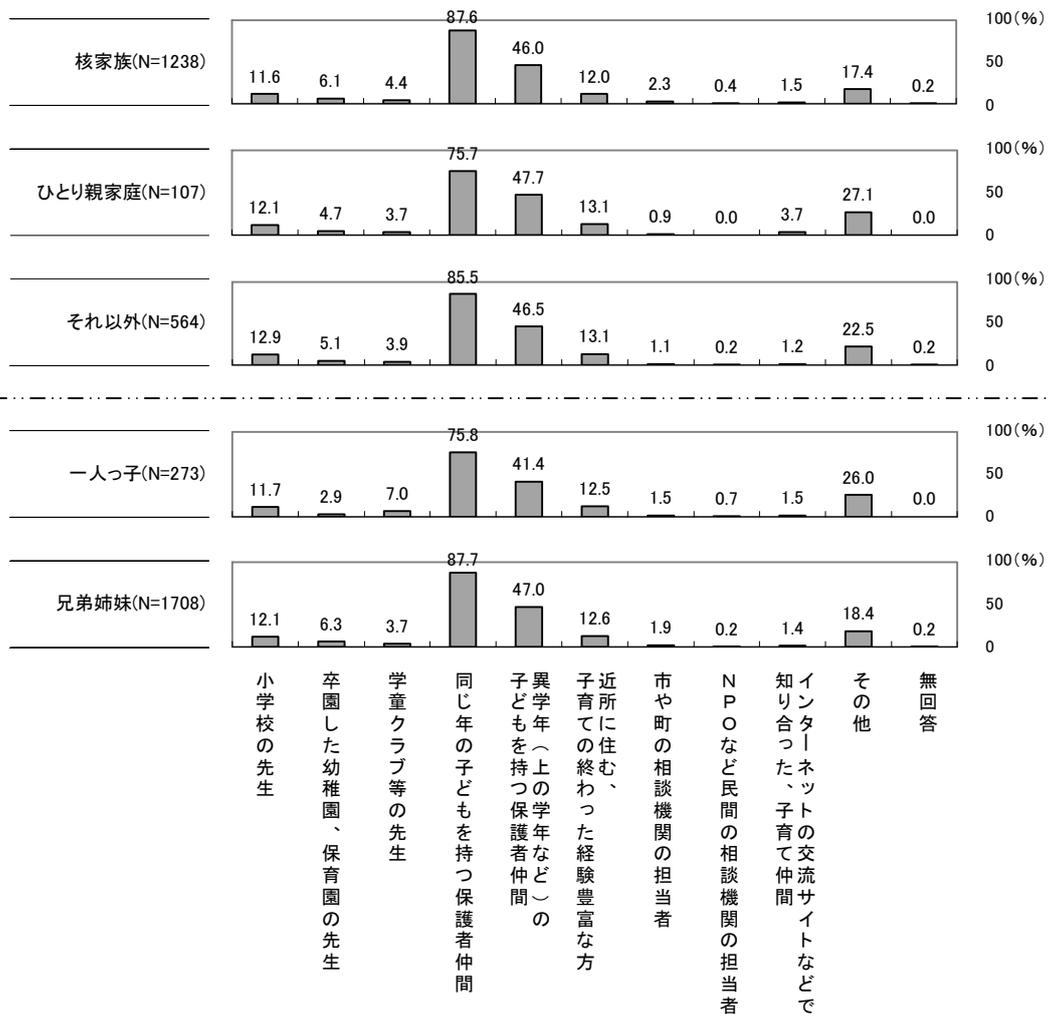


続柄別に『家族以外で話を聞いてもらえる人はどのような人か』について調べたところ、「母」では「同じ年の子どもを持つ保護者仲間」(87.1%)、「異学年(上の学年など)の子どもを持つ保護者仲間」(46.9%)の割合が、他よりも20%以上高くなっている。「父」では「その他」が2番目に多くなっているが、内容は『友人』や『職場の仲間』などである。

年齢別に『家族以外で話を聞いてもらえる人はどのような人か』について調べたところ、「45歳以上」の親は「同じ年の子どもを持つ保護者仲間」(77.0%)、「異学年(上の学年など)の子どもを持つ保護者仲間」(40.4%)と回答した割合が他の年齢の親よりも低くなり、「近所に住む、子育ての終わった経験豊富な方」(23.0%)と回答した割合が他の年齢の親よりも高くなっている。

II 調査結果

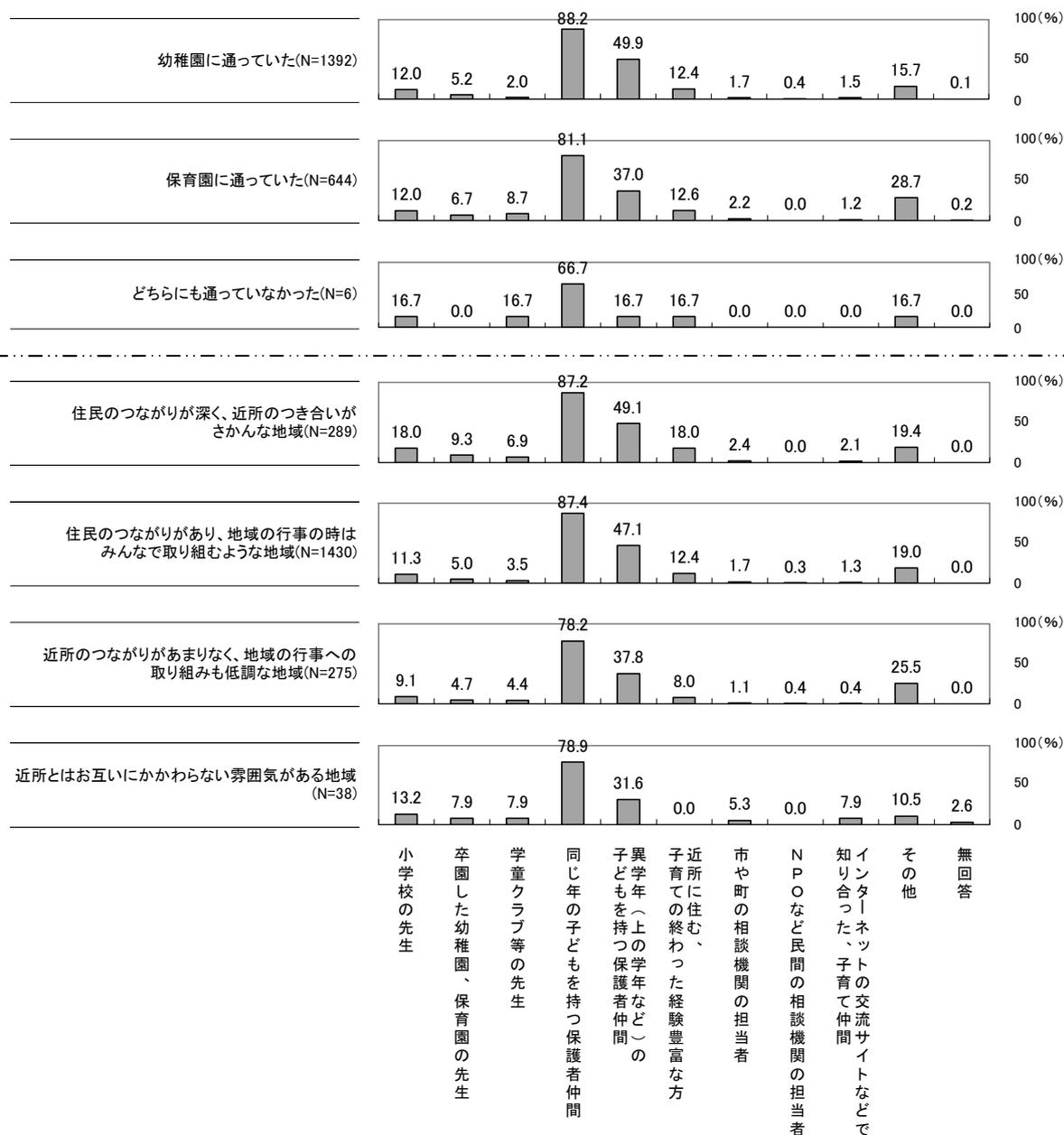
問 1 4-1 × 家族構成・子どもの人数



家族構成別に『家族以外で話を聞いてもらえる人はどのような人か』について調べたところ、「ひとり親家庭」では「同じ年の子どもを持つ保護者仲間」（75.7%）と回答した割合が他の家族構成よりも低くなっている。「その他」の回答としては、どの家族構成においても『友人』や『職場の仲間』が多かった。

子どもの人数別に『家族以外で話を聞いてもらえる人はどのような人か』について調べたところ、「一人っ子」の親では「同じ年の子どもを持つ保護者仲間」（75.8%）、「異学年（上の学年など）の子どもを持つ保護者仲間」（41.4%）のどちらについても、「兄弟姉妹」がいると回答した親よりも回答した割合が低く、「その他」（26.0%）と回答した割合が高くなっている。「一人っ子」の親の「その他」の回答としては、『友人』や『職場仲間』が多かった。また少数ではあるが『習い事の先生』、『親戚』、『掛かりつけ医』などの回答も見られた。

問 1 4-1 × 通園状況・地域のつながり

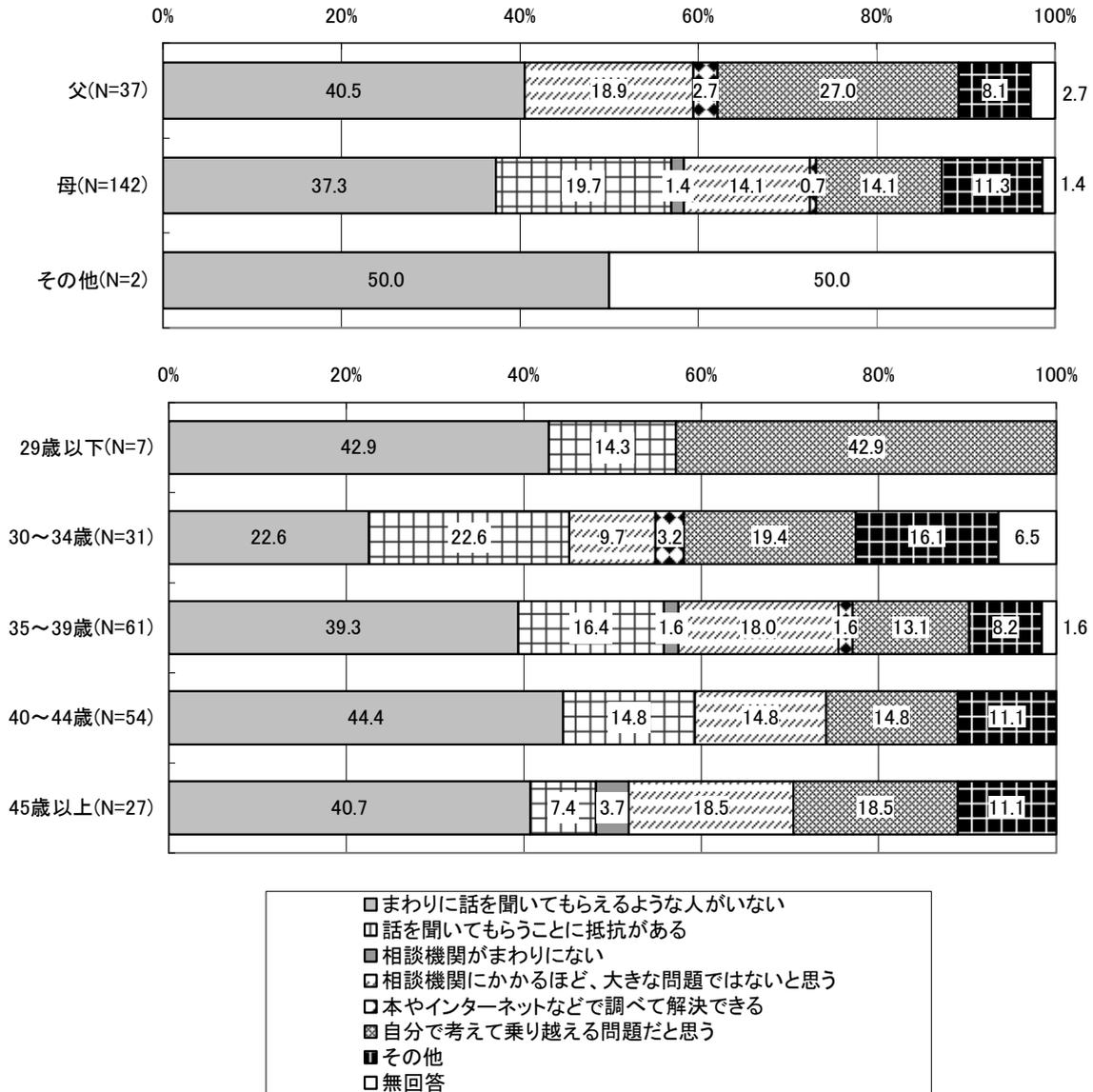


通園状況別に『家族以外で話を聞いてもらえる人はどのような人か』について調べたところ、「幼稚園に通っていた」と回答した親では「同じ年の子どもを持つ保護者仲間」（88.2%）、「異学年（上の学年など）の子どもを持つ保護者仲間」（49.9%）のいずれも「保育園に通っていた」と回答した親よりも選んだ割合が高くなっている。「保育園に通っていた」と回答した親では「その他」（28.7%）を選んだ割合が高いが、内容としては『友人』や『職場仲間』が多かった。

地域のつながり別に『家族以外で話を聞いてもらえる人はどのような人か』について調べたところ、地域とのつながりが深くなるにつれて「異学年（上の学年など）の子どもを持つ保護者仲間」、「近所に住む、子育ての終わった経験豊富な方」と回答した割合が高くなっている。

II 調査結果

問 1 4-2 × 回答者の続柄・年齢

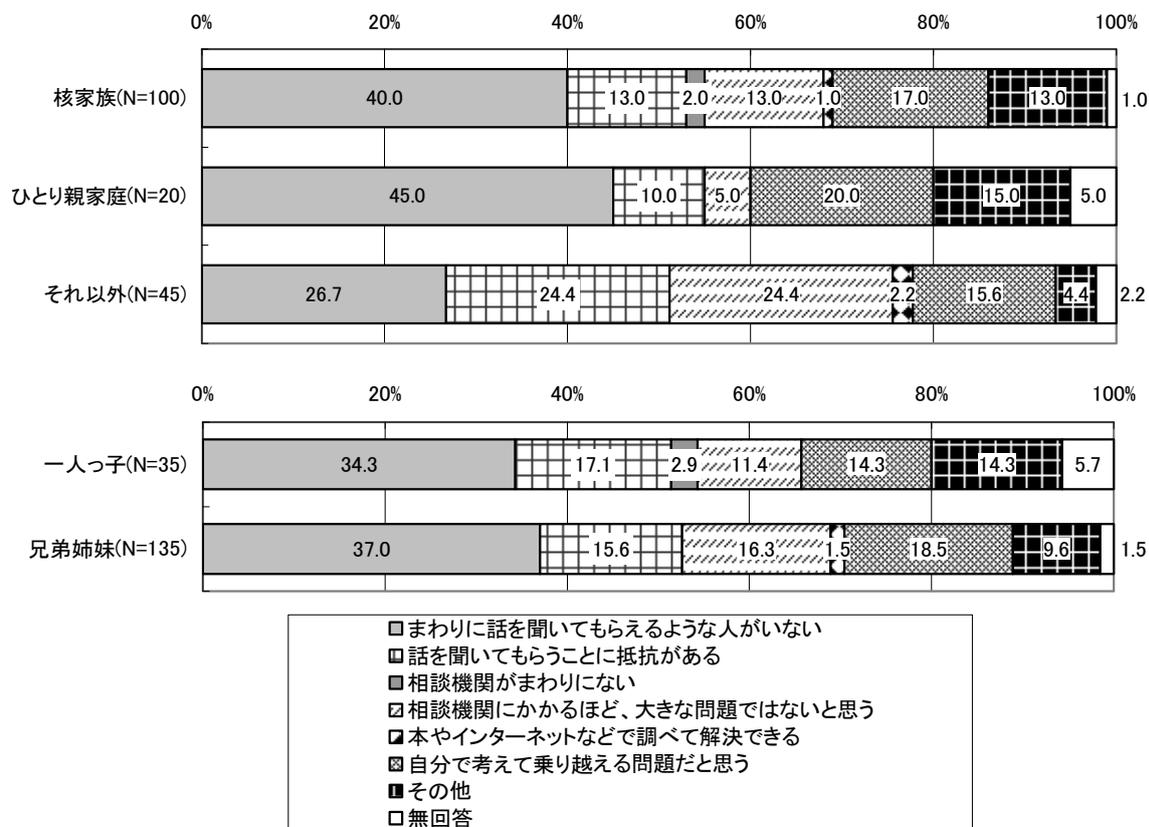


続柄別に『家族以外で話を聞いてもらえる人がいない理由』について調べたところ、「父」は「相談機関にかかるほど、大きな問題ではない」（18.9%）、「自分で考えて乗り越える問題だと思う」（27.0%）と回答した割合が他よりも高くなっている。「母」には「話を聞いてもらうことに抵抗がある」（19.7%）という回答が唯一見られ、2割近くを占めている。

年齢別に『家族以外で話を聞いてもらえる人がいない理由』について調べたところ、「30～34歳」の親では「まわりに話を聞いてもらえるような人がいない」（22.6%）と回答した割合が他の年齢の親よりも極めて低くなっている。

“30～45歳以上”では、年齢が上がるにつれて「話を聞いてもらうことに抵抗がある」という回答の割合が減っていく傾向にある。また、「30～34歳」「35～39歳」では「本やインターネットで調べて解決できる」という回答が、それぞれ3.2%、1.6%とわずかながら見られる。

問 1 4-2 × 家族構成・子どもの人数

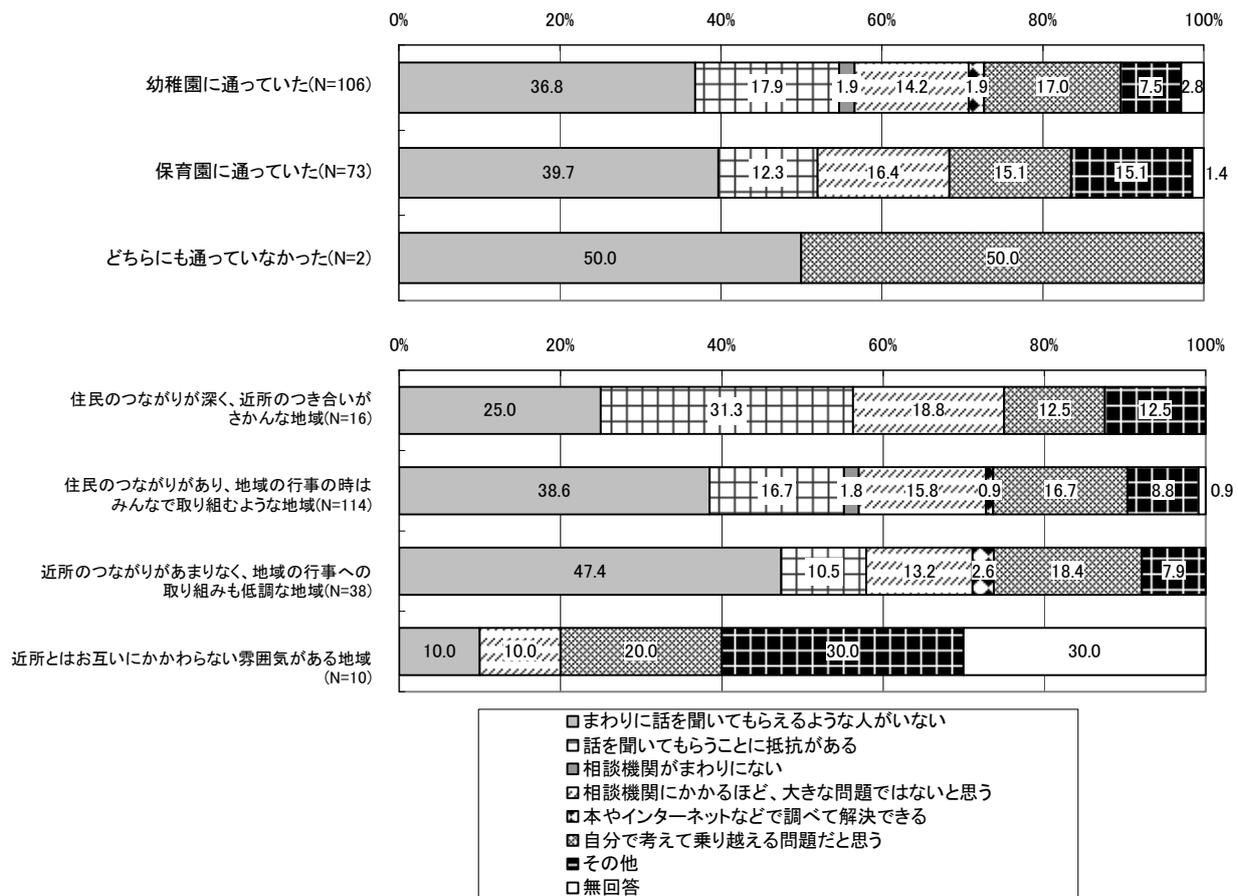


家族構成別に『家族以外で話を聞いてもらえる人がいない理由』について調べたところ、「それ以外」の親は「まわりに話を聞いてもらえるような人がいない」(26.7%)と回答した割合が他の家族構成よりも低くなっている。また、「話を聞いてもらうことに抵抗がある」(24.4%)、「相談機関にかかるほど、大きな問題ではないと思う」(24.4%)と回答した割合が他の家族構成よりも高くなっている。

子どもの人数別に『家族以外で話を聞いてもらえる人がいない理由』について調べたところ、「兄弟姉妹がいる」と回答した親は「まわりに話を聞いてもらえるような人がいない」(37.0%)、「相談機関にかかるほど、大きな問題ではないと思う」(16.3%)、「自分で考えて乗り越える問題だと思う」(18.5%)と回答した割合が「一人っ子」の親よりも高くなっている。

II 調査結果

問 1 4-2 × 通園状況・地域のつながり



通園状況別に『家族以外で話を聞いてもらえる人がいない理由』について調べたところ、「幼稚園に通っていた」と回答した親では、「話を聞いてもらうことに抵抗がある」(17.9%)、「自分で考えて乗り越える問題だと思う」(17.0%)の2項目で、「保育園に通っていた」と回答した親よりも選んだ割合が高くなっている。また、「保育園に通っていた」と回答した親では、「まわりに話を聞いてもらえるような人がいない」(39.7%)、「相談機関にかかるほど、大きな問題ではないと思う」(16.4%)の2項目で、「幼稚園に通っていた」と回答した親よりも選んだ割合が若干高くなっている。

地域のつながり別に『家族以外で話を聞いてもらえる人がいない理由』について調べたところ、「近所とはお互いにかかわらない雰囲気がある地域」を除くと、地域のつながりが希薄になるほど「まわりに話を聞いてもらえるような人がいない」と回答した割合が高くなっている。

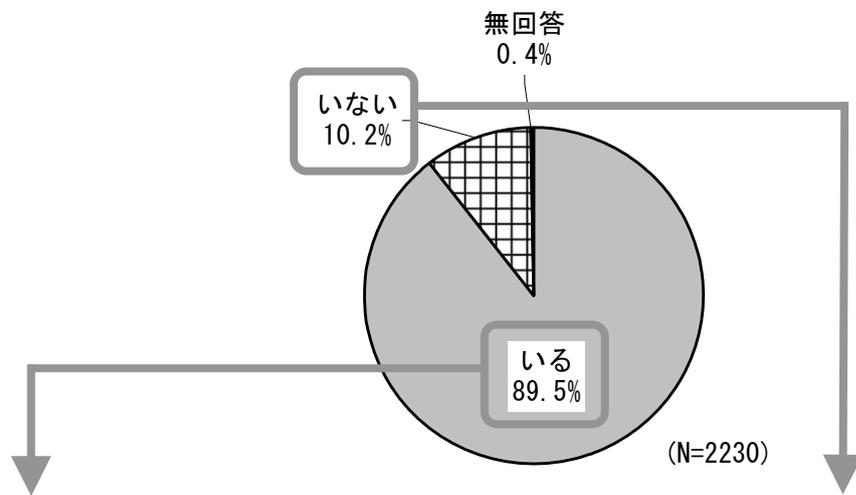
また全体を通して、地域のつながりが希薄になるほど、「話を聞いてもらうことに抵抗がある」「相談機関にかかるほど大きな問題ではないと思う」と回答した割合が低くなり、「自分で考えて乗り越える問題だと思う」と回答した割合が高くなっている。

問15 子育てについて、家族以外に相談できる人はいますか。(〇は1つ)

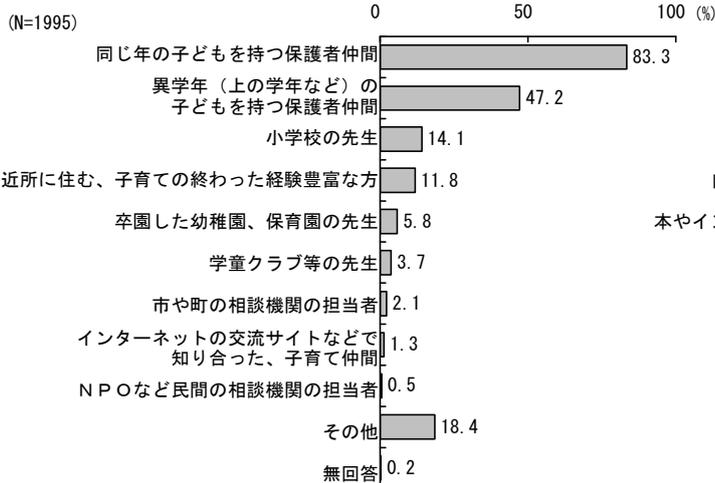
問15-1 「1 いる」と答えた方、その人はどのような人ですか。(〇はあてはまるものすべて)

問15-2 「2 いない」と答えた方、それぞれいない理由として最も近いものを選んでください。

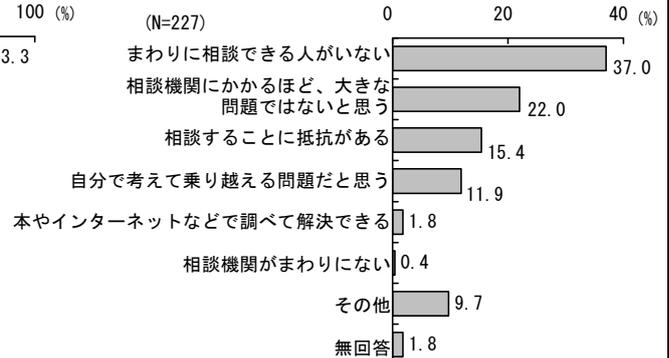
(〇は1つ)



【どんな人に相談しているか】



【相談する人がいない理由】



『子育てについて、家族以外に相談できる人がいるか』については、「いる」が 89.5%で約9割を占め、「いない」が 10.2%となっている。

問14の『家族以外で話を聞いてもらえる人はいますか』で「いる」(91.7%)と回答した人と比較すると、若干ではあるが、「いる」と回答した割合が減っていることが分かる。

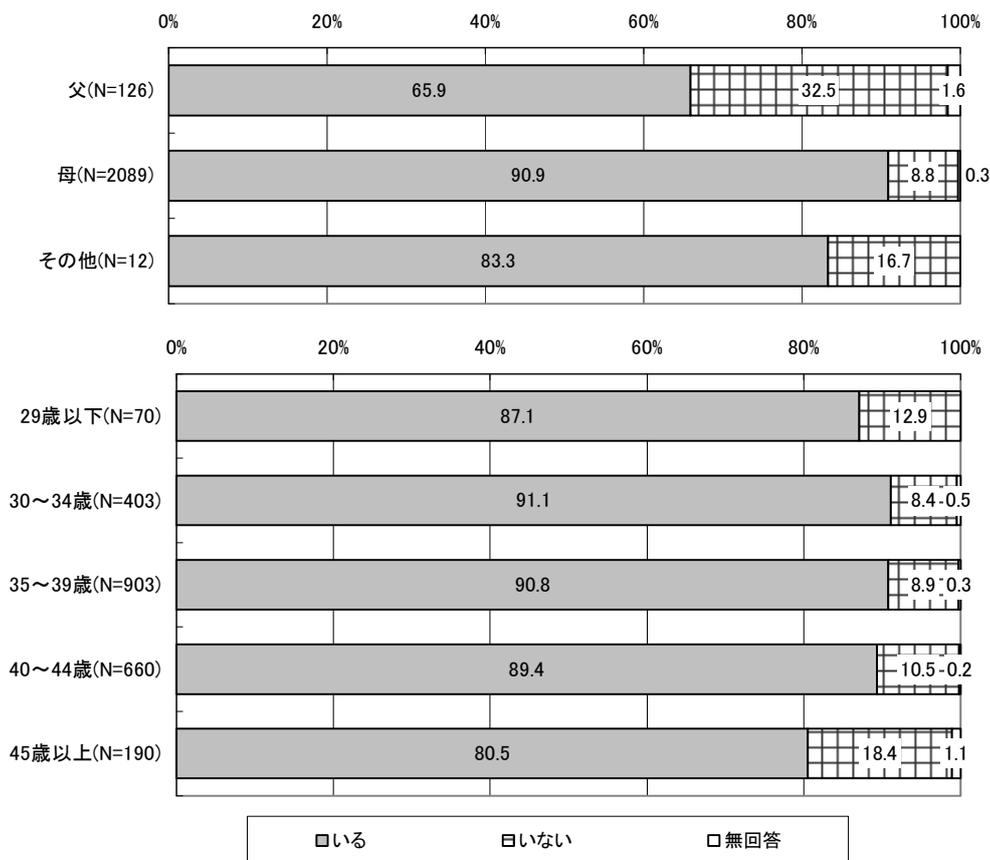
『どんな人に相談しているか』については、「同じ年の子どもを持つ保護者仲間」が 83.3%と約8割を占め、次いで「異学年(上の学年など)の子どもを持つ保護者仲間」が 47.2%、「小学校の先生」(14.1%)、「近所に住む、子育ての終わった経験豊富な方」(11.8%)と続く。

問14-1の『どんな人に話を聞いてもらっているか』と比較すると、「どんな人に相談しているか」では「異学年(上の学年など)の子どもを持つ保護者仲間」「小学校の先生」を選ぶ割合が若干増えていることがわかる。

『相談する人がいない理由』については、「まわりに相談できる人がいない」が最も多く 37.0%、次いで「相談機関にかかるほど、大きな問題ではないと思う」が 22.0%となっている。

II 調査結果

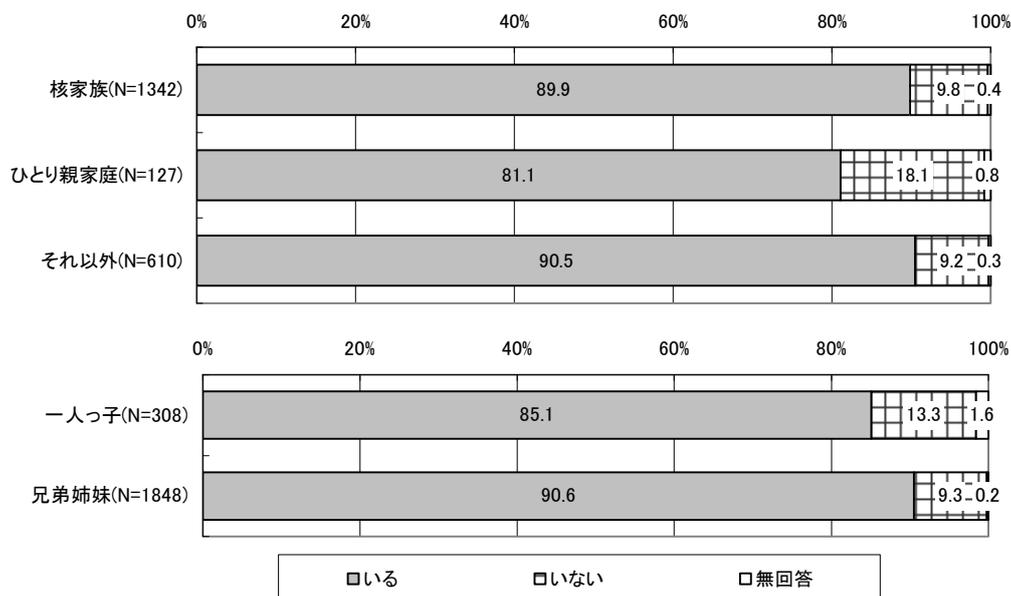
問15×回答者の続柄・年齢



続柄別に『子育てについて家族以外に相談できる人はいるか』について調べたところ、「母」は9割以上が「いる」と回答している。「父」は「いる」と回答した人が6.5割ほどとなっている。

年齢別に『子育てについて家族以外に相談できる人はいるか』について調べたところ、「45歳以上」の親は「いない」(18.4%)と回答した割合が他の年齢の親よりも高くなっている。

問 15 × 家族構成・子どもの人数

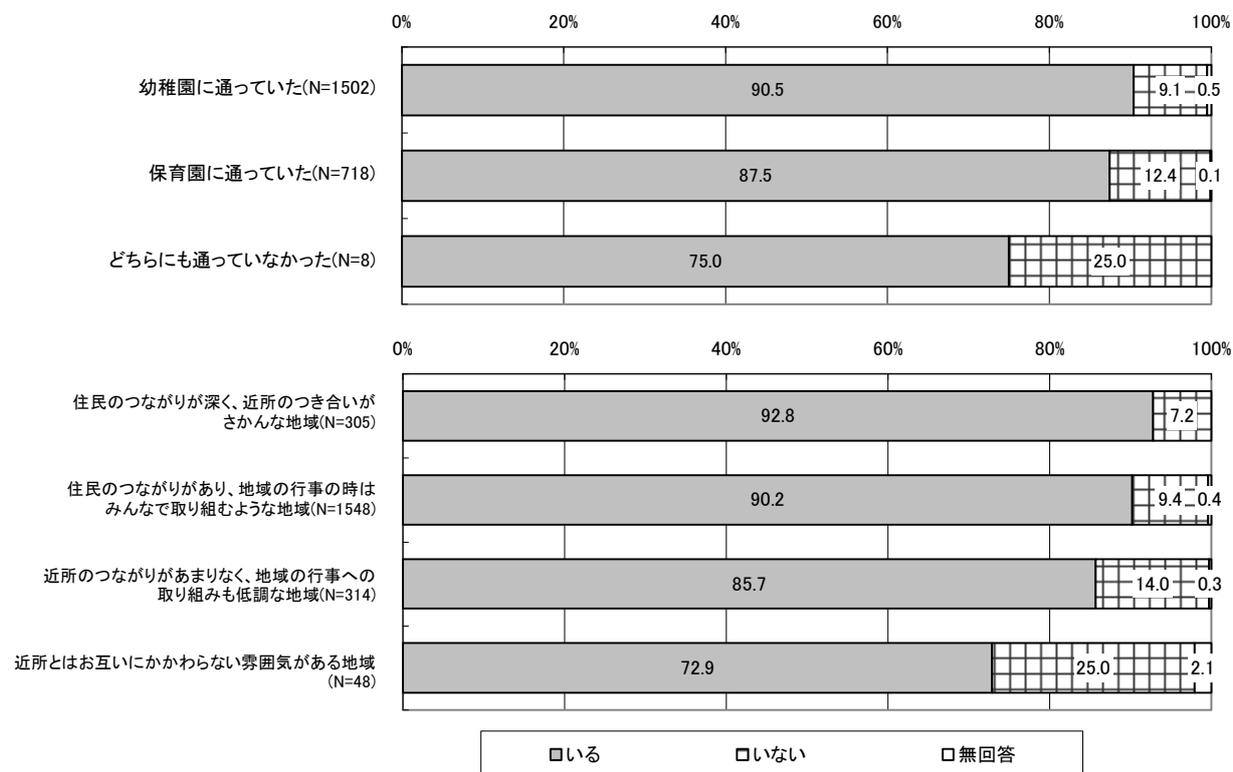


家族構成別に『子育てについて家族以外に相談できる人はいるか』について調べたところ、「ひとり親家庭」は「いない」(18.1%)と回答した割合が他の家族構成よりも高くなっている。

子どもの人数別に『子育てについて家族以外に相談できる人はいるか』について調べたところ、「一人っ子」の親は「いない」(13.3%)と回答した割合が「兄弟姉妹」がいると回答した親よりも高くなっている。

II 調査結果

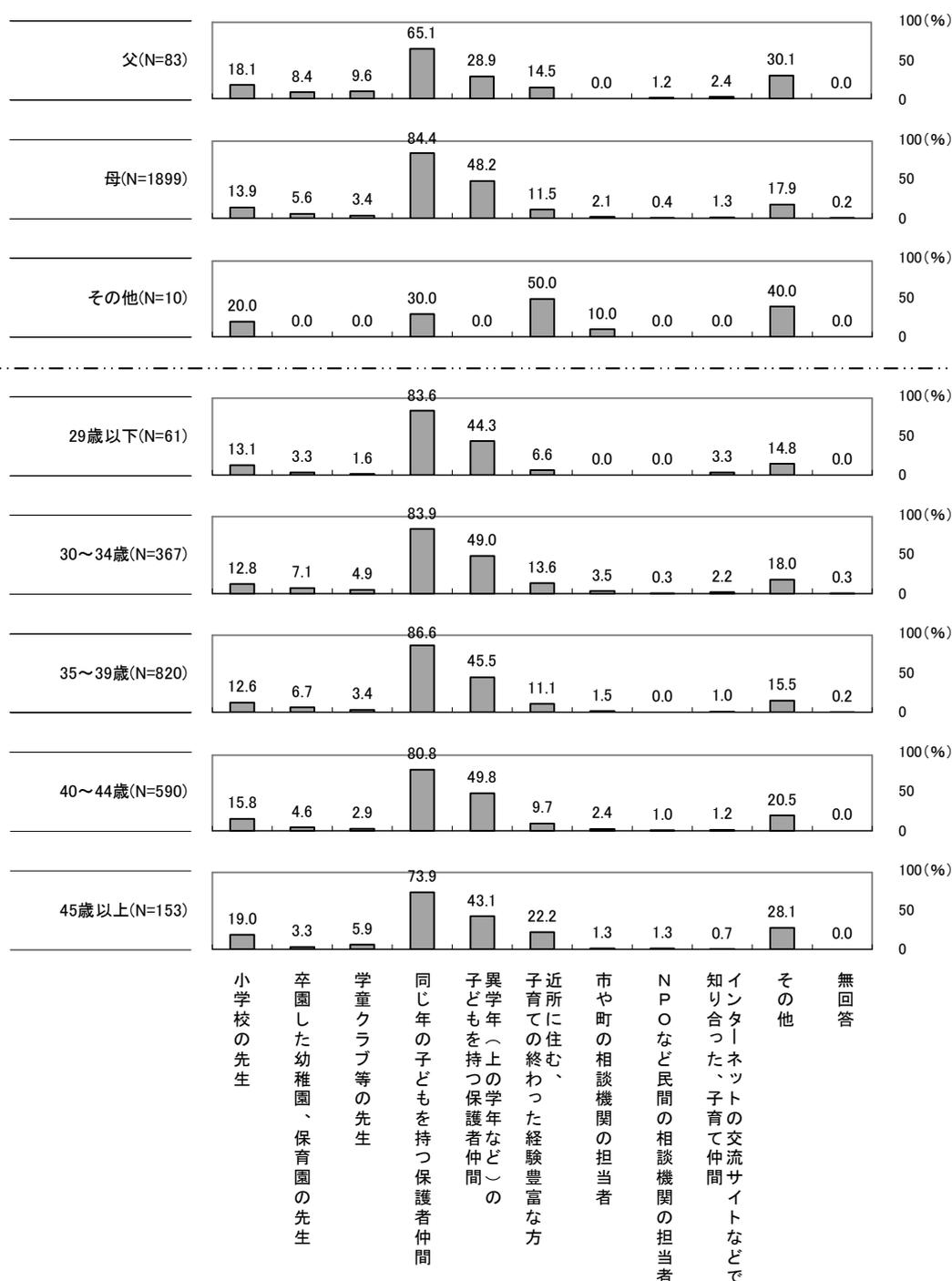
問 15 × 通園状況・地域のつながり



通園状況別に『子育てについて家族以外に相談できる人はいるか』について調べたところ、「幼稚園に通っていた」と回答した親では、「いる」(90.5%)と回答した割合が他の通園状況の親より高くなっている。

地域のつながり別に『子育てについて家族以外に相談できる人はいるか』について調べたところ、地域のつながりが深いほど「いる」と回答した割合が高くなっている。

問 15-1 × 回答者の続柄・年齢

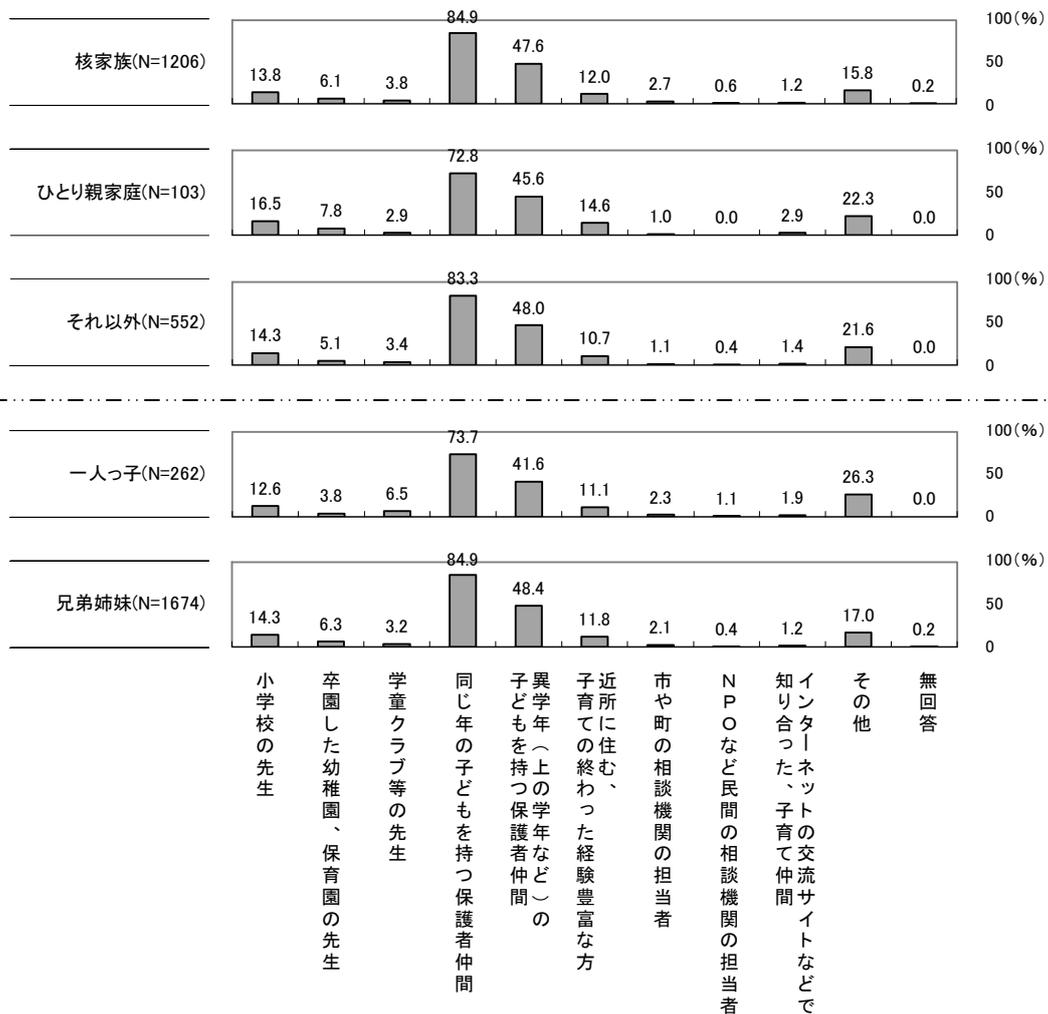


続柄別に『家族以外に相談できる人はどのような人か』について調べたところ、「母」では「同じ年の子どもを持つ保護者仲間」(84.4%)、「異学年（上の学年など）の子どもを持つ保護者仲間」(48.2%)の割合が、他よりも20%程度高くなっている。「父」では「その他」が2番目に多くなっているが、内容は『職場の仲間』が多く、『友人』なども見られた。

年齢別に『家族以外に相談できる人はどのような人か』について調べたところ、「45歳以上」の親では「同じ年の子どもを持つ保護者仲間」(73.9%)と回答した割合が他の年齢の親よりも低くなっている。また、「近所に住む、子育ての終わった経験豊富な方」(22.2%)と回答した割合が唯一2割以上と他の年齢の親よりも高くなっている。「29歳以下」の親では、「インターネットの交流サイトなどで知り合った、子育て仲間」(3.3%)の割合が若干高くなっている。

II 調査結果

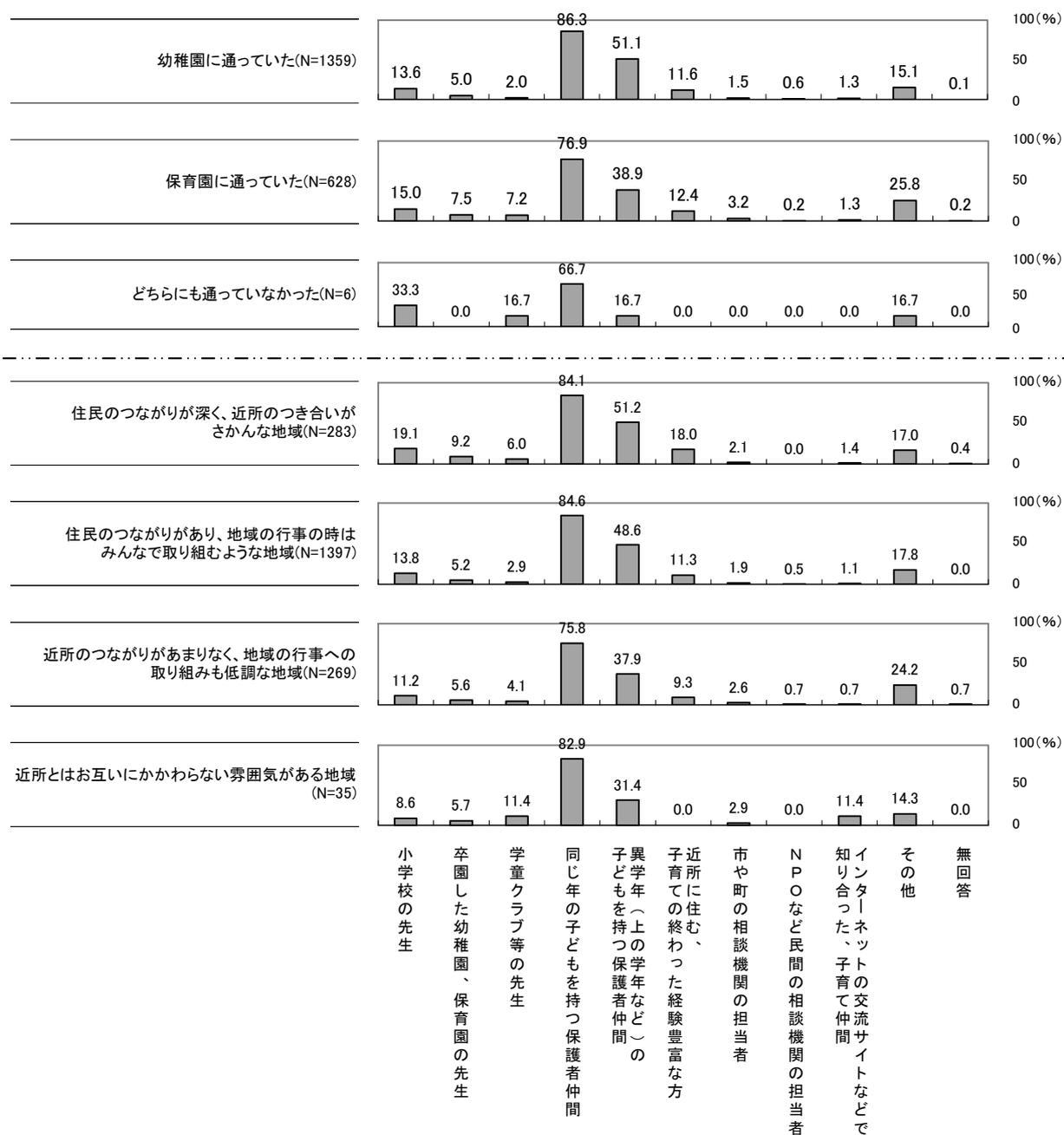
問 15-1 × 家族構成・子どもの人数



家族構成別に『家族以外に相談できる人はどのような人か』について調べたところ、「ひとり親家庭」では「同じ年の子どもを持つ保護者仲間」（72.8%）、「異学年（上の学年など）の子どもを持つ保護者仲間」（45.6%）が他の家族構成より低くなっている。また、「小学校の先生」（16.5%）、「近所に住む、子育ての終わった経験豊富な方」（14.6%）等が、他の家族構成より若干高くなっている。「その他」の回答としては、どの家族構成においても『友人』や『職場の仲間』などが多く見られた。

子どもの人数別に『家族以外に相談できる人はどのような人か』について調べたところ、「一人っ子」の親では「同じ年の子どもを持つ保護者仲間」（73.7%）、「異学年（上の学年など）の子どもを持つ保護者仲間」（41.6%）と回答した割合が、「兄弟姉妹」がいると回答した親よりも低くなっており、「その他」（26.3%）を選んだ割合が高くなっている。「一人っ子」の親の「その他」の回答としては、『友人』や『職場の仲間』が多く、他にも『習い事の先生』などがあつた。

問 15-1 × 通園状況・地域のつながり

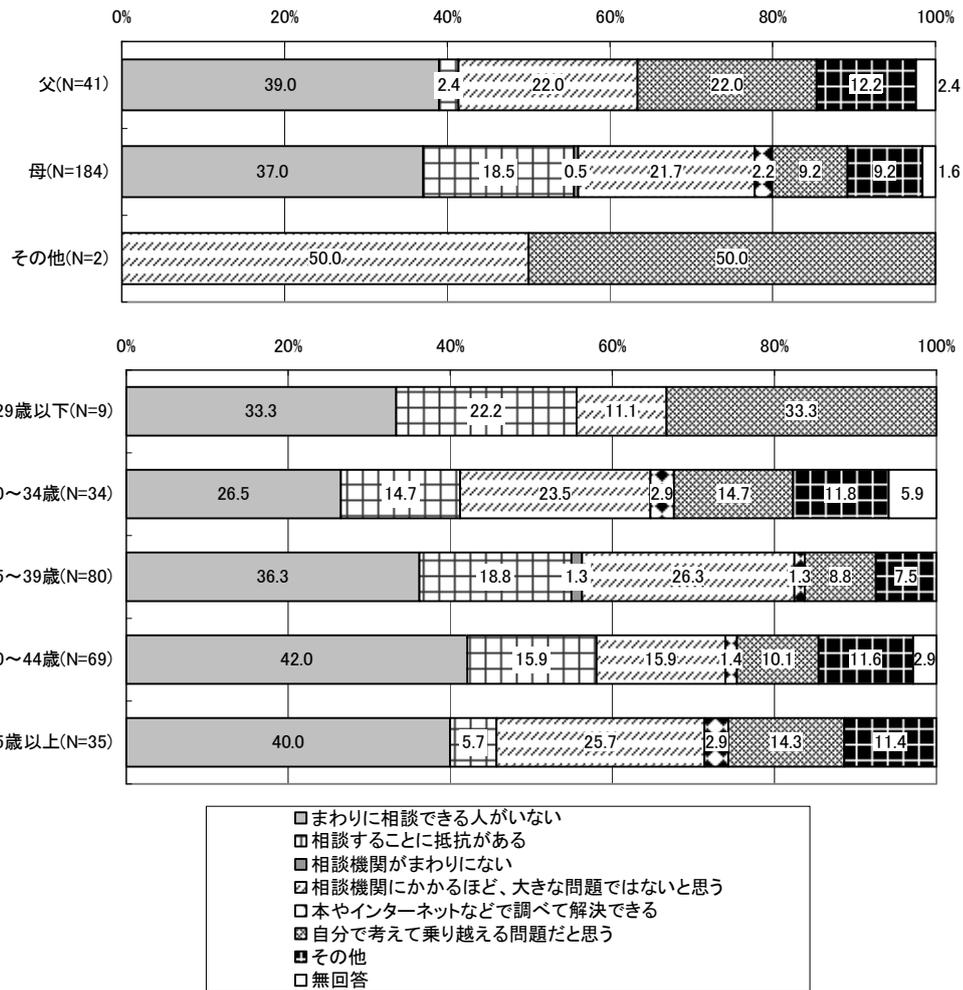


通園状況別に『家族以外に相談できる人はどのような人か』について調べたところ、「幼稚園に通っていた」と回答した親では「同じ年の子どもを持つ保護者仲間」(86.3%)、「異学年(上の学年など)の子どもを持つ保護者仲間」(51.1%)のいずれも、「保育園に通っていた」と回答した親よりも選んだ割合が高くなっている。「保育園に通っていた」と回答した親では「その他」(25.8%)を選んだ割合が高いが、内容としては『職場の仲間』が最も多く、次いで『友人』という回答が見られた。

地域のつながり別に『家族以外に相談できる人はどのような人か』について調べたところ、地域のつながりが深くなるほど「小学校の先生」、「異学年(上の学年など)の子どもを持つ保護者仲間」「近所に住む、子育ての終わった経験豊富な方」と回答した割合が高くなっている。

II 調査結果

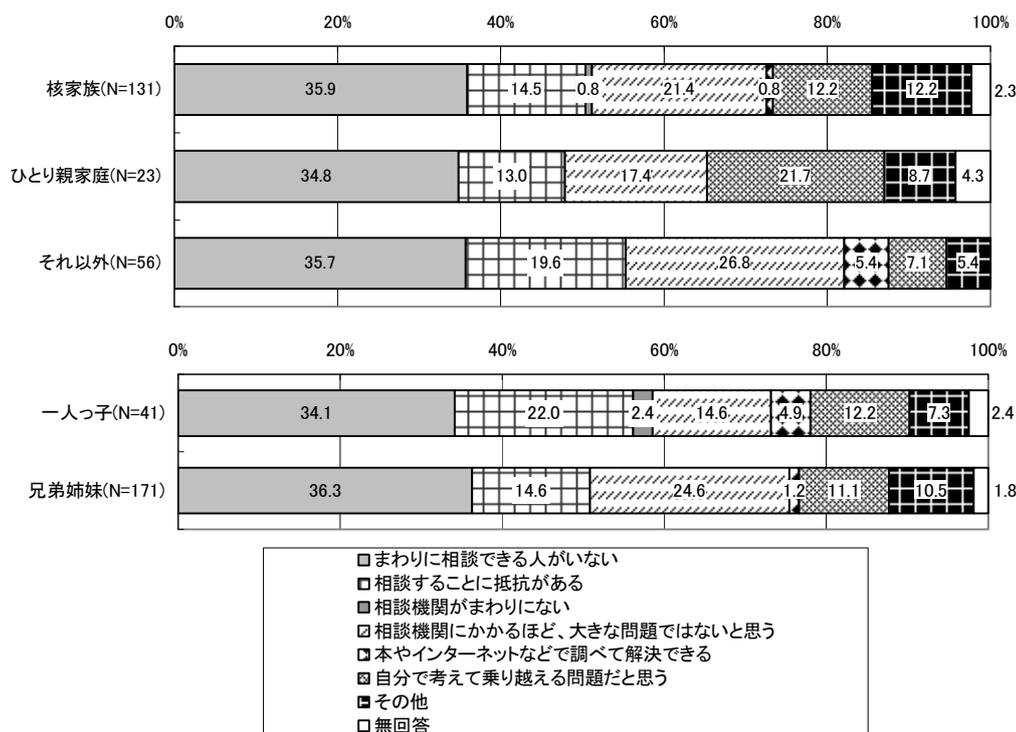
問 15-2 × 回答者の続柄・年齢



続柄別に『家族以外に相談できる人がいない理由』について調べたところ、「父」では「自分で考えて乗り越える問題だと思う」（22.0%）と回答した割合が、「母」よりも高くなっている。「母」では「相談することに抵抗がある」（18.5%）と回答した割合が、「父」よりも高くなっている。

年齢別に『家族以外に相談できる人がいない理由』について調べたところ、「30～34歳」の親では「まわりに相談できる人がいない」（26.5%）と回答した割合が他の年齢の親よりも極めて低くなっている

問 15-2 × 家族構成・子どもの人数

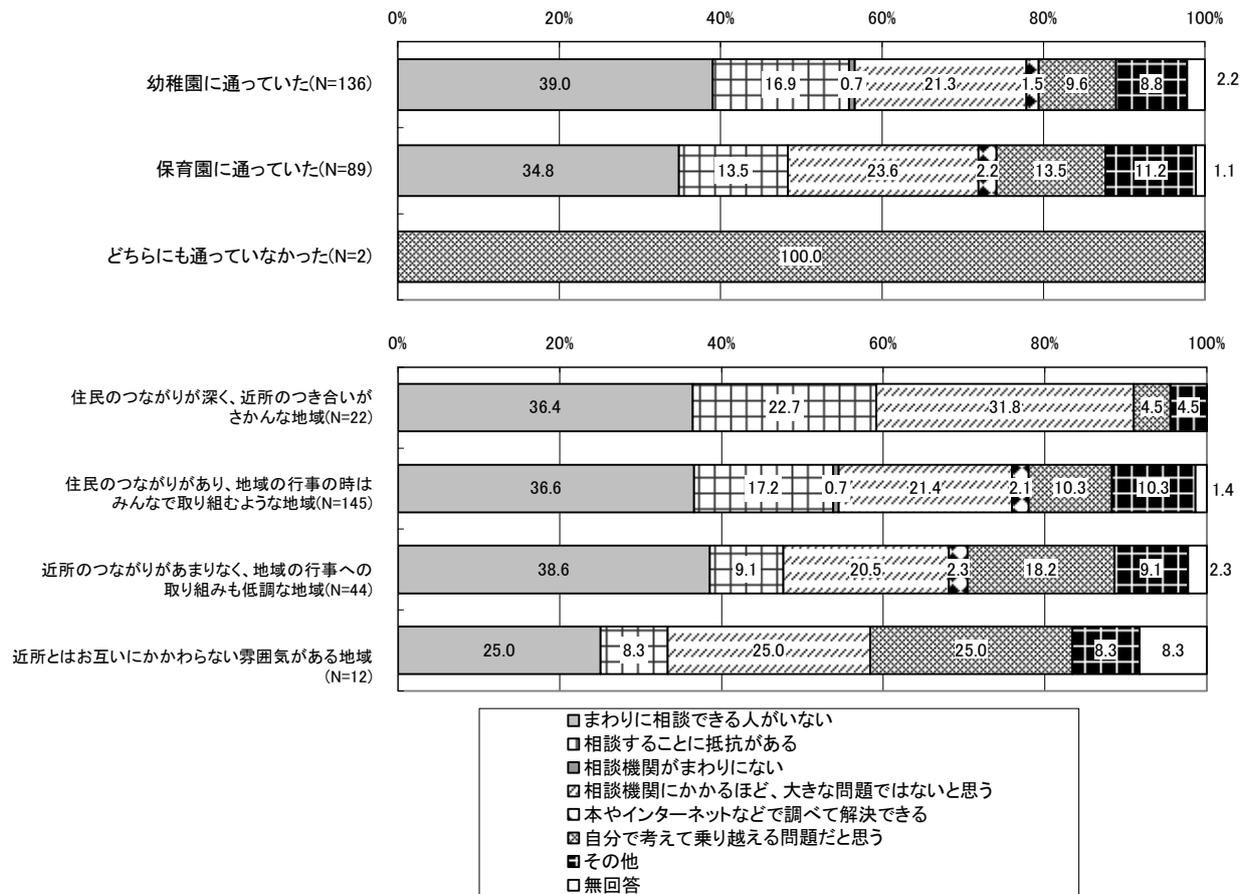


家族構成別に『家族以外に相談できる人がいない理由』について調べたところ、「ひとり親家庭」は「自分で考えて乗り越える問題だと思う」(21.7%)と回答した割合が他の家族構成よりも高くなっている。「それ以外」の親は「相談することに抵抗がある」(19.6%)、「相談機関にかかるほど、大きな問題ではないと思う」(26.8%)「本やインターネットなどで調べて解決できる」(5.4%)と回答した割合が他の家族構成よりも高くなっている。

子どもの人数別に『家族以外に相談できる人がいない理由』について調べたところ、「一人っ子」の親は「相談することに抵抗がある」(22.0%)、「本やインターネットなどで調べて解決できる」(4.9%)と回答した割合が「兄弟姉妹がいる」と回答した親よりも高くなっている。「兄弟姉妹がいる」と回答した親は「相談機関にかかるほど、大きな問題ではないと思う」(24.6%)と回答した割合が「一人っ子」の親よりも高くなっている。

II 調査結果

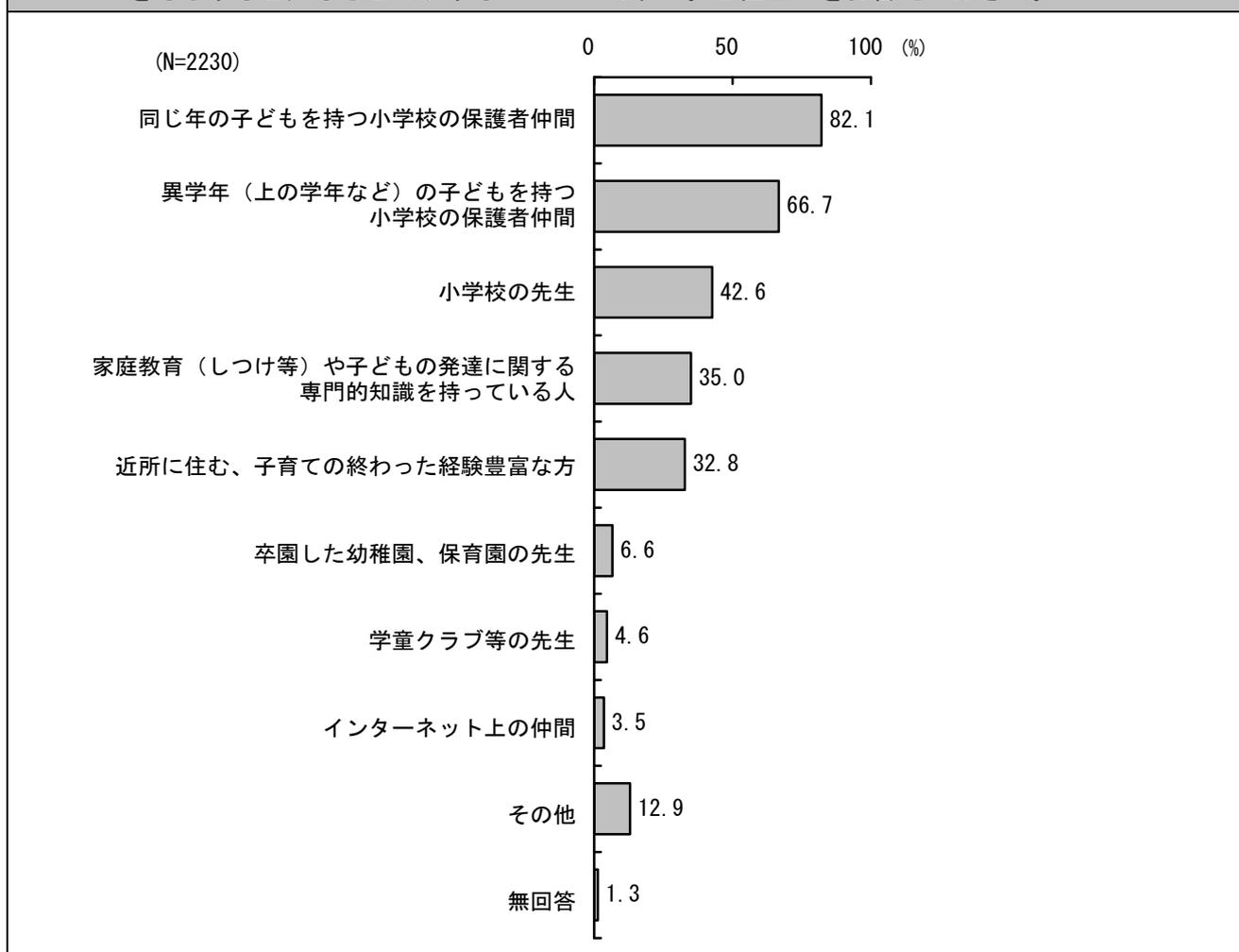
問 15-2 × 通園状況・地域のつながり



通園状況別に『家族以外に相談できる人がいない理由』について調べたところ、「幼稚園に通っていた」と回答した親では、「まわりに相談できる人がいない」(39.0%)、「相談することに抵抗がある」(16.9%)、の2項目で、「保育園に通っていた」と回答した親よりも選んだ割合が高くなっている。また、「保育園に通っていた」と回答した親では、「相談機関にかかるほど、大きな問題ではないと思う」(23.6%)「自分で考えて乗り越える問題だと思う」(13.5%)の2項目で、「幼稚園に通っていた」と回答した親よりも選んだ割合が高くなっている。

地域のつながり別に『家族以外に相談できる人がいない理由』について調べたところ、地域のつながりが深くなるにつれて「相談することに抵抗がある」と回答した割合が高くなっている。また、地域のつながりが希薄になるほど「自分で考えて乗り越える問題だと思う」と回答した割合が高くなっている。

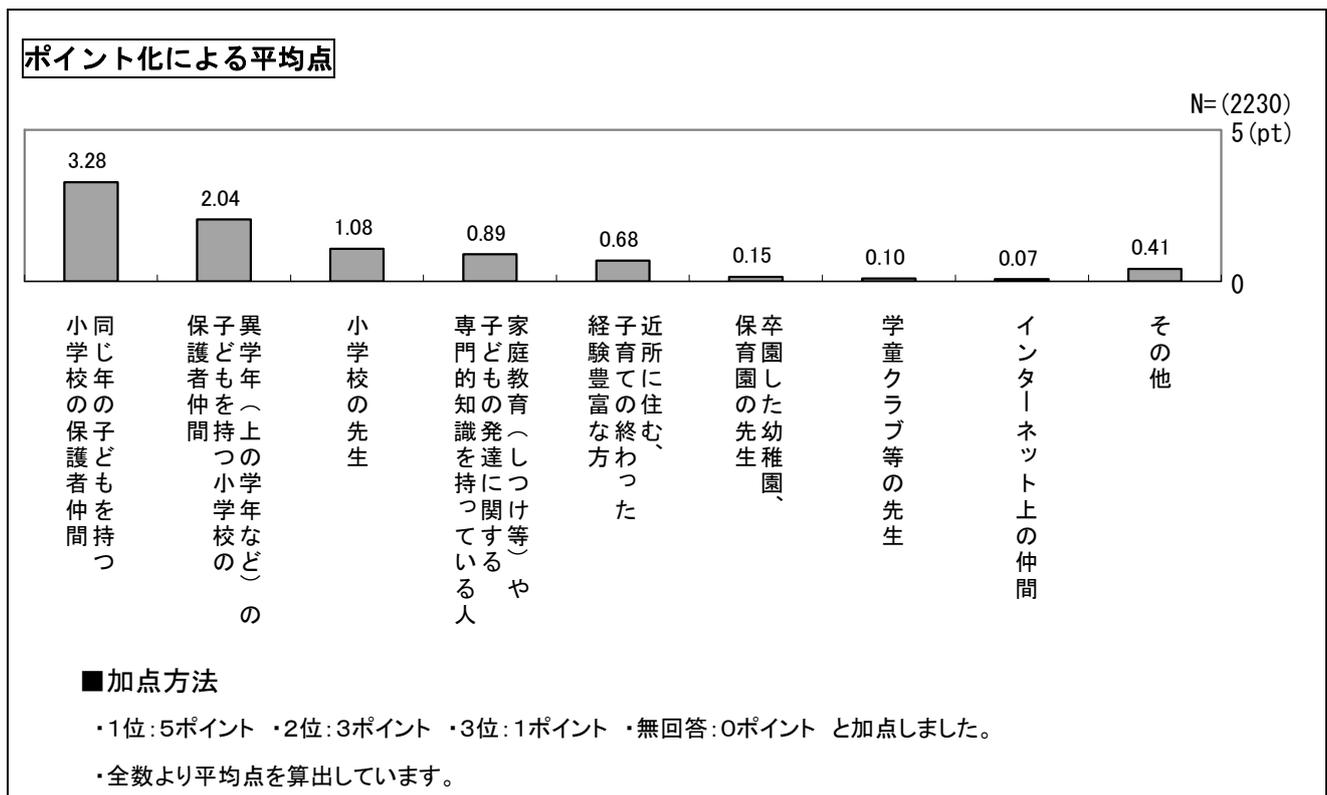
問16 これから、子育てについて話を聞いてもらう（ぐちを聞いてもらう、ちょっとしたアドバイスをもらうなど）ならどのような人がいいですか。上位三つをお答えください。



『今後子育てについて話を聞いてもらいたい相手』については、「同じ年の子どもを持つ小学校の保護者仲間」が82.1%と最も多く、次いで「異学年（上の学年など）の子どもを持つ小学校の保護者仲間」が66.7%、「小学校の先生」が42.6%、「家庭教育（しつけ等）や子どもの発達に関する専門的知識を持っている人」が35.0%、「近所に住む、子育ての終わった経験豊富な方」が32.8%などとなっている。

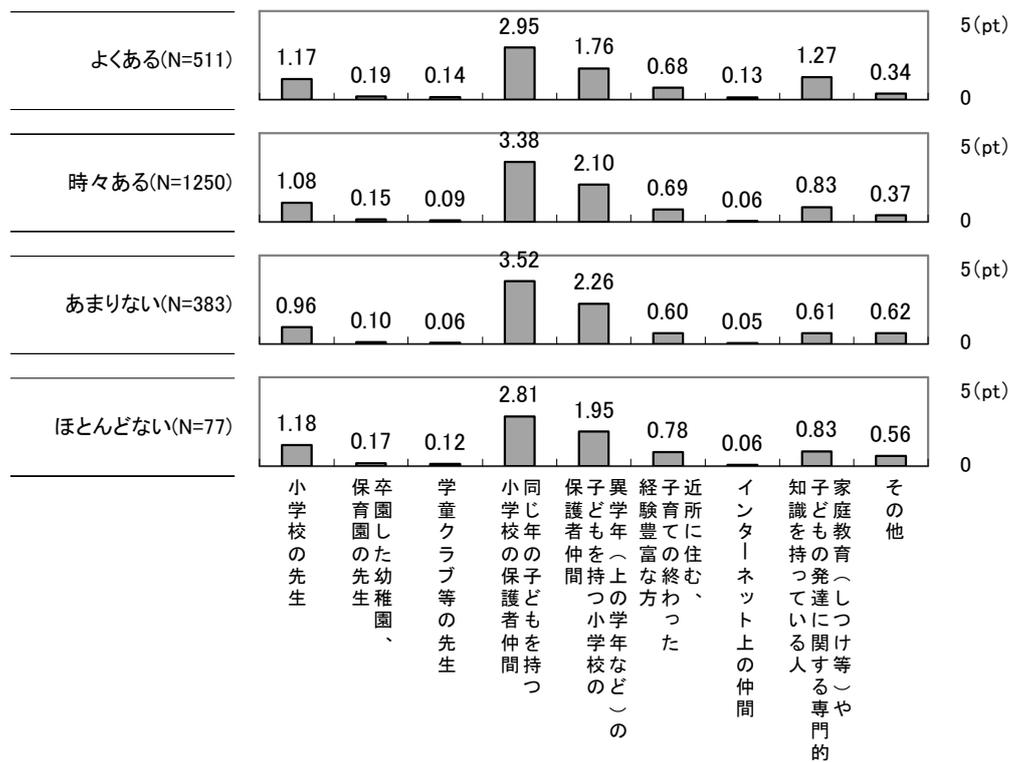
問14-1の『どんな人に話を聞いてもらっているか』の回答と比較すると、「これから、子育てについて話を聞いてもらう」人としては、「異学年（上の学年など）の子どもを持つ小学校の保護者仲間」、「小学校の先生」、「近所に住む、子育ての終わった経験豊富な方」を選ぶ割合が増加する傾向がある。

II 調査結果



『今後子育てについて話を聞いてもらいたい相手』については、「同じ年の子どもを持つ小学校の保護者仲間」が 3.28 ポイントと最も高く、次いで「異学年（上の学年など）の子どもを持つ小学校の保護者仲間」が 2.04 ポイント、「小学校の先生」が 1.08 ポイント、「家庭教育（しつけ等）や子どもの発達に関する専門的知識を持っている人」が 0.89 ポイント、「近所に住む、子育ての終わった経験豊富な方」が 0.68 ポイントなどとなっている。

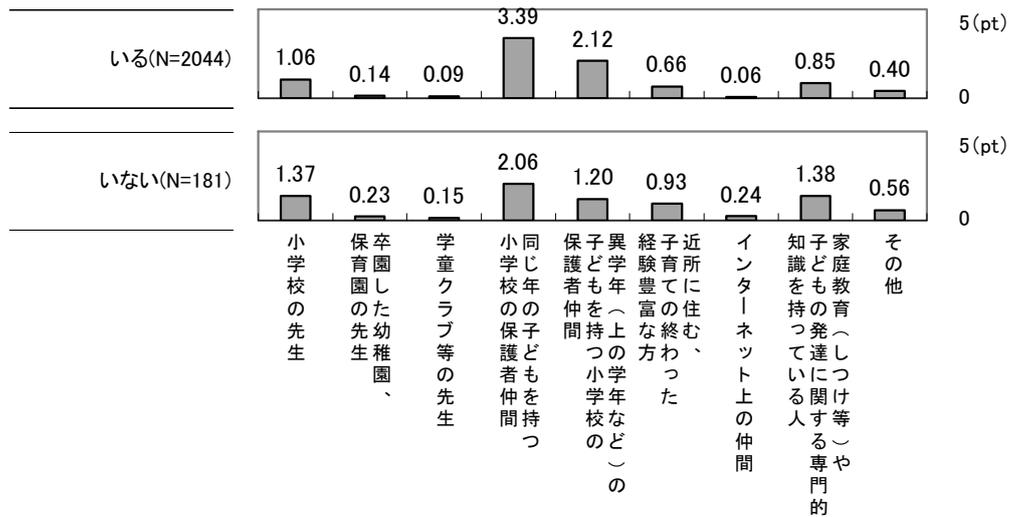
問 16 × 子育ての中で、悩んだり不安になったりすることはあるか



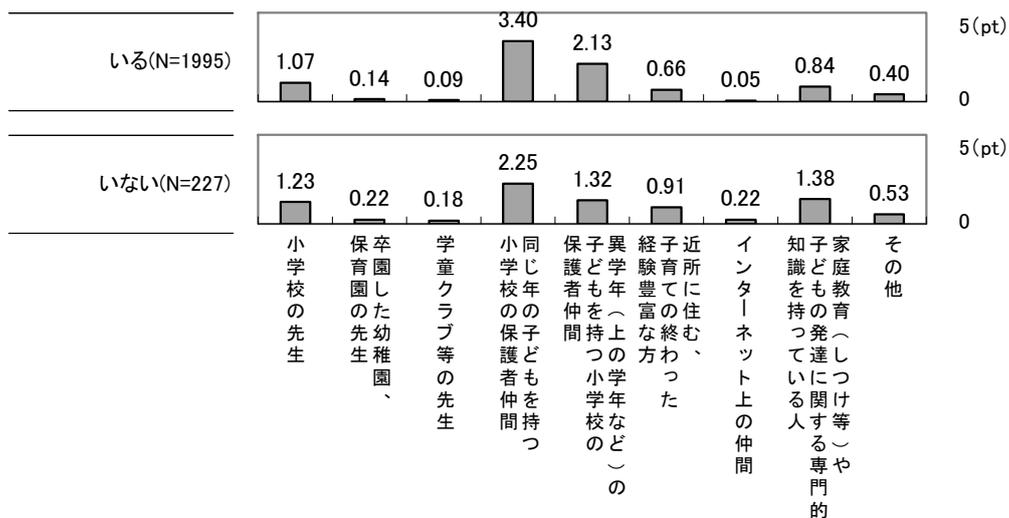
子育て中の悩みや不安の度合い別に『これから話を聞いてもらいたい人』について調べたところ、悩みや不安の有無に関わらず、「同じ年の子どもを持つ小学校の保護者仲間」が多くなっている。

II 調査結果

問16 × 子育てについて話を聞いてもらえる人はいるか

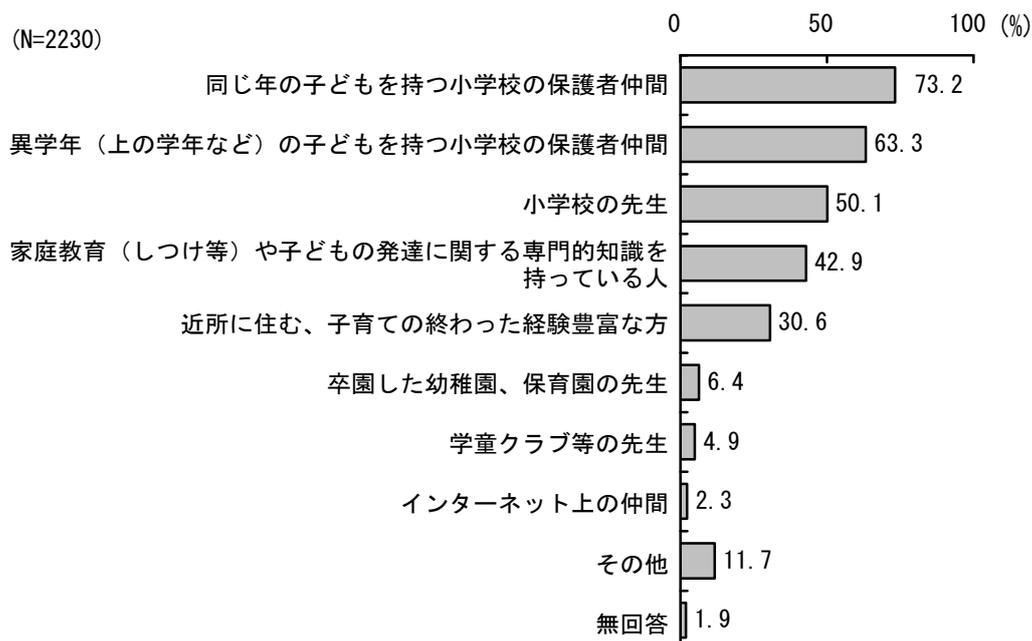


問16 × 子育てについて相談できる人はいるか



子育てについて家族以外で話を聞いてもらえる人の有無別、家族以外に相談できる人の有無別に、『これから話を聞いてもらいたい人』について調べたところ、いずれも、「いる」親では「同じ年の子どもを持つ小学校の保護者仲間」、「異学年（上の学年など）の子どもを持つ小学校の保護者仲間」と回答した割合が、「いない」親よりも高くなっている。「いない」親では「小学校の先生」、「近所に住む、子育ての終わった経験豊富な方」、「家庭教育（しつけ等）や子どもの発達に関する専門的知識を持っている人」が、「いる」親よりも高くなっている。

問17 これから、子育てについて相談をするならどのような人がいいですか。上位三つをお答えください。

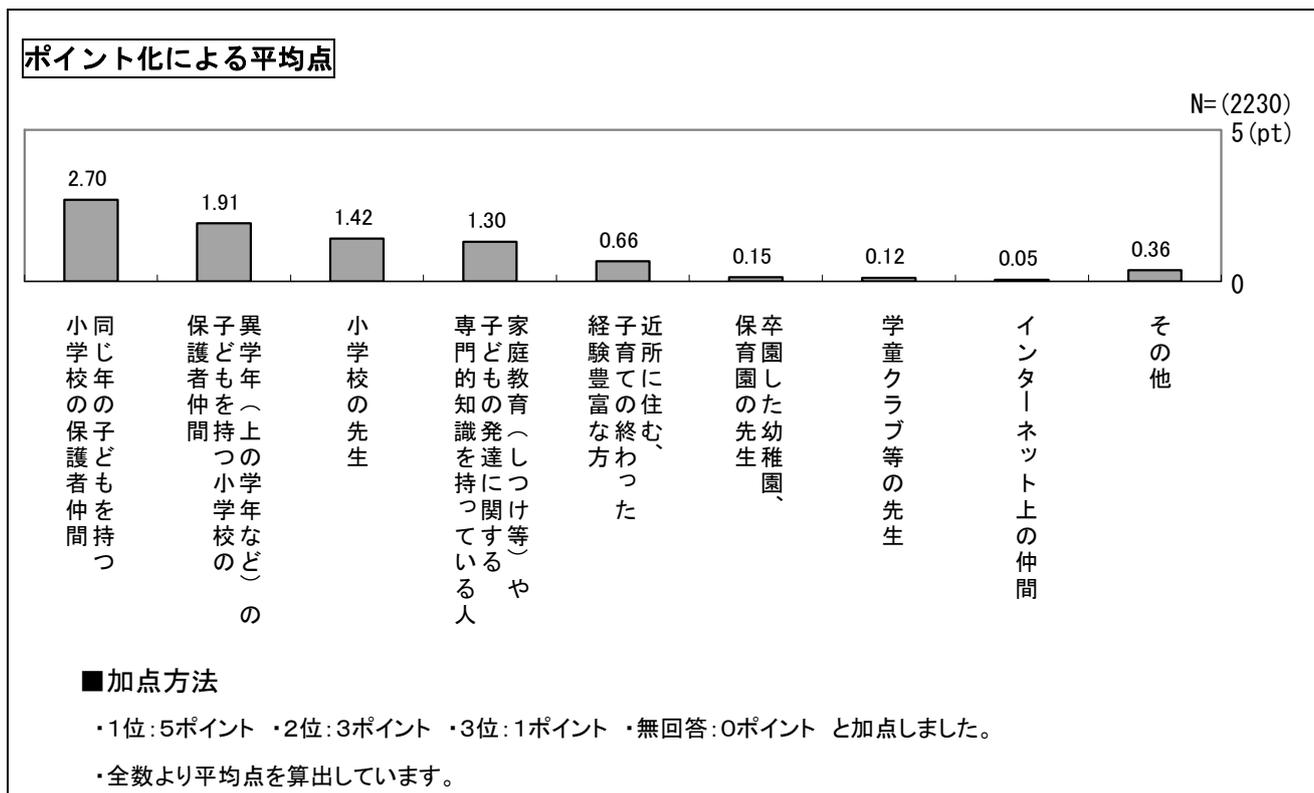


『今後子育てについて相談したい相手』については、「同じ年の子どもを持つ小学校の保護者仲間」が73.2%と最も多く、次いで「異学年（上の学年など）の子どもを持つ小学校の保護者仲間」が63.3%、「小学校の先生」が50.1%、「家庭教育（しつけ等）や子どもの発達に関する専門的知識を持っている人」が42.9%、「近所に住む、子育ての終わった経験豊富な方」が30.6%などとなっている。

問15-1の『どんな人に相談しているか』と比較すると、「これから、子育てについて相談する」としては、「異学年（上の学年など）の子どもを持つ小学校の保護者仲間」、「小学校の先生」、「近所に住む、子育ての終わった経験豊富な方」を選ぶ割合が増加する傾向がある。

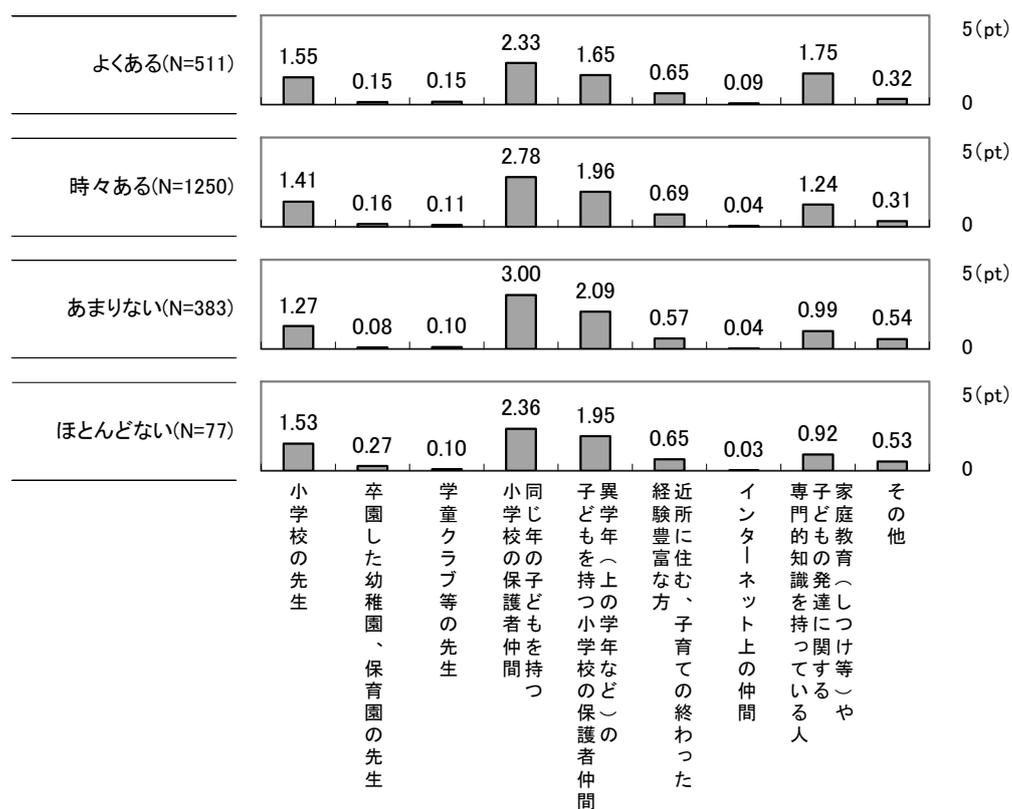
また、問16の『これから、子育てについて話を聞いてもらうならどのような人がいいですか』の回答と比較すると、上位は同様に「同じ年の子どもを持つ小学校の保護者仲間」、「異学年（上の学年など）の子どもを持つ小学校の保護者仲間」であった。

II 調査結果



『今後子育てについて相談したい相手』については、「同じ年の子どもを持つ小学校の保護者仲間」が 2.70 ポイントと最も高く、次いで「異学年（上の学年など）の子どもを持つ小学校の保護者仲間」が 1.91 ポイント、「小学校の先生」が 1.42 ポイント、「家庭教育（しつけ等）や子どもの発達に関する専門的知識を持っている人」が 1.30 ポイント、「近所に住む、子育ての終わった経験豊富な方」が 0.66 ポイントなどとなっている。

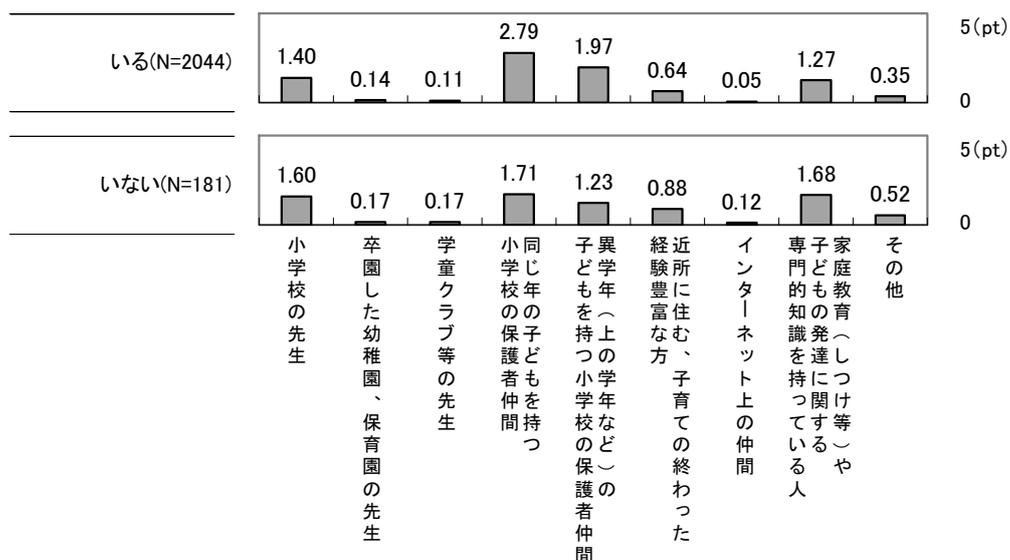
問 17 × 子育ての中で、悩んだり不安になったりすることはあるか



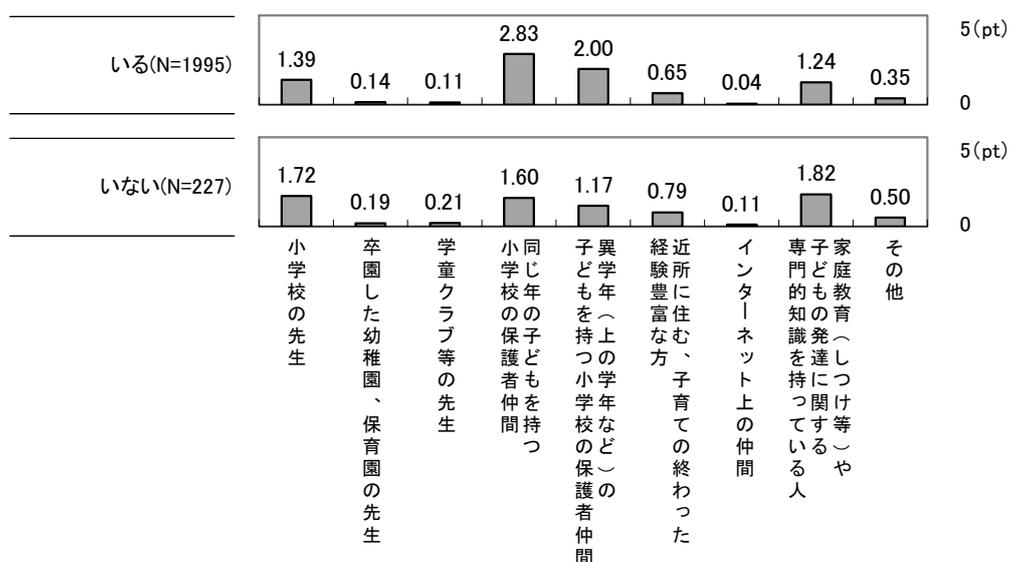
子育て中の悩みや不安の度合い別に『これから相談したい人』について調べたところ、「よくある」親は「家庭教育（しつけ等）や子どもの発達に関する専門的知識を持っている人」（1.75 ポイント）という回答が他の親よりも多くなっている。

II 調査結果

問17×子育てについて話を聞いてもらえる人はいるか

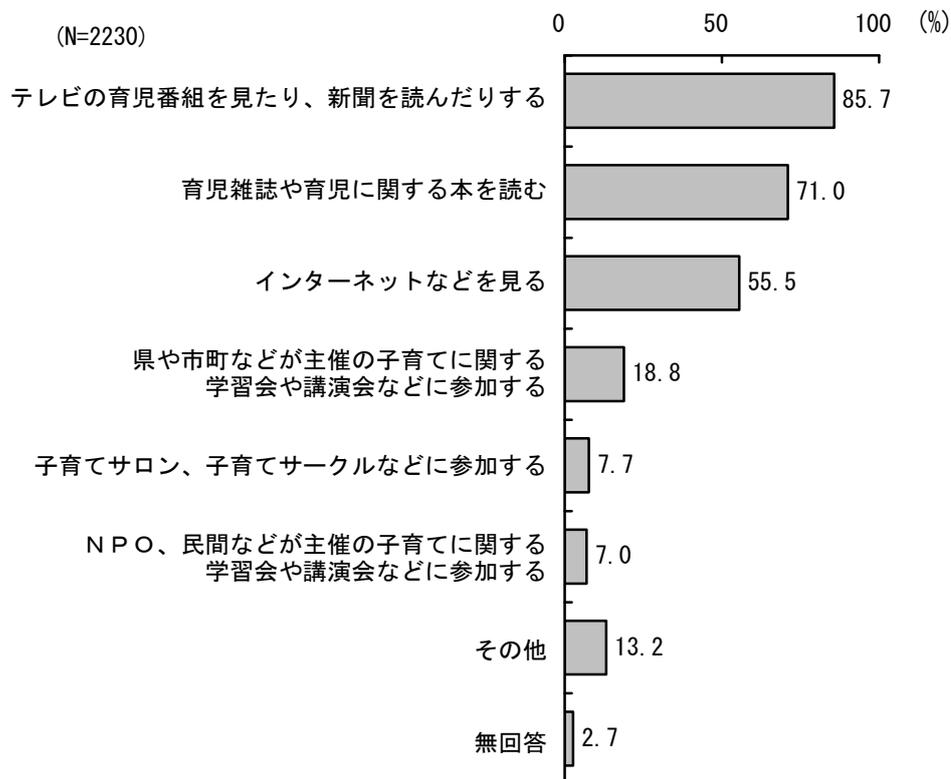


問17×子育てについて相談できる人はいるか



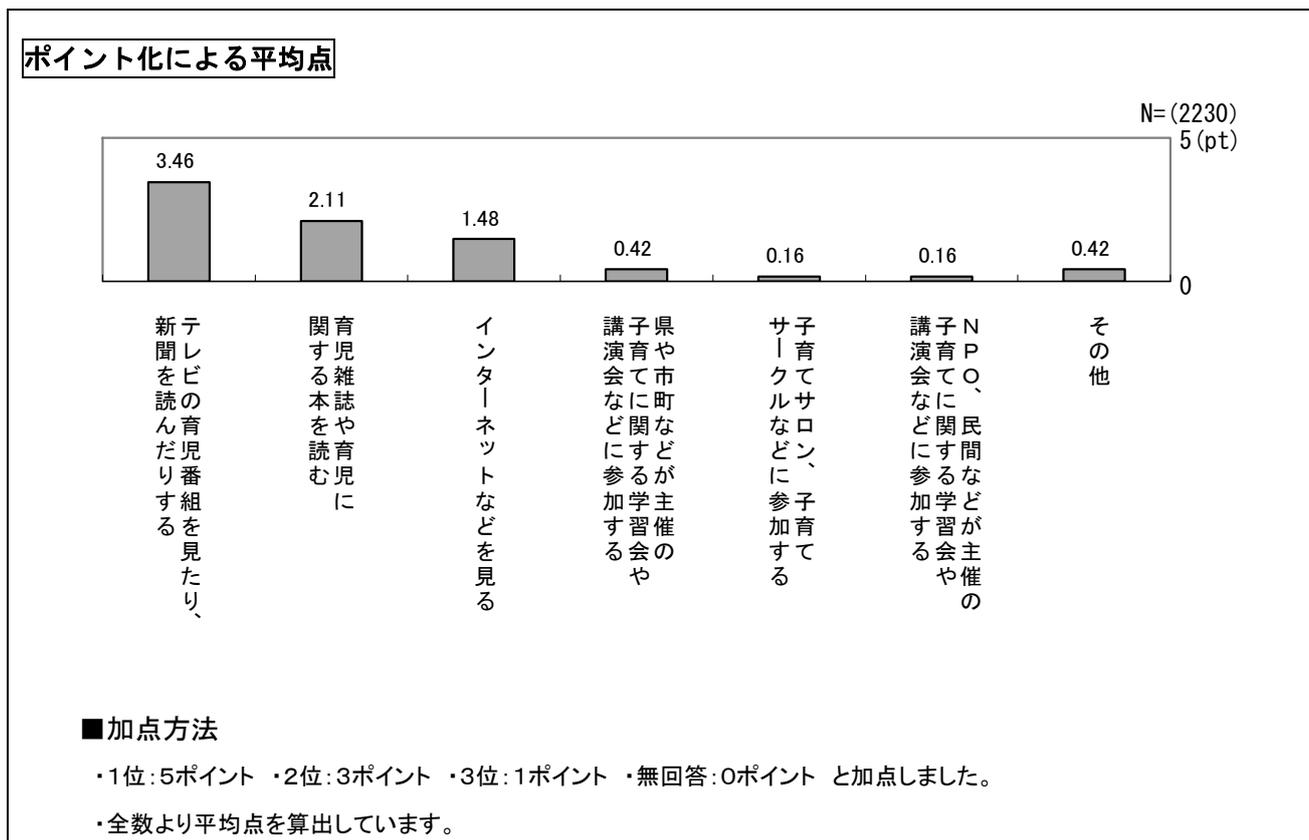
子育てについて家族以外で話を聞いてもらえる人の有無別、家族以外に相談できる人の有無別に、『これから相談したい人』について調べたところ、いずれも、「いる」親では「同じ年の子どもを持つ小学校の保護者仲間」、「異学年（上の学年など）の子どもを持つ小学校の保護者仲間」と回答した割合が、「いない」親よりも高くなっている。「いない」親では「小学校の先生」、「近所に住む、子育ての終わった経験豊富な方」、「家庭教育（しつけ等）や子どもの発達に関する専門的知識を持っている人」が、「いる」親よりも高くなっている。

問18 話を聞いてもらったり、相談したりする以外で、家庭教育（しつけ等）、子育てに関する知識等を現在どのように得ていますか。上位三つをお答えください。



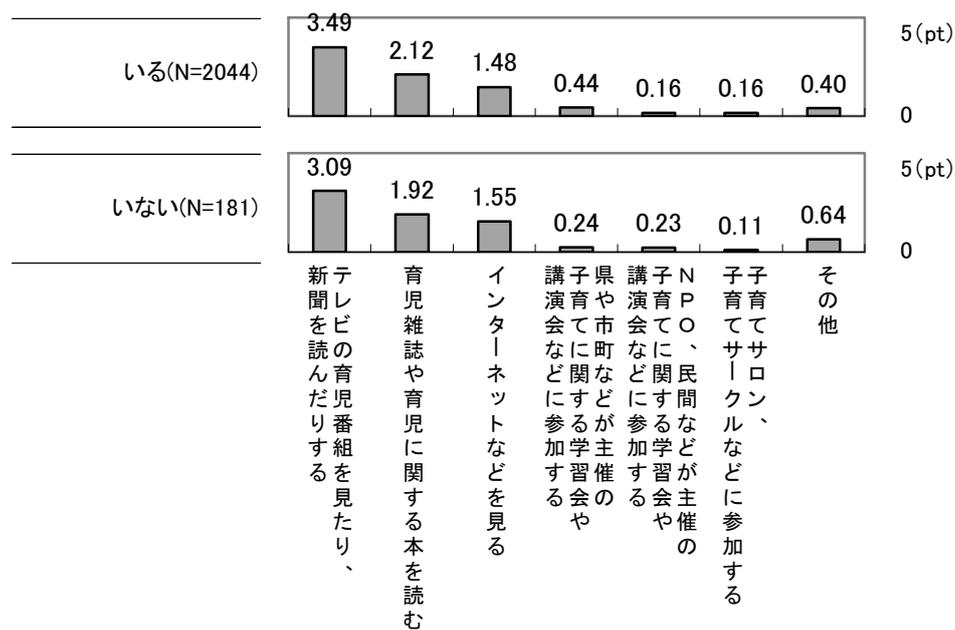
『話を聞いてもらったり相談したりする以外の、家庭教育（しつけ等）、子育てに関する知識等を得る方法』については、「テレビの育児番組を見たり、新聞を読んだりする」が85.7%と最も多く、次いで「育児雑誌や育児に関する本を読む」が71.0%、「インターネットなどを見る」が55.5%で、これら3項目が主となっている。

II 調査結果

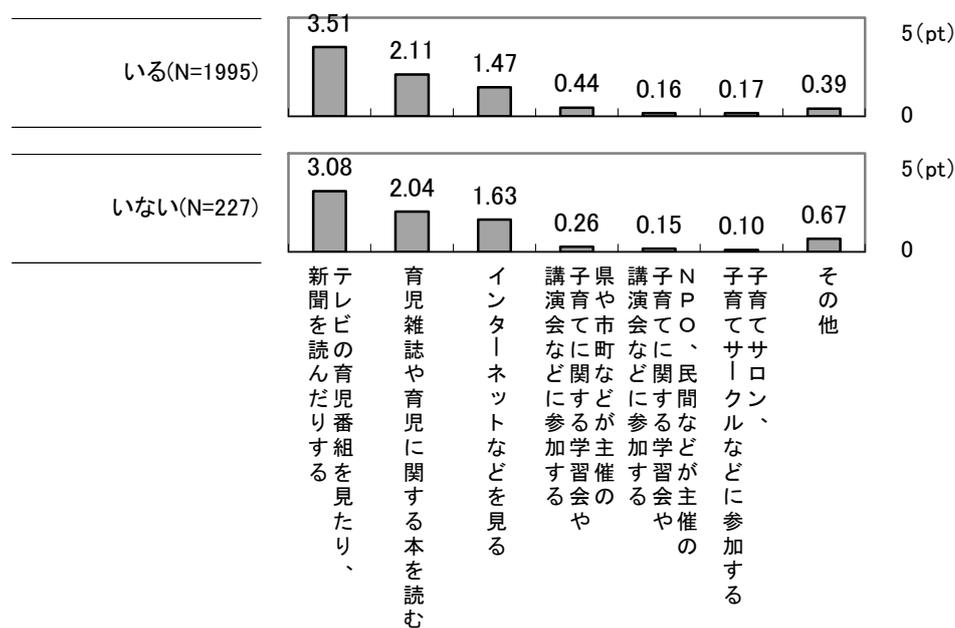


『話を聞いてもらったり相談したりする以外の、家庭教育（しつけ等）、子育てに関する知識等を得る方法』については、「テレビの育児番組を見たり、新聞を読んだりする」が 3.46 ポイントと最も高く、次いで「育児雑誌や育児に関する本を読む」が 2.11 ポイント、「インターネットなどを見る」が 1.48 ポイントで、これら 3 項目が主となっている。

問18×子育てについて話を聞いてもらえる人はいるか

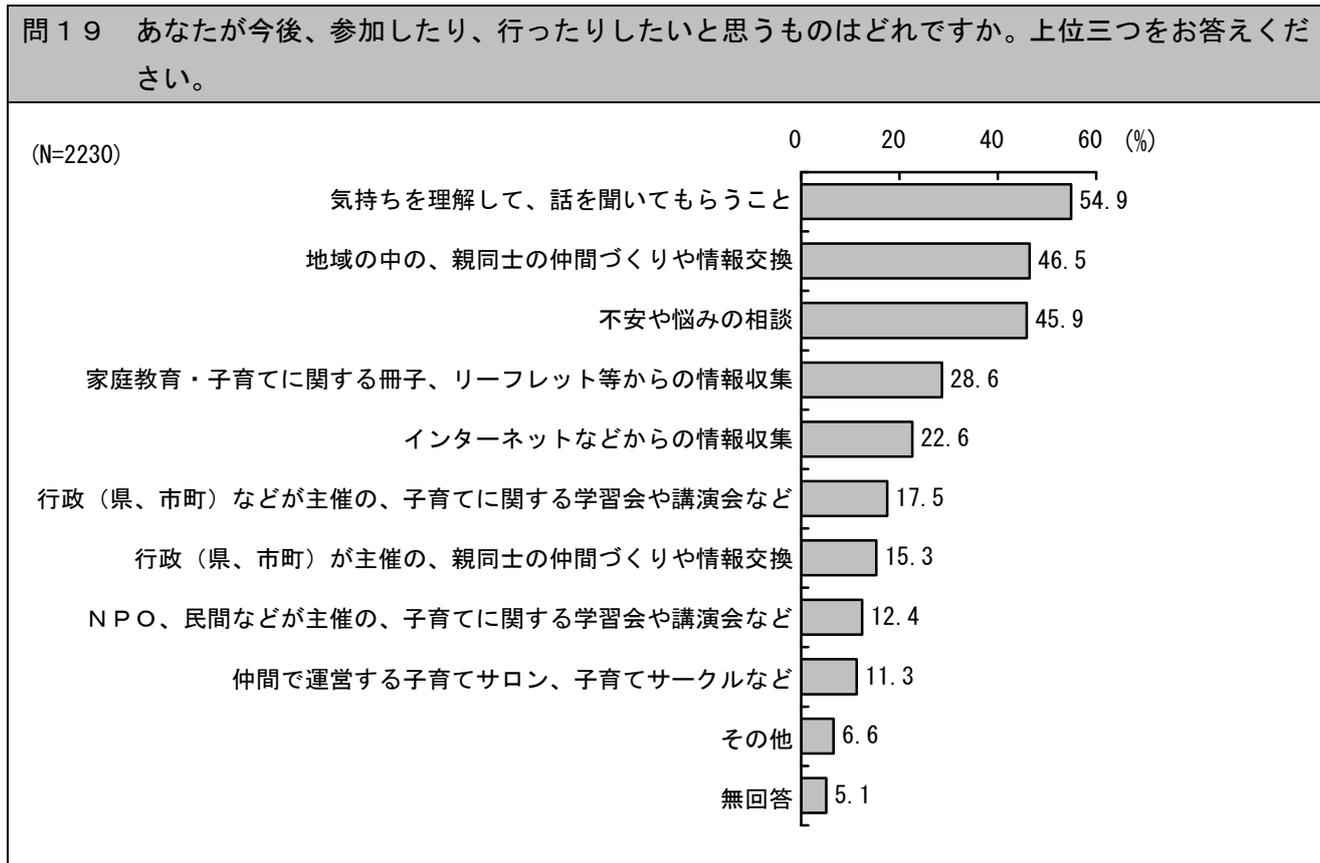


問18×子育てについて相談できる人はいるか

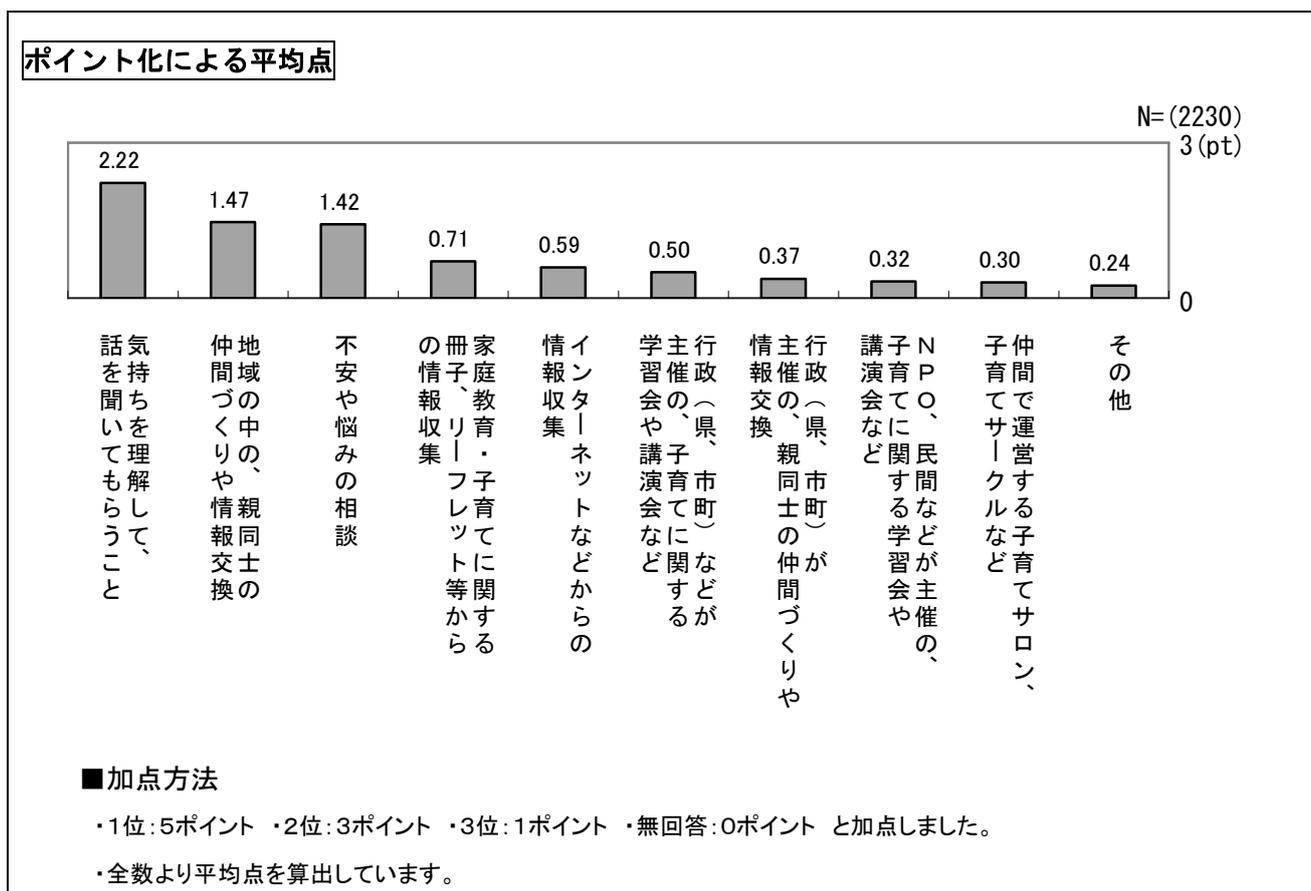


子育てについて家族以外に話を聞いてもらえる人の有無別、子育てについて家族以外に相談できる人の有無別に『子育てに関する知識等を得る方法』について調べたところ、いずれも、「いる」親は「テレビの育児番組を見たり、新聞を読んだりする」「育児雑誌や育児に関する本を読む」という回答が「いない」親よりも多くなっている。「いない」親では、「インターネットなどを見る」という回答が「いる」親よりも多くなっている。

II 調査結果



『今後参加したり、行ったりしたいと思うもの』については、「気持ちを理解して、話を聞いてもらうこと」が54.9%と最も多く、次いで「地域の中の、親同士の仲間づくりや情報交換」が46.5%、「不安や悩みの相談」が45.9%となり、直接人と出会っての活動を希望している割合が高いことがうかがえる。以下「家庭教育・子育てに関する冊子、リーフレット等からの情報収集」が28.6%、「インターネットなどからの情報収集」が22.6%などと続いている。



『今後参加したり、行ったりしたいと思うもの』については、「気持ちを理解して、話を聞いてもらうこと」が2.22ポイントと最も高く、次いで「地域の中での、親同士の仲間づくりや情報交換」が1.47ポイント、「不安や悩みの相談」が1.42ポイントとなり、直接人と出会っての活動を希望している割合が高いことがうかがえる。以下「家庭教育・子育てに関する冊子、リーフレット等からの情報収集」が0.71ポイント、「インターネットなどからの情報収集」が0.59ポイントなどと続いている。

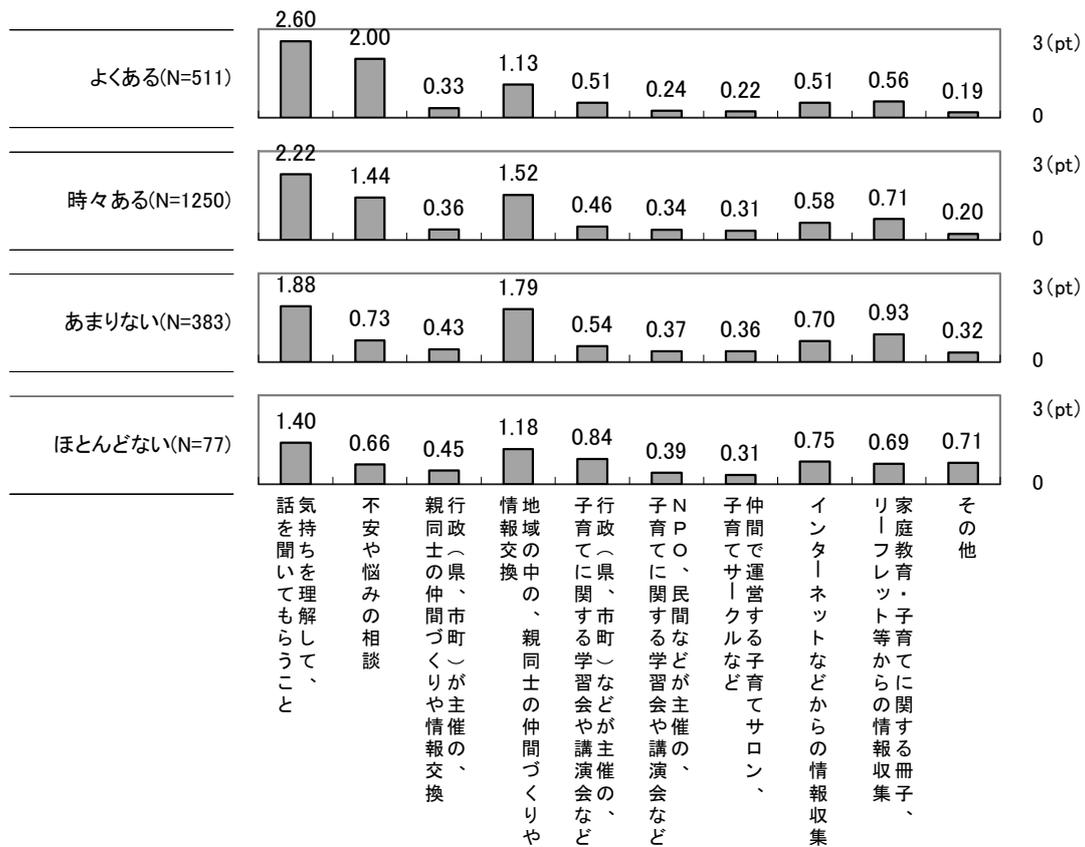
II 調査結果

問19×回答者の続柄



続柄別に『今後参加したり、行ったりしたいと思うもの』について調べたところ、「母」の上位は「気持ちを理解して、話を聞いてもらうこと」(55.6%)、「不安や悩みの相談」(46.4%)となっている。「父」の上位は「地域の中の、親同士の仲間づくりや情報交換」(47.6%)、「気持ちを理解して、話を聞いてもらうこと」(43.7%)となっている。また、「父」では「行政（県、市町）が主催の、親同士の仲間づくりや情報交換」(22.2%)という回答の割合が高くなっている。

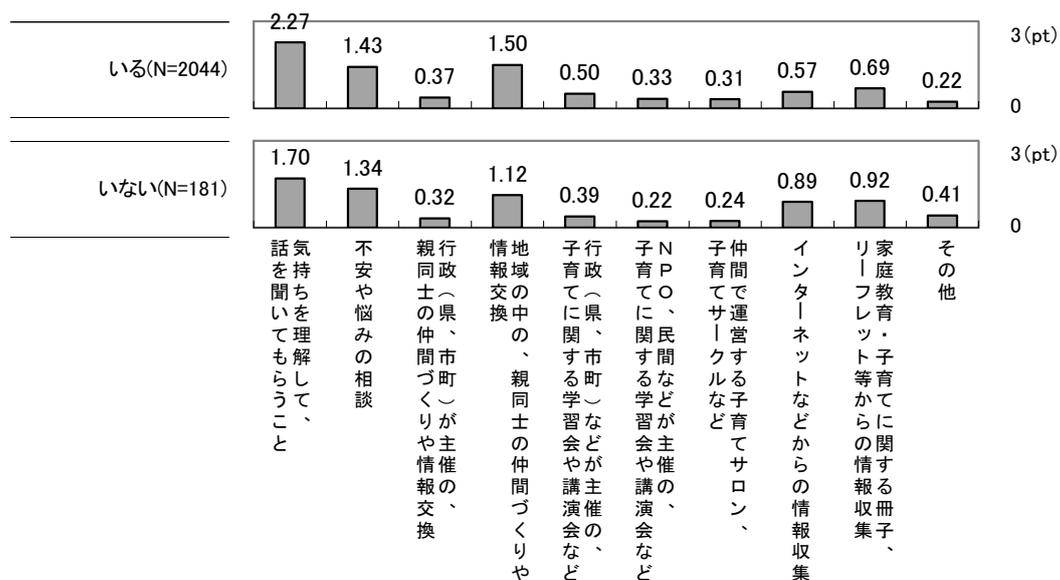
問 19 × 子育ての中で、悩んだり不安になったりすることはあるか



子育て中の悩みや不安の度合い別に『今後参加したり、行ったりしたいと思うもの』について調べたところ、度合いが高くなるにつれて「気持ちを理解して、話を聞いてもらうこと」、「不安や悩みの相談」という回答のポイントが高くなっている。「ほとんどない」親は「行政（県、市町）が主催の、親同士の仲間づくりや情報交換」（0.45 ポイント）、「行政（県、市町）などが主催の、子育てに関する学習会や講演会など」（0.84 ポイント）という回答が他の親よりも多くなっている。

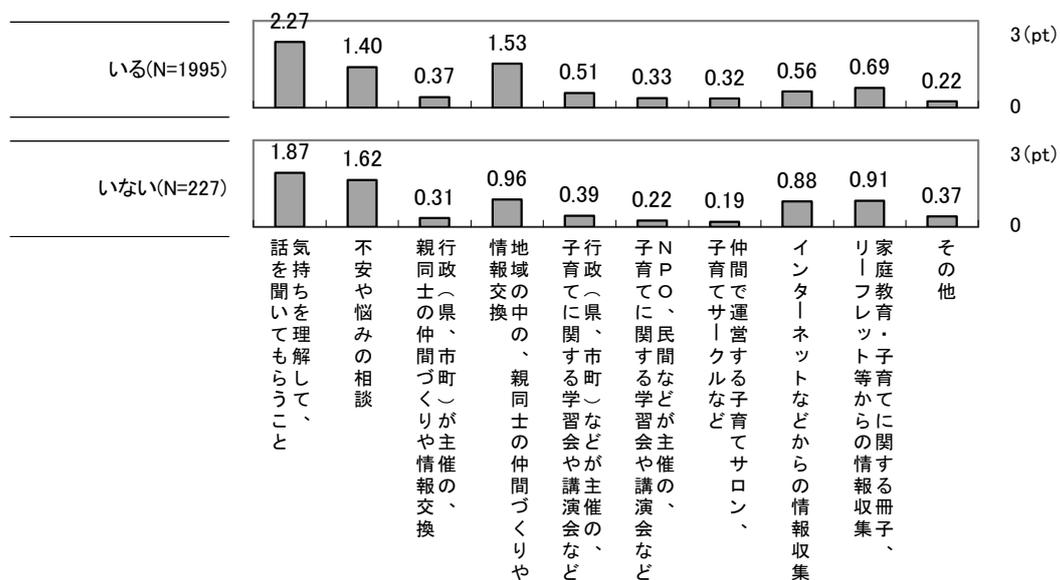
II 調査結果

問19×子育てについて話を聞いてもらえる人はいるか



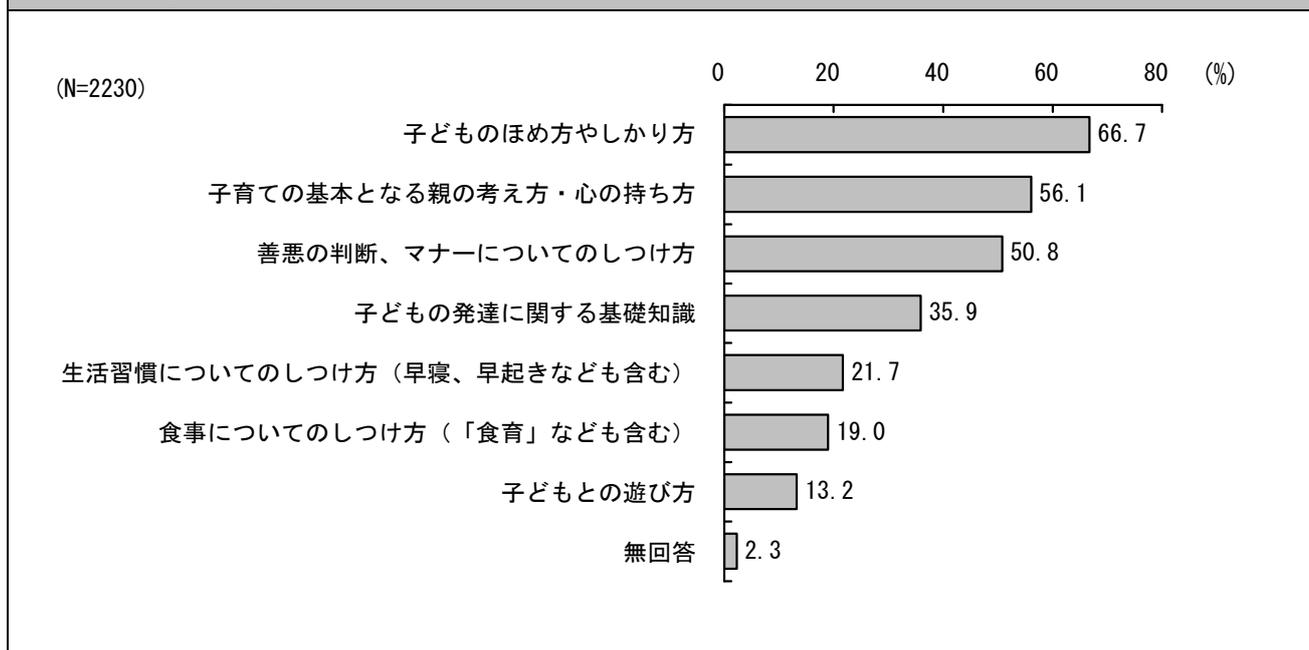
子育てについて家族以外で話を聞いてもらえる人の有無別に『今後参加したり、行ったりしたいと思うもの』について調べたところ、「いる」親は「気持ちを理解して、話を聞いてもらうこと」(2.27ポイント)、「地域の中の、親同士の仲間づくりや情報交換」(1.50ポイント)という回答が「いない」親よりも多くなっている。「いない」親は「インターネットなどからの情報収集」(0.89ポイント)、「家庭教育・子育てに関する冊子、リーフレット等からの情報収集」(0.92ポイント)という回答が「いる」親よりも多くなっている。

問19×子育てについて相談できる人はいるか



子育てについて家族以外に相談できる人の有無別に『今後参加したり、行ったりしたいと思うもの』について調べたところ、「いる」親は「気持ちを理解して、話を聞いてもらうこと」(2.27ポイント)、「地域の中の、親同士の仲間づくりや情報交換」(1.53ポイント)という回答が「いない」親よりも多くなっている。「いない」親は「不安や悩みの相談」(1.62ポイント)、「インターネットなどからの情報収集」(0.88ポイント)、「家庭教育・子育てに関する冊子、リーフレット等からの情報収集」(0.91ポイント)という回答が「いる」親よりも多くなっている。

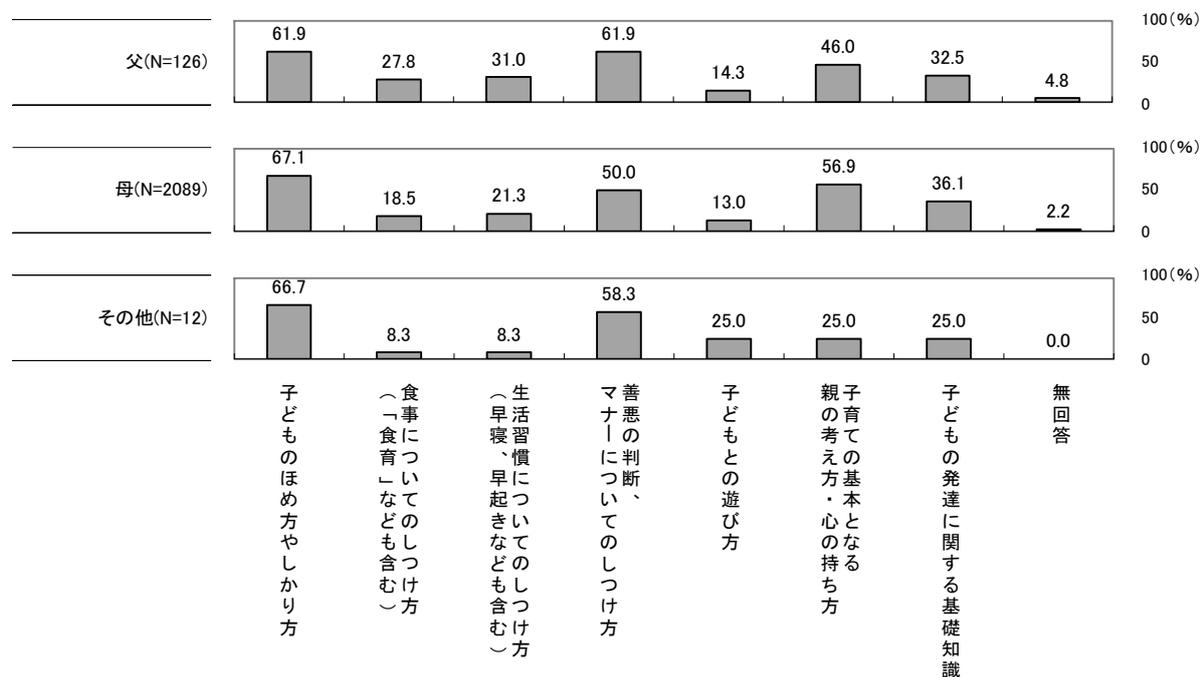
問20 アドバイスを受けたり、学習することができたりするとしたら、どのような内容を希望しますか。(〇はあてはまるものすべて)



『アドバイスを受けたり学習したりしたい内容』については、「子どものほめ方やしかり方」が66.7%と最も多く、以下「子育ての基本となる親の考え方・心の持ち方」が56.1%、「善悪の判断、マナーについてのしつけ方」が50.8%、「子どもの発達に関する基礎知識」が35.9%などと続いている。

II 調査結果

問20×回答者の続柄



続柄別に『アドバイスを受けたり学習したりしたい内容』について調べたところ、「母」の上位は「子どものほめ方やしかり方」(67.1%)、「子育ての基本となる親の考え方・心の持ち方」(56.9%)となっている。「父」の上位は「子どものほめ方やしかり方」、「善悪の判断、マナーについてのしつけ方」(ともに61.9%)、「子育ての基本となる親の考え方・心の持ち方」(46.0%)となっている。

III 調查票

Ⅲ 調査票

平成 23 年度 家庭教育実態調査

静岡県教育委員会社会教育課

この調査は、県内の小学校3年生のお子様をお持ちのご家庭について、家庭教育の様子や保護者の方の意識などの傾向を調べるために行うものです。調査の結果を目的以外に使用することは一切ありませんので、ありのままにお答えください。

この調査は、日ごろお子様に家庭教育を行っている（かかわる）ことが多い保護者の方がお答えください。

それぞれの質問について、調査票の記号を丸で囲むか、あるいは回答欄に記号を記入してください。また、回答として「その他」を選んだ場合には、横の（ ）内に簡潔にご記入ください。

なお、質問文中の「お子様」は、小学校3年生のお子様を基本としてお考え下さい。

ご記入後は、お手数ですが7月11日（月）までに学校へご提出ください。

問1 お子様との続柄をお答えください。（○は1つ）

- | | | |
|-----|-----|----------|
| 1 父 | 2 母 | 3 その他（ ） |
|-----|-----|----------|

問2 回答者の現在の年齢についてお答えください。（○は1つ）

- | | | |
|-----------|-----------|-----------|
| 1 29歳以下 | 2 30歳～34歳 | 3 35歳～39歳 |
| 4 40歳～44歳 | 5 45歳以上 | |

問3 家族（同居）の構成員をすべて選んでください（回答者を含む）。（○はあてはまるものすべて）

- | | |
|-----------|---------|
| 1 父 | 2 母 |
| 3 子ども（ ）人 | 4 祖父 |
| 5 祖母 | 6 その他の方 |

問4 お子様は、幼稚園または保育園に通っていましたか。幼保園（こども園）の場合は、実態に近い型の方をお答えください。（○は1つ）

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1 幼稚園に通っていた（幼稚園型） | 2 保育園に通っていた（保育園型） |
| 3 どちらにも通っていなかった | |

問5 住んでいる地域について、最も近いものを選んでください。（○は1つ）

- | |
|------------------------------------|
| 1 住民のつながりが深く、近所のつき合いがさかんな地域 |
| 2 住民のつながりがあり、地域の行事の時はみんなで取り組むような地域 |
| 3 近所のつながりがあまりなく、地域の行事への取り組みも低調な地域 |
| 4 近所とはお互いにかかわらない雰囲気がある地域 |

Ⅲ 調査票

問6 あなたの就業状態はどのようなですか。(○は1つ)

1 仕事をしている

2 仕事をしていない →問7へ

問6で「1」と答えた方がお答えください。

→ 問6-1 仕事の状況はどのようなですか。(○はあてはまるものを全て)

- 1 家で内職などを行っている
- 2 日中にパートタイムで働いている(家業を含む)
- 3 深夜や早朝にパートタイムで働いている(家業を含む)
- 4 フルタイムで働いている(家業を含む)

→ 問6-2 仕事の休みはいつですか。最も近いものを選んでください。(○は1つ)

- 1 土・日が休み
- 2 休みに土・日のどちらかが含まれる
- 3 平日のみ休み
- 4 不定休

問7 お子様への家庭教育(しつけ等)の中で、特に力を入れていること上位三つをお答えください。

- ① あいさつや返事、言葉づかい
- ② 約束やルールを守ること
- ③ 相手を思いやる気持ち
- ④ 善悪の判断
- ⑤ 公共の場や集団の中でのマナー
- ⑥ 片付け
- ⑦ 早寝早起き、食事などの基本的な生活習慣
- ⑧ 子どもの自主性の尊重
- ⑨ 友達との関わり方
- ⑩ スポーツなど、体を使う遊び
- ⑪ 芸術などの習い事
- ⑫ 読み聞かせ、読書
- ⑬ 手伝い
- ⑭ その他()
- ⑮ 特に重点を置いていることはない

※こちらに
番号を回答ください。

例) 1位	①
1位	
2位	
3位	

問8 お子様への家庭教育(しつけ等)の状況について、ご自分ではどのように思っていますか。最も近いものを選んでください。(○は1つ)

- 1 必要なことは、きちんと教育できている
- 2 足りない部分もあるが、教育できていることが多い
- 3 教育できていることもあるが、足りないことが多い
- 4 ほとんどのことが、きちんと教育できていない

問9 お子様とのかかわりの中で、お子様をほめることはありますか。(○は1つ)

- | | |
|-----------|------------|
| 1 よくほめる | 2 時々ほめる |
| 3 あまりほめない | 4 ほとんどほめない |

※問9で「1」「2」と答えた方がお答えください。

問9-1 ほめることについてどのような思いを持っていますか。最も近いものを選んでください。(○は1つ)

- 1 ほめることが、家庭教育(しつけ等)の中で大切なことだと思う
- 2 ほめることでのびのびと育てたい
- 3 ほめるようにしているが、うまくできないと感じる時もある
- 4 その他 ()

※問9で「3」「4」と答えた方がお答えください。

問9-2 ほめないことについてどのような思いを持っていますか。最も近いものを選んでください。(○は1つ)

- 1 むやみにほめて子どもを甘やかしたくない
- 2 他の家族がよくほめるので、自分はほめない
- 3 どんな時にほめたらよいのかわからない
- 4 子どもと接する時間が少なく、ほめる機会がない
- 5 その他 ()

問10 お子様とのかかわりの中で、お子様をしかることはありますか。(○は1つ)

- | | |
|------------|-------------|
| 1 よくしかる | 2 時々しかる |
| 3 あまりしからない | 4 ほとんどしからない |

※問10で「1」「2」と答えた方がお答えください。

問10-1 しかることについてどのような思いを持っていますか。最も近いものを選んでください。(○は1つ)

- 1 必要ときはしかることが、家庭教育(しつけ等)の中で大切なことだと思う
- 2 子どもを甘やかしたくない
- 3 必要ときはしかるが、うまくできないと感じる時もある
- 4 その他 ()

※問10で「3」「4」と答えた方がお答えください。

問10-2 しからないことについてどのような思いを持っていますか。最も近いものを選んでください。(○は1つ)

- 1 しかり過ぎると、子どもがのびのびと育たない
- 2 他の家族がよくしかるので、自分はしからない
- 3 どんな時にしかったらよいのかわからない
- 4 子どもと接する時間が少なく、しかる機会がない
- 5 その他 ()

Ⅲ 調査票

問 1 1 お子様とのかかわり全体について、どのように感じていますか。(○は1つ)

- 1 いつも、楽しさや幸せなどを感じている
- 2 楽しさや幸せなどを感じる時の方が多い
- 3 つらさや嫌だという思いを感じる時の方が多い
- 4 いつも、つらさや嫌だという思いを感じている

※問 1 1 で「1」「2」と答えた方がお答えください。

問 1 1-1 その理由として最も近いものを選んでください。(○は1つ)

- 1 子どもと一緒にいられることが幸せである
- 2 子どもの成長を見ることが楽しく、うれしい
- 3 子どもとともに、自分も成長しているという実感がある
- 4 子どもをもったことで、自分自身にも友人や仲間が増えた
- 5 その他 ()

※問 1 1 で「3」「4」と答えた方がお答えください。

問 1 1-2 その理由として最も近いものを選んでください。(○は1つ)

- 1 子どもとずっと一緒にいると、わずらわしく感じてしまう
- 2 自分の時間が取れず、やりたいことができない
- 3 家族の協力が少なく、自分だけに負担がかかっている
- 4 子育てに関して誰にも相談できない
- 5 その他 ()

問 1 2 子育ての中で、悩んだり、不安になったりすることがありますか。(○は1つ)

- 1 よくある
- 2 時々ある
- 3 あまりない →問 13へ
- 4 ほとんどない →問 13へ

※問 1 2 で「1」「2」と答えた方がお答えください。

問 1 2-1 悩んだり、不安になったりすることは、どんなことですか。

(○はあてはまるものすべて)

- 1 しつけの方法、タイミングがわからない
- 2 子育てについて、他の家族と意見が合わない
- 3 忙しく、余裕を持って子どもに接することができない
- 4 自分の子育てが正しいかどうか自信が持てない
- 5 自分の子育てについて、まわりの目や評価が気になる
- 6 その他 ()

問13 子育てをしていくにあたり、あなたを手助けしてくれる人は誰ですか。(○はあてはまるものすべて)

- 1 配偶者(夫、妻)が助けてくれる
- 2 同居の祖父母が助けてくれる
- 3 別居の祖父母が助けてくれる
- 4 兄弟の中で、年長の子どもが助けてくれる
- 5 特にいない
- 6 その他()

問14 子育てについて、家族以外で話を聞いてもらえる(ぐちを聞いてもらえる、ちょっとしたアドバイスをもらえるなど)人はいますか。(○は1つ)

- 1 いる
- 2 いない

※問14で「1」と答えた方がお答えください。

問14-1 その人はどのような人ですか。(○はあてはまるものすべて)

- 1 小学校の先生
- 2 卒園した幼稚園、保育園の先生
- 3 学童クラブ等の先生
- 4 同じ年の子どもを持つ保護者仲間
- 5 異学年(上の学年など)の子どもを持つ保護者仲間
- 6 近所に住む、子育ての終わった経験豊富な方
- 7 市や町の相談機関の担当者
- 8 NPOなど民間の相談機関の担当者
- 9 インターネットの交流サイトなどで知り合った、子育て仲間
- 10 その他()

※問14で「2」と答えた方がお答えください。

問14-2 それぞれいない理由として最も近いものを選んでください。(○は1つ)

- 1 まわりに話を聞いてもらえるような人がいない
- 2 話を聞いてもらうことに抵抗がある
- 3 相談機関がまわりにない
- 4 相談機関にかかるほど、大きな問題ではないと思う
- 5 本やインターネットなどで調べて解決できる
- 6 自分で考えて乗り越える問題だと思う
- 7 その他()

Ⅲ 調査票

問15 子育てについて、家族以外に相談できる人はいますか。(○は1つ)

1 いる	2 いない
------	-------

※問15で「1」と答えた方がお答えください。

問15-1 その人はどのような人ですか。(○はあてはまるものすべて)

- 1 小学校の先生
- 2 卒園した幼稚園、保育園の先生
- 3 学童クラブ等の先生
- 4 同じ年の子どもを持つ保護者仲間
- 5 異学年(上の学年など)の子どもを持つ保護者仲間
- 6 近所に住む、子育ての終わった経験豊富な方
- 7 市や町の相談機関の担当者
- 8 NPOなど民間の相談機関の担当者
- 9 インターネットの交流サイトなどで知り合った、子育て仲間
- 10 その他 ()

※問15で「2」と答えた方がお答えください。

問15-2 それぞれいない理由として最も近いものを選んでください。(○は1つ)

- 1 まわりに相談できる人がいない
- 2 相談することに抵抗がある
- 3 相談機関がまわりにない
- 4 相談機関にかかるほど、大きな問題ではないと思う
- 5 本やインターネットなどで調べて解決できる
- 6 自分で考えて乗り越える問題だと思う
- 7 その他 ()

問16 これから、子育てについて話を聞いてもらう(ぐちを聞いてもらう、ちょっとしたアドバイスをもらうなど)ならどのような人がいいですか。上位三つをお答えください。

- ① 小学校の先生
- ② 卒園した幼稚園、保育園の先生
- ③ 学童クラブ等の先生
- ④ 同じ年の子どもを持つ小学校の保護者仲間
- ⑤ 異学年(上の学年など)の子どもを持つ小学校の保護者仲間
- ⑥ 近所に住む、子育ての終わった経験豊富な方
- ⑦ インターネット上の仲間
- ⑧ 家庭教育(しつけ等)や子どもの発達に関する専門的知識を持っている人
- ⑨ その他 ()

※こちらに
番号を回答ください。

例) 1位	①
1位	
2位	
3位	

Ⅲ 調査票

問20 アドバイスを受けたり、学習することができたりするとしたら、どのような内容を希望しますか。(○はあてはまるものすべて)

- 1 子どものほめ方やしかり方
- 2 食事についてのしつけ方(「食育」なども含む)
- 3 生活習慣についてのしつけ方(早寝、早起きなども含む)
- 4 善悪の判断、マナーなどについてのしつけ方
- 5 子どもとの遊び方
- 6 子育ての基本となる親の考え方・心の持ち方
- 7 子どもの発達に関する基礎知識

※調査は以上で終了です。御協力ありがとうございました。

平成 23 年度 家庭教育実態調査
報 告 書

平成 23 年 11 月

静岡県教育委員会 社会教育課

〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号

電 話 054-221-3123

F A X 054-221-3362

電子メール kyoui_shakyo@pref.shizuoka.lg.jp

